

農業技術の基本指針

令和8年4月
農林水産省

「農業技術の基本指針」（令和8年4月）

（目 次）

はじめに	1
I 農政の重要課題に即した技術的対応の基本方向	2
（I） 我が国の食料供給	2
1 食料の安定供給の確保に向けた構造転換	2
2 食料自給力の確保	4
3 付加価値向上に向けた取組	18
4 農作業安全の確保と農業生産工程管理	24
5 動植物防疫の確実な実施	29
6 不測時における食料供給の確保	38
（II） 輸出の促進	39
1 農産物・食品の輸出の促進	39
2 品種のグローバル展開	41
（III） 国民一人一人の食料安全保障・持続的な食料システム	41
1 食品産業	41
2 食品安全・消費者の信頼確保	42
（IV） 環境と調和のとれた食料システムの確立・多面的機能の発揮	47
（V） 農村の振興	70
1 農福連携の推進	70
2 鳥獣被害防止対策の推進	71
（VI） 国民理解の醸成	74
（VII） 自然災害への対応	75
1 安全な農畜産物の供給に向けた対応	75
2 農作業における安全の確保等	78
II 営農類型別の技術的対応の方向	79
（I） 水田作	79
1 水稻	80
2 麦類	84
3 大豆	87
（II） 畑作	90
1 北海道畑作地域	90
2 その他地域	92
（III） 園芸	96
1 野菜	96
2 果樹	100
3 花き	105
（IV） 畜産	108
1 酪農	109

2	肉用牛生産	111
3	養豚	112
4	養鶏	114
5	アニマルウェルフェア（AW）の推進	115
6	飼料作物等	116
Ⅲ	その他、特に留意すべき技術的事項等	121
(Ⅰ)	自然災害等のリスクに備えるためのチェックリストと農業版BCP（事業継続計画書）	121
(Ⅱ)	農作業における安全の確保	122
(Ⅲ)	主要作目の災害等対策技術上の基本的留意事項	122
1	1 水稻	124
2	2 麦類	128
3	3 豆類	129
4	4 てん菜	131
5	5 ばれいしょ	132
6	6 さとうきび	133
7	7 かんしょ	133
8	8 茶	134
9	9 蚕糸	135
10	10 野菜	136
11	11 果樹	138
12	12 花き	144
13	13 園芸用施設の風害・雪害対策	146
14	14 畜産	150
(Ⅳ)	その他（農業技術総合ポータルサイト・農林水産「見える化」シリーズ（まるみえアグリ）サイト）	155
1	1 農業技術総合ポータルサイト	155
2	2 農林水産「見える化」シリーズ（まるみえアグリ）サイト	155

はじめに

本指針は、農政の重要課題に即した技術的な対応や、今後、農業の発展に資すると期待される新技術について、都道府県をはじめとする関係機関において、農業技術関連施策の企画、立案、実施等に当たっての参考となるよう取りまとめたもの。

<関連情報>

農林水産省 HP「食料・農業・農村基本法」

<https://www.maff.go.jp/j//basiclaw/index.html>

農林水産省 HP「食料・農業・農村基本計画」

https://www.maff.go.jp/j/keikaku/k_aratana/index.html

I 農政の重要課題に即した技術的対応の基本方向

(I) 我が国の食料供給

1 食料の安定供給の確保に向けた構造転換

(1) 土地利用型作物政策

国内生産の増大に資するよう、産地の持続性を確保するための高温対策、輪作体系の確立など、それぞれの品目の特性に合った対応を進めるとともに、農地の大区画化、水田の汎用化・畑地化、畑地整備等の基盤整備、スマート農業技術、適切な輪作体系、ブロックローテーションの導入、多収性や高温耐性等を備えた新品種の導入等による単収の向上等を通じて、生産性の抜本的な向上を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP 「「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」に基づく具体的な施策の内容」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/attach/pdf/anteikyokyukiban-18.pdf>

農研機構 HP 「様々な用途に向くお米の品種シリーズ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/nicsricete2024.pdf

農林水産省 HP 「多収品種に取り組むに当たって—多収品種の栽培マニュアル—」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/attach/pdf/siryoyoumai-2.pdf>

農林水産省 HP 「飼料用米生産コスト低減マニュアル」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/attach/pdf/siryouqa-256.pdf>

農研機構 HP 「極短穂茎葉型品種を活用したイネホールクroppサイレージ生産体系標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/6>

農研機構 HP 「乾田直播栽培体系標準作業手順書—プラウ耕鎮圧体系—「東北地方版」」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/3>

農研機構 HP 「水稻無コーティング種子代かき同時浅層土中播種栽培標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/76>

農林水産省 HP 「農業新技術 2008」(湿害や干ばつを防止する新地下水位制御システム)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/2008.pdf>

農林水産省 HP 「農業新技術 2013」(4tトラックに積載可能な小型汎用コンバイン)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/konbain.pdf>

農研機構 HP 「雑草イネ・漏生イネ防除技術マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/129066.html

農研機構 HP「雑草イネまん延防止マニュアル Ver.2」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/028068.html

農研機構 HP「水稻直播栽培における難防除雑草の防除」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/nipp_suidenchokuha_nambojozasso_bojo_20251031.pdf

農林水産省 HP「コメ中のカドミウム及びヒ素低減のための実施指針」

<https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/nouan/attach/pdf/251219-2.pdf>

農研機構 HP「高速高精度汎用播種機を活用した作物栽培体系標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/73>

農研機構 HP「大豆用高速畝立て播種機を活用した大豆栽培体系標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/116>

(2) 野菜・果樹政策

①加工・業務用野菜の国産シェア奪還に向け、輸入野菜のうち生鮮野菜及び冷凍野菜をターゲットとし、実需者と連携した加工・業務用産地への切替え、生産・流通が一体となって取り組む効率的サプライチェーン構築のためのスマート農業技術の導入や物流拠点、冷凍施設等の整備、消費者の国産選択に資する施策の充実等を推進する。② 野菜種子について、世界各地の適地に分散した生産による安定供給をより盤石なものとするため、国内外の採種地開拓や国内の効率的な採種技術の開発・実証等を支援する。③ 果樹について、国内外の需要に応えるため、生産基盤強化の加速化に向けて、園地の集積・集約化や基盤整備、省力樹形等への改植・新植、スマート農業技術の開発・導入等による労働生産性の向上のほか、温暖化の影響に対して、資機材による対策や高温適応性を有する品種の開発・普及等を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」に基づく具体的な施策の内容」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/attach/pdf/anteikyokyukiban-18.pdf>

農林水産省 HP「農業技術総合ポータル（露地野菜の技術情報）」

（「加工・業務用ハウレンソウ機械収穫体系マニュアル」）

（かぼちゃ新品種「栗のめぐみ2号」を育成）

（臭いや黄変の原因となる成分グルコラファサチンを含まない白首の F1 ダイコン品種「令白」）

（高温期でも生育が旺盛な夏どり用ネギ品種「夏もえか」）

(最高レベルの根こぶ病抵抗性を有するキャベツ F1 品種「YCR ふゆいろ」)
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutsuhasshin/techinfo/cabbage.html>
農研機構 HP「ブロッコリー花蕾の大型化によるフローレット増収技術」
https://www.naro.go.jp/project/results/4th_laboratory/nivfs/2020/nivfs20_s01.html
農研機構 HP「株元着果性に優れ良食味のかぼちゃ新品種「豊朝交1号」」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/156678.html
農研機構 HP「四季成り性のイチゴ新品種「夏のしずく」」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/141317.html
農研機構 HP「吸肥力と吸水力に優れ、植物工場等における安定生産のための養液栽培向けトマト台木用 F1 品種「ベースアップ」」
<https://www.naro.go.jp/collab/breed/0300/0310/136579.html>
農林水産省 HP「果樹農業の振興を図るための基本方針（果樹農業振興基本方針）」
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/fruits/attach/pdf/index-198.pdf>
農研機構 HP「省力樹形樹種別栽培事例集（第2版）」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138903.html
農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2015」
(果樹の樹体ジョイント仕立てを核とした省力、低コスト栽培システム)
https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology_cultivar/2015/list.htm
農研機構 HP「食味に優れ栽培しやすいコンパクトな樹姿(カラムナー性)のリンゴ新品種「紅つるぎ」を育成」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/niffts/163351.html
農研機構 HP「各地域に適したリンゴ早期成園化技術の開発と経営体における実証」 技術紹介資料
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134831.html
農研機構 HP「カキわい性台木「豊楽台(ほうらくだい)」標準作業手順書」
<https://sop.naro.go.jp/document/detail/110>
栃木県 HP「果樹の根圏制御栽培法導入マニュアル」
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/kajyu/konkenseigyoo.html>
農研機構 HP「果樹の温暖化被害(着色不良・日焼け・晩霜害)を予測するシステムを開発」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/niffts/173098.html

2 食料自給力の確保

(1) 生産資材の確保・安定供給

肥料について、原料供給事業者、肥料製造事業者、肥料利用者が連携して行う堆肥や下水汚泥資源等の国内肥料資源利用拡大や関係事業者の連携づくり等を進めるためのマッチング機会の提供等の取組を加速する。

飼料について、令和6(2024)年度における地域計画の策定を念頭に、耕種農家と畜産農家との長期かつ安定した飼料生産・利用体制の構築(耕畜連携)、飼料生産の担い手の確保(外部化)、飼料作物の生産に適した合理的な農地利用、稲わらを含む国産粗飼料の流通体制の確立等、生産・利用・流通の各段階の仕組みづくりに関する方向性を定める。

<関連情報>

農林水産省 HP 「「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」に基づく具体的な施策の内容」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/attach/pdf/anteikyokyukiban-18.pdf>

農林水産省 HP 「農業生産資材対策情報」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/index.html>

農林水産省 HP 「担い手の稲作コスト低減事例集」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/cost/jirei.html>

農林水産省 HP 「都道府県施肥基準等」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/hozen_type/h_sehi_kizyun

農林水産省 HP 「肥料のコスト低減」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/210528.html

農林水産省 HP 「肥料の流通合理化に関する検討会」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/200114.html

農林水産省 HP 「飼料生産組織の皆様へ」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/siryoseisannsosiki.html>

農林水産省 HP 「稲わらについて」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/inawara.html

(2) スマート農業技術の活用の促進や新品種の開発などによる「生産性の向上」

① スマート農業技術等の開発・普及促進

スマート農業技術は、人口減少下においても生産水準が維持できる生産性の高い食料供給体制を確立するために重要である。このため、令和6年に施行した「農業の生産性の向上のためのスマート農業技術の活用の促進に関する法律」(スマート農業技術活用促進法)に基づき、スマート農業技術等の開発・普及を進めるとともに、人材育成や高度情報通信ネットワークの整備、サイバーセキュリティ対策などの分

野についても、関係府省庁間で連携を図りながら、着実にスマート農業技術の活用を推進する。

スマート農業技術活用促進法では、生産と開発に関する課題を解決するため、

- ・スマート農業技術の活用と農産物の新たな生産の方式の導入をセットで相当規模で行い、農業の生産性を相当程度向上させる「生産方式革新実施計画」及び
- ・農業において特に必要性が高いと認められるスマート農業技術等の開発及び当該スマート農業技術等を活用した農業機械等又はスマート農業技術活用サービスの供給を一体的に行う「開発供給実施計画」

といった2つの計画認定制度を設け、認定を受けた者に対して税制・金融等の支援措置を講ずることにより、スマート農業技術の活用を促進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「スマート農業」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/index.html>

農林水産省 HP「スマート農業技術活用促進法について」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/houritsu.html>

農林水産省 HP「スマート農業技術の活用の促進に関する関係府省庁連絡会議」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/240712.html>

農林水産省 HP「農業新技術 製品・サービス集」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/products.html>

(2. ロボットトラクター)

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/attach/pdf/products-342.pdf>

(3. 自動操舵システム)

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/attach/pdf/products-341.pdf>

(6. リモコン草刈り機)

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/attach/pdf/products-345.pdf>

(9. 農業用ドローン・人工衛星(サービス含む)・無人ヘリ)

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/attach/pdf/products-335.pdf>

(10. 水管理システム)

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/attach/pdf/products-348.pdf>

農林水産省 HP「スマート農業実証プロジェクトについて」

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/smart_agri_pro/smart_agri_pro.htm

スマート農業実証プロジェクト成果ポータル

https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/seika_portal/index.html

農林水産省 HP「次世代につなぐ営農体系確立支援事業(令和元年度～令和3年度)」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/jisedai_senryaku.html

農林水産省 HP「農業新技術活用事例(令和5年度調査)」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/jirei/smajirei_2019.html

農林水産省 HP「農業用ドローンの普及拡大に向けた官民協議会」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/drone.html>

農林水産省 HP「農業機械の自動走行に関する安全性確保ガイドライン」

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/gizyutu/240327.html>

農林水産省 HP「農業分野における AI・データに関する契約ガイドライン」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/tizai/brand/keiyaku.html>

農林水産省 HP「自動走行農機等に対応した農地整備の手引き」

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/noukan/tyotei/kizyun/attach/tebiki.html>

農林水産省 HP「農業支援サービス関係情報」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/service.html>

農林水産省 HP「次世代型農業支援サービス」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/nougyousien.html>

② スマート 農業イノベーション推進会議（IPCSA）

スマート農業技術活用促進法及び基本方針に基づき、農業者が中心となって運営する多様なプレイヤーが参画したスマート農業イノベーション推進会議（IPCSA）を設置し、情報の収集・共有・発信、関係者間のマッチング、人材育成、技術的な検討等を通じ、スマート農業技術の開発と普及の好循環の形成を推進している。

<関連情報>

「スマート 農業イノベーション推進会議（IPCSA）」

<https://ipcsa.naro.go.jp/>

③ 新品種の活用

優れた新規育成品種は、他の技術と比べて農業者にとって導入コストが小さいことに加え、広域普及による経済効果が大きく、多収性、肥料利用効率向上、病害虫抵抗性、気候変動適応、省力栽培適性、良食味、高品質、機能性成分等、生産者や消費者のニーズに広く対応することが可能である。

<関連情報>

農林水産省 HP「みどりの品種育種方針」

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/221221-2.pdf>

農研機構 HP「品種紹介パンフレット」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/kind-pamph/index.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/index.html

農林水産省 HP「品種開発をめぐる情勢について」

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/hinsyu/attach/pdf/hinsyu_kaihatu-7.pdf

水稻

農研機構 HP「様々な用途に向くお米の品種シリーズ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/kind-pamph/137546.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2017」（カドミウムを吸収しない水稻品種「コシヒカリ環1号」）

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2017.html

農研機構 HP「多収・良食味米品種「にじのきらめき」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/22>

農研機構 HP「多収・良食味米品種「つきあかり」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/20>

農研機構 HP「多収・良食味米品種「ちほみのり」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/21>

農研機構 HP「冷凍米飯向け多収米品種「とよめき」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/99>

農研機構 HP「多収・良食味米品種「ほしじるし」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/97>

農林水産省 HP「農業新技術 2013」（生産しやすく栄養価の高い稲発酵粗飼料用水稻品種「たちすずか」）

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/tachisuzuka.pdf>

農研機構 HP「米粉用多収品種「笑みたわわ」の栽培技術 標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/79>

麦類

農研機構 HP「製パン性に優れ、多収の温暖地向けパン用小麦新品種「せときらら」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/048918.html

農研機構 HP「製パン適性に優れた寒冷地向け小麦新品種「夏黄金」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/075822.html

農研機構 HP「早生の西日本向けパン用小麦「はるみずき」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/131072.html

農研機構 HP「パン用小麦品種「はる風ふわり」の普及拡大」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/155294.html

農研機構 HP「もち性大麦品種標準作業手順書(2021年11月小改訂版)」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/4>

農林水産省 HP「最新農業技術・品種2017」(六条もち性大麦新品種「東山皮糯109号(ホワイトファイバー)」)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2017.html

農研機構 HP「関東・東海向けのもち性六条大麦品種「きはだもち」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/70>

農研機構 HP「もち性二条大麦品種「くすもち二条」の製品販売開始」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/132718.html

農研機構 HP「早生のウルチ性六条裸麦品種「ハルアカネ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/137937.html

農研機構 HP「多収の温暖地西部向け日本めん用小麦「びわほなみ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/129077.html

農研機構 HP「製パン性に優れコムギ縞萎縮病に強い小麦新品種「せとのほほえみ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/164955.html

農研機構 HP「福島県における小麦「夏黄金」栽培マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/163945.html

農研機構 HP「コムギ縞萎縮病抵抗性の寒冷地向け軟質小麦「ナンブキラリ」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/176>

農研機構 HP「中国・九州地域の高冷地でも安定生産が可能な早生・多収の秋播性二条オオムギ新品種「こはく二条」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/166014.html

農研機構 HP「ジャパニーズウイスキー向けオオムギ新品種「こはく雪」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/carc/166529.html

大豆

農林水産省 HP「大豆の品種」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/daizu/d_ziten/index.html

農研機構 HP「収量が高く豆腐に利用できるダイズ新品種「そらひびき」、「そらたかく」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/163266.html

農研機構 HP「収量が高く豆腐に利用できるダイズ新品種「そらみずき」、「そらみのり」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nics/160417.html

農林水産省 HP「納豆加工適性に優れたセンチュウ抵抗性大豆新品種「スズマルR」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/pdf/06.pdf

農研機構 HP「ダイズシストセンチュウに極めて強いダイズ品種「リョウユウ」」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/155653.html

農研機構 HP「大豆難裂莢品種群標準作業手順書」
<https://sop.naro.go.jp/document/detail/5>

農研機構 HP「ウイルス病に強い温暖地向け大豆品種「はれごころ」」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/144877.html

畑作

農林水産省 HP「ばれいしょの技術情報のページ」（ばれいしょの実用化技術情報）及び
（品種）

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutsuhasshin/techinfo/bareisyo.html>

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2022」（目が浅くて害虫に強い生食用早生ばれいしょ「ゆめいころ」）

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13768129/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2022/index.html

農研機構 HP「ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性が“中”の加工・生食用バレイショ品種「きたすずか」」

https://www.naro.go.jp/project/results/5th_laboratory/harc/2022/harc22_s02.html

農研機構 HP「ジャガイモシロシストセンチュウ抵抗性品種「フリア」の特性」

https://www.naro.go.jp/project/results/4th_laboratory/harc/2019/harc19_s14.html

農研機構 HP「長期貯蔵が可能なポテトチップ用バレイショ新品種「しんせい」を開発

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/172383.html

農研機構 HP「赤肉・紫肉色のカラフルポテト新品種「シャイニールビー」と「ノーブルシャドー」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/143574.html

農研機構 HP ばれいしょ品種「はるか」

<https://www.naro.go.jp/collab/breed/0100/0106/001696.html>

農研機構 HP「ばれいしょ新品種「ピルカ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/012976.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2018」（大玉で多収、病虫害に強いバレイショ新品種「アイマサリ」）

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/12996925/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2018.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2016」（高カロテノイドで良食味、複合病虫害抵抗性のバレイショ新品種「ながさき黄金」）

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2016.html

農林水産省 HP「農業新技術 2011」(ばれいしょ・かんしょでん粉の加工食品原料への用途転換を促進する品種)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/2011.pdf>

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2021」(萌芽が極めて優れ株出し栽培で多収なさとうきび新品種「はるのおうぎ」)

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2021/2021seika-21.html

農研機構 HP「沖縄本島地域で株出し多収となるサトウキビ新品種候補系統 RK10-1007」

https://www.naro.go.jp/laboratory/karc/prefectural_results/files/R04_2_01.pdf

農研機構 HP「株出し多収でビレットプランタでの植付けに適したサトウキビ新品種候補 RK10-29」

https://www.naro.go.jp/laboratory/karc/prefectural_results/files/R5_2_01.pdf

農研機構 HP「でん粉原料用カンショ新品種「こないしん」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/23>

農研機構 HP「8月の収穫直後から甘いサツマイモ新品種「あまはづき」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/carc/144297.html

農研機構 HP「冷涼な地域でも収量がとれるホクホクおいしいサツマイモ新品種「ゆきこまち」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/carc/150187.html

農研機構 HP「サツマイモ基腐病に抵抗性のある焼酎・でん粉原料用新品種「みちしづく」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/153663.html

農研機構 HP「ホクホク食感のおいしいサツマイモ新品種「ひめあずま」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/carc/155418.html

農研機構 HP「サツマイモ基腐病に強い抵抗性を有する青果用新品種「べにひなた」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/159534.html

農研機構 HP「沖縄向けサツマイモ基腐病抵抗性新品種「おぼろ紅」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/160514.html

農研機構 HP「マスカット様の香りを特徴とする芋焼酎の原料用さつまいも新品種「霧 N8-2」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/163833.html

農研機構 HP「加工にも青果にも使える沖縄向けサツマイモ基腐病抵抗性新品種「ニライむらさき」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/165287.html

農研機構 HP「多収でサツマイモ基腐病など複数の土壌病害虫に対する抵抗性をもつ原料用サツマイモ新品種「コガネタイガン」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/171412.html
農研機構 HP「一般的なサツマイモでん粉とは特性が異なる低温糊化性でん粉原料用サツマイモ新品種「こなみらい」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/171413.html
農研機構 HP「橙肉色の焼酎原料用サツマイモ新品種「はなあかね」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/171415.html
農研機構 HP「サツマイモ基腐病に強く収量・外観・食味に優れる沖縄向け青果用紅いも新品種「Hai-Sai すいと」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/172298.html
農研機構 HP「良食味かんしょ新品種「あまはづき」、「ゆきこまち」、「ひめあずま」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/190>
農研機構 HP「基腐病に強い赤紫肉色のサツマイモ新品種「さくらほのか」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/172297.html
農研機構 HP「北海道・東北地域に適したダブルローナタネ新品種「ペノカのしづく」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/137081.html
農研機構 HP「寒冷地向きナタネ新品種「きらきら銀河」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/061188.html
農研機構 HP「キラリボシ」

<https://www.naro.go.jp/collab/breed/0200/0204/001656.html>
農研機構 HP「なたね栽培の手引き(東北地方向け)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/naro-se/natane_saibai.pdf
農研機構 HP「テンサイ新品種「カチホマレ」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/138590.html
農研機構 HP「世界初の難脱粒性・難穂発芽性を併せ持つソバ新品種「はるかみどり」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/170362.html
農研機構 HP「普通ソバ品種「キタミツキ」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/52>

野菜

農林水産省 HP「農業技術総合ポータル(施設野菜の技術情報)」(施設野菜の実用化技術情報) および(品種)
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutsuhasshin/techinfo/housetomato.html>

農林水産省 HP「農業技術総合ポータル(露地野菜の技術情報)」(露地野菜の実用化技術情報) および(品種)
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutsuhasshin/techinfo/cabbage.html>

農研機構 HP「世界初の退緑黄化病抵抗性メロン「アールスアポロン」シリーズ 4 品種を育成」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/163956.html

農研機構 HP「株元着果性に優れ良食味のかぼちゃ新品種「豊朝交 1 号」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/156678.html

農研機構 HP「総ポリフェノール量が多く、抗酸化活性が高いイチゴ品種「ぽりっちご」(旧系統名:久留米 66 号)」

https://www.naro.go.jp/project/results/4th_laboratory/karc/2020/karc20_s08.html

農研機構 HP「四季成り性のイチゴ新品種「夏のしずく」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/141317.html

農研機構 HP「吸肥力と吸水力に優れ、植物工場等における安定生産のための養液栽培向けトマト台木用 F1 品種「ベースアップ」

<https://www.naro.go.jp/collab/breed/0300/0310/136579.html>

果樹

農研機構 HP「渋皮が簡単にむける早生のニホングリ新品種「ぼろすけ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/074118.html

農研機構 HP「自家和合性のウメ新品種「麗和」と「和郷」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/136639.html

農研機構 HP「西南暖地に向く早生モモ新品種「さくひめ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/076023.html

農研機構 HP「食味に優れ栽培しやすいコンパクトな樹姿(カラムナー性)のリンゴ新品種「紅つるぎ」を育成」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/163351.html

農研機構 HP「高温でも濃赤色に着色しやすく、食味も良い リンゴ新品種「錦秋」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/081278.html

農研機構 HP「高温でも着色しやすく、軟化もしにくい リンゴ新品種「紅みのり」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/081288.html

農研機構 HP「高温でも容易に着色する極大粒のブドウ新品種「グロースクローネ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/079722.html

農研機構 HP「皮ごと食べられる赤色のブドウ新品種「サニーハート」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/169442.html

農研機構 HP「極早生で良食味のニホンナシ新品種「蒼月」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/170345.html

花き

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略」技術カタログ ver. 6.0 1. 現在普及可能な技術

(夏の暑さに強い「スプレー愛知夏2号」「スプレー愛知夏3号」)

(気象変動に左右されない安定した開花特性を持つ小ギク品種の育成)

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/06_midori_catalog5_flower.pdf#page=2

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略」技術カタログ ver. 6.0 2. 2030年までに利用可能な技術

(菱凋細菌病抵抗性を有するカーネーション新品種の育成)

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/06_midori_catalog5_2030_lower.pdf#page=4

農研機構 HP「ダリア・エターニティシリーズに新品種登場 良日持ち性ボール咲き品種「エターニティファイヤー」を追加(2026.02)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/174254.html

農研機構 HP「切り花の日持ちが優れるダリアエターニティシリーズの新品種「エターニティムーン」、「エターニティサンセット」(2024.03)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/162086.html

農研機構 HP「切り花の日持ちが優れるダリアエターニティシリーズの新品種「エターニティピーチ」、「エターニティシャイン」(2023.5)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/158348.html

農研機構 HP「良日持ち性のダリア新品種「エターニティトーチ」、「エターニティロマンス」、「エターニティルージュ」を育成(2020.10)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/136828.html

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略技術カタログ ver. 6.0」(淡ピンク花色で日持ちが極めて良いカーネーション品種「カーネアイノウ1号」)

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/06_midori_catalog5_flower.pdf#page=5

農林水産省 HP「最新農業技術・品種2022」(日持ち性が極めて良いカーネーション品種「カーネフジ愛農1号」)

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2022/2022seika-13.html

茶

農研機構 HP「日本茶海外輸出に資する緑茶新品種「せいめい」栽培・加工技術標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/9>

農研機構 HP「病虫害抵抗性で耐寒性が強い緑茶用中生品種「かなえまる」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/147>

農研機構 HP「茶品種ハンドブック第6版」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/cha_hinshu_handbook06.pdf

畜産

農研機構 HP「飼料作物の一覧」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/kind-pamph/08/index.html

農研機構 HP「飼料作物の品種一覧」

<https://www.naro.go.jp/collab/breed/0500/index.html>

農研機構 HP「米とワラの多収を目指して2017—飼料用米、稲発酵粗飼料用品種—」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/kometowara2017.pdf

農研機構 HP「夏ごしペレ栽培マニュアル(寒冷地暫定版)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134486.html

農林水産省 HP「優良品種の活用について」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/yuryouhinsyu/katsuyou.html>

④ データを活用した施設園芸への転換

野菜等の周年安定供給に貢献するとともに、所得の向上と地域の雇用創出が見込まれる有望な経営部門である施設園芸の生産性向上を図っていくため、データの「見える化」と分析・共有によって高い生産性を実現する施設園芸の取組拡大を推進する。さらに、大宗を占める従来型の既存ハウスにおける取組も推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「施設園芸のページ」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/index.html>

⑤ 生育ステージの把握・予測の推進

生育ステージに応じた適切な栽培管理は、病虫害被害の低減や適時の追肥等によって安定生産につながるため、生育ステージを把握・予測することができる衛星画像やドローンセンシング、生育予測システム等の活用を推進する。特に米との輪作やブロックローテーションで栽培する麦・大豆については、播種や収穫の作業の重

なりによって作業適期を逃すことによる減収や低品質化を抑えるために、積極的な導入を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「予測を含む気象データを利用した水稲、小麦、大豆の栽培管理支援システム」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2020/2020seika-25.html

農研機構 HP「リアルタイムに低温積算時間の実況と予測値を表示」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/156549.html

⑥ 生産コスト低減対策

「食料・農業・農村基本計画」に基づき、担い手への農地の集積・集約化に加え、大規模経営に適合した省力技術、多収品種や作期分散の導入等に取り組む。また、農業資材費低減の取組については、「農業競争力強化支援法」及び「農業競争力強化プログラム」に基づき、引き続き、生産資材価格の調査・公表等を通じた有利な条件を提示する農業生産関連事業者との取引の促進を図るとともに、農業支援サービスの利用拡大を通じた資材利用面でのコスト低減の取組を推進する。飼料用米については、多収品種の活用や多肥栽培を行うことにより、多収の実現に取り組むとともに、省力化等により生産性を向上させる。

ア 大規模経営に適合した省力技術・多収品種や作期分散の導入

生産コストを低減しつつ、需要に即した農産物を安定的に供給していくためには、生産技術の改善に意欲のある農業者の確保と、これら農業者への農地の利用集積・集約化等による農作業の効率化、経営・作業規模に見合った効率的な経営方式や生産技術体系等への見直しが必要である。

<関連情報>

農林水産省 HP「最新農業技術・品種」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/index.html

農林水産省 HP「農業新技術 2007」

(不耕起汎用播種機(水稲・麦・大豆))

(大豆の安定多収生産「大豆 300A 技術」)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology.htm

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2017」

(べんがらとモリブデン化合物で種子を被膜した水稲湛水直播(べんもり直播))

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2017.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2022」

(耐倒伏性品種の根出し種子を用いた水稲無コーティング種子浅層土中播種栽培)

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2022/2022seika-01.html

農林水産省 HP「水稲直播栽培」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/chokuha.html>

イ 農業資材費低減等

農業資材費は生産コストにおける一定の割合を占めており、農業所得の向上には農業資材費の引下げが重要である。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業生産資材対策情報」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/index.html>

農林水産省 HP「担い手の稲作コスト低減事例集」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/cost/jirei.html>

(ア) 肥料コスト低減対策の推進

化学肥料の使用量の低減

原料を海外に依存する化学肥料の使用量の低減に向けた適正施肥の取組を後押ししていくことに加え、堆肥等の有機質肥料の活用、肥料の国産化に向けた製造施設の整備を推進する。

肥料の流通の改善

昨今のトラック運送業における労働力不足等を受け、肥料価格への労務費転嫁が求められる状況にあるため、肥料の流通について合理化を図る必要がある。繁忙期には一部のメーカーで荷待ち・荷役に2時間越を要する場合があるため、肥料業界団体が定めた自主行動計画に沿って「予約受付システム」の導入やパレットの利用拡大を後押しする。

<関連情報>

農林水産省 HP「都道府県施肥基準等」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/hozen_type/h_sehi_kizyun

農林水産省 HP「肥料のコスト低減」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/210528.html

農林水産省 HP「肥料の流通合理化に関する検討会」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/200114.html

(イ) 農業資材の価格情報の活用

農業資材コストの低減に向け、国が公表する農業資材価格の調査結果の活用を促す。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業資材の供給の状況に関する調査について」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/nougyo_kyousou_ryoku/sienhou/attach/pdf/index-8.pdf

⑦ 農地土壌対策の推進

土壌分析等による土壌の状態の把握に努め、その状態に応じ、輪作や緑肥作物の導入等の作付け体系の見直し、堆肥等の有機物や土壌改良資材の投入等を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「土づくり関連情報」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/tuchi_kanren.html

農研機構 HP「緑肥作物・カバークロープ導入ガイド」

<https://www.naro.go.jp/laboratory/carc/organic/ryokuhi-sakumotsu/donyu-guide.html>

農研機構 HP「緑肥作物・カバークロープに関する利用マニュアル・手引きなど」

<https://www.naro.go.jp/laboratory/carc/organic/ryokuhi-sakumotsu/manual.html>

(3) 農業支援サービス事業者の活用

スマート農機の導入コストを低減し、その普及拡大を進めるため、ドローンを使った農薬散布等の専門作業の受注や農業機械のレンタル等の機械設備の供給などを行う農業支援サービス事業者の創出と活用を促進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業支援サービス関係情報」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/service.html>

3 付加価値向上に向けた取組

(1) 高い品質を有する品種の開発・導入促進

『Ⅱ 営農類型別の技術的対応の方向』の項目を参照

(2) 知的財産の保護及び活用の促進

① 農業分野のノウハウの保護とデータの利活用促進

農業分野の生産技術やノウハウ等の知的財産としての価値や重要性を農業者や農業関係者に広く普及・啓発する。農業分野の技術・ノウハウ等について、不正競争防止法の営業秘密の枠組みを活用した保護に取り組む際の留意点などがまとめられた「農業分野における営業秘密の保護ガイドライン」（令和4（2022）年3月公表）の農業現場への周知を行う。また、令和3（2021）年度以降、農林水産省の補助事業等を活用する場合、農機メーカーやベンダのシステムサービス契約は、「農業分野におけるA I ・データに関する契約ガイドライン」に沿って結ばれることとなったが、同ガイドラインの民間企業、地方自治体、農業現場への周知を通じて、データの利活用を推進しつつデータ化したノウハウなどの保護を行う。さらに、「農業分野におけるオープンA P I 整備に関するガイドライン」を踏まえ、農業者が利用する農機等から得られるデータについて、メーカーやシステムの垣根を超えて連携させるオープンA P I（データ連携のための仕様を外部へ公開し、一定条件の下、他のシステムと連携する仕組み）を整備し、データの利活用を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業分野における生産技術・ノウハウ等の知的財産としての管理に関するアンケート調査の結果及び普及啓発用パンフレットの作成等について」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/tizai/brand/knowhow.html>

農林水産省 HP「農業分野におけるA I ・データに関する契約ガイドライン」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/tizai/brand/keiyaku.html>

（公社）農林水産・食品産業技術振興協会（JATAFF）HP「農業分野における営業秘密の保護ガイドライン」

<https://pvp-conso.org/842/>

農林水産省 HP「農業分野におけるオープンA P I 整備に関するガイドライン ver1.0」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/attach/pdf/openapi-16.pdf>

農林水産省 HP「オープンA P I 整備に向けて」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/openapi.html>

農研機構 HP「農機 API 共通化コンソーシアム」

<https://www.naro.go.jp/org/iam/API/index.html>

② 地域ブランド戦略における地理的表示等の知的財産の活用

ア 知的財産制度の適切な活用によるブランド化

地域農産物のブランド化とその保護に当たっては、活用する知的財産制度の特性を踏まえて総合的に検討する必要があるため、国内関係者の知的財産に関する意識・能力向上に取り組むとともに、農林水産業に適したアドバイスができる知財専門人材（弁護士・弁理士等）や農林水産業・食品産業の現場で指揮する中核人材の育成に取り組む。また、国内関係者の知的財産の保護・活用の取組の実践に向け、現場と専門人材をマッチングし助言を行う「農業知財総合支援窓口」により、窓口へ寄せられた相談に対して、知的財産の保護及び活用に向けた助言等、地理的表示等を活用した農産物のブランド保護を推進する。

イ 地理的表示の登録等の推進

生産者団体から求めがある場合には、地方行政機関等は、申請を行おうとする産品に関する地域の史実、食文化、風習、産品の生産の方法など、産品の特性や生産地との結び付きのポイントとなる点について、技術的な観点から助言を行う等の支援を行う。

<関連情報>

農林水産省 HP「地理的表示（GI）保護制度」

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/gi_act/

農林水産省 HP「農業知的財産保護・活用総合支援事業」

https://www.maff.go.jp/j/budget/pdf/r8kettei_pr28.pdf

「農業知財総合支援窓口」（JATAFF 運営）

<https://www.jataff.or.jp/project/hinsyu/contact.html>

農林水産省 HP「知的財産総合相談窓口（地方農政局等）」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/tizai/brand/soudan.html>

③ 植物の新品種の育成者権の保護・活用

ア 種苗法に基づく育成者権の保護・活用

我が国において生産者や消費者のニーズに即した優良な品種の利用を続けていく上では、植物新品種を適切に保護していくことが必要であり、種苗法で登録された新品種は農業者を含め関係者皆で守っていく知的財産であることについて意識の醸成を図る。

育成者権者に無断で登録品種の種苗を増殖し、その種苗を譲渡することや、増殖した種苗を栽培し、収穫物を得ることは育成者権侵害であり、栽培の差し止めや刑事罰の対象となること、また海外持出が禁止されている登録品種であることを知り

ながら輸出を行った場合は、種苗法違反となり刑事罰の対象となり得ることなどについて、周知を徹底する。

更に、登録品種の種苗の取引の安全を確保し、流通の混乱を防止するため、登録品種である旨の表示や品種名称の使用義務などについても周知を引き続き徹底する。

また、育成者権者は、品種や栽培技術の流出を防ぐため、ほ場への立ち入り制限や品種が特定されないよう、品種名称を掲示しないといった対応を図るとともに、特に、優良でブランド価値の高い品種にあつては、余剰苗木の発生を極力回避するとともに、余剰が生じた場合には廃棄を徹底するといった厳格な許諾管理を行う。

なお、公的機関では低廉な許諾料を定めることが多いが、種苗の価格や増殖の許諾料が低廉な場合、育成者権侵害があつた際に、わずかな損害額しか認定されない可能性があることや利用者が知的財産の価値を十分に意識せず、品種保護の低さにも繋がっていることから、その品種が持つ経済的な価値を想定して、利用者に応じた戦略的な許諾料設定を行うことが推奨される。

<関連情報>

農林水産省 HP「種苗法の改正について」

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/syubyouhou/index.html>

農林水産省 HP「品種登録制度と育成者権」

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/hinshu/act/etc/seido_pamph_R4.pdf

農林水産省 HP「そのタネ、ほんとに大丈夫？～育成者権侵害について～」

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/syubyouhou/tane_matte.html

イ 農業者の自家増殖に関する許諾契約の定着

令和2（2020）年の種苗法改正により、農業者が登録品種の自家増殖を行う場合には、育成者権者の許諾が必要となった。育成者権者は許諾手続きなく自家増殖を許諾した場合、増殖実態の把握ができず、疑わしい増殖の差止め等が困難になり、海外流出につながる可能性があるなど、適正に利用する農業者への損害につながる恐れがあることを踏まえ、許諾の可否及び手続の方法を検討する必要がある。

一方、在来種（地域で代々受け継がれてきた品種）や品種登録されたことがない品種、登録期間が切れた品種の利用には、種苗法上の制限がないことを周知する。

<関連情報>

農林水産省 HP「品種登録制度と育成者権」

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/hinshu/act/etc/seido_pamph_R4.pdf

「流通品種データベース」（植物品種等海外流通防止コンソーシアム運営）

<https://hinshu-data.jataff.or.jp/>

ウ 適正な表示のある種苗の購入

農業者に対し、種苗の購入に当たっては、種苗業者の名称及び住所、種類、品種名、採種の年月（又は有効期限）及び発芽率、種苗の生産に使用した農薬の有効成分名等の適正な表示があることを確認した上で購入するよう周知徹底する。また、農業者が農薬使用基準の総使用回数を遵守できるよう、種苗の販売者に対して、種苗生産時に使用した農薬の有効成分及び使用回数を表示させる等、農薬に関する適切な情報提供が行われるよう周知徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「指定種苗制度」

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/tizai/syubyo/index.html>

エ 海外における育成者権の取得の促進

我が国農産物の輸出力強化につながる優良な植物品種について、海外の主要マーケットまたは模倣リスクの高い国における海外での無断増殖等を防ぐため、海外出願経費の支援等に係る事業の活用により海外での早期の育成者権の取得を促進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「植物新品種・育成者権関係」（海外での育成者権取得に関する情報）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/tizai/brand/b_syokubut/

植物品種等海外流出防止対策コンソーシアム HP

<https://pvp-conso.org/>

④ 家畜の遺伝資源の管理・保護

和牛の遺伝資源の管理・保護及びその活用を戦略的に進めることにより、付加価値の向上や輸入畜産物との差別化を通じて国際競争力の強化を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「家畜遺伝資源の管理・保護」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/kachiku_iden.html

ア 海外の追従を許さない優れた和牛の生産のための改良・生産体制の強化

都道府県や関係団体は、肥育農家に対して、肉用牛枝肉情報全国データベースの家畜改良を行う上での意義、肥育農家へのメリット等を周知し、同データベースへの参加のための同意書の収集を促進するとともに、効率的な育種改良や遺伝的多様

性の確保を行う観点から、SNP（一塩基多型）情報を活用した遺伝的能力評価等を推進する。

イ 和牛の精液等の流通管理の徹底

家畜改良増殖法に基づき、和牛の精液等の容器（ストロー）への種雄牛名等の表示や、譲受・譲渡の記録・保存等による流通管理を徹底する。また、精液等の不正流通を防止するため、その流通・使用の際に精液に正しい証明書が添付されていることや、契約等により示されている精液の使用者の制限に反していないこと等を確認するよう指導を徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「家畜改良増殖法及び家畜遺伝資源に係る不正競争の防止に関する法律の遵守の徹底について」（令和4年6月24日付け4畜産第720号農林水産省畜産局畜産振興課長通知）

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/attach/pdf/wagyu_tuuti-20.pdf

農林水産省 HP「家畜人工授精用精液等の不正流通の防止について」（令和3年10月11日付け3畜産第838号農林水産省畜産局畜産振興課長通知）

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/attach/pdf/wagyu_tuuti-15.pdf

ウ 血統・品種等を証明する書類の適切な管理の徹底

家畜登録機関が発行する「子牛登記証明書」及び「登録証明書」並びに家畜改良増殖法に基づく「家畜人工授精用精液証明書」、「家畜体内・体外受精卵証明書」、「家畜人工授精簿」等の適切な管理を徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「家畜改良増殖法及び家畜遺伝資源に係る不正競争の防止に関する法律の遵守の徹底について」（令和4年6月24日付け4畜産第720号農林水産省畜産局畜産振興課長通知）

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/attach/pdf/wagyu_tuuti-20.pdf

エ 和牛遺伝資源の知的財産としての価値の保護の推進

家畜遺伝資源に係る不正競争防止に関する法律による保護が受けられるよう、和牛の精液等を譲渡する際の契約締結及びその遵守を推進する。

(3) 機能性表示食品制度等の活用による新たな需要の創造

近年、国民の健康志向の高まりや消費者ニーズの多様化に対応して、農産物等に含まれる機能性成分の研究が取り組まれており、機能性成分を多く含む等の特徴を持つ新品種や新技術の開発、それらを原料とした新食品等の商品化が進められている。このため、機能性表示食品の届出等に関するマニュアルや利用実績を踏まえ、農産物等のシステムティックレビュー^(注)の再評価等を行い、本制度の活用を引き続き支援する。

(注) システムティックレビュー：最終製品等について「表示したい機能性」が、「機能性のあるもの」と認められているのか否かを分類した資料

<関連情報>

農研機構 HP「農林水産物の研究レビュー(届出様式作成例)」

<https://www.naro.go.jp/org/nfri/yakudachi/sys-review/index.html>

農林水産省 HP「JASの対象となる品目(規格)は？」

https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_standard/#shiken

消費者庁 HP「機能性表示食品について」

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/

消費者庁 HP「機能性表示食品の届出等に関する手引き」

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/foods_with_function_claims/notice/assets/food_labeling_cms205_251001_41.pdf

4 農作業安全の確保と農業生産工程管理

(1) 農作業における安全の確保

令和6年における農作業死亡事故は287人と前年から51人の増加となった。死亡事故音発生月では5～9月が前年と比べて52人の増加(うち熱中症が21人)となり、高温期の死亡者数が急増したところである。このような状況を踏まえ、農作業事故の防止に向けて、以下の取組を推進する。加えて、GAPの取組の推進等を通じて、農作業リスクの軽減を図る。

<関連情報>

農林水産省 HP「農作業安全対策」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/

農林水産省 HP「事例から考えてみよう(労働者の安全)」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/attach/pdf/online_kensyu-14.pdf

農林水産省 HP「農業生産工程管理(GAP)に関する情報」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/>

農林水産省 HP 「Good な農業！ GAP-info」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/gap-info.html>

農林水産省 HP 「TRY-GAP!!」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/try-gap.html>

① 「農作業における熱中症等対策総合パッケージ」の推進

農業者の安全意識の強化を推進するとともに、農作業の省力化・軽労化に資する生産方式への転換を進める「農作業における熱中症等対策総合パッケージ」を令和8(2026)年2月に取りまとめ、関係機関を挙げて強力で推進する。

4月から6月までを「熱中症等対策研修強化期間」とし、地域における農業者向けの研修を推進するほか、特に熱中症リスクの高い7月から9月までを「夏の熱中症等対策声かけ期間」とし、関係機関を挙げて農業者への声かけ活動を展開する。その際、農林水産省のHPで公開している、「熱中症等対策研修資材」等を活用するよう促す。

また、農業経営にスマート農業技術や農業支援サービス、農作物の高温対策を組み込んで熱中症等のリスクを低減する栽培方式である「ホワイト生産方式」への転換に向け、関連する支援策を活用して推進する。

② 安全性の高い農業機械等の導入

近年の農作業死亡事故件数のうち、概ね6割が農業機械の利用中に発生している。こうした事故を防止するためには、高い安全性を有する農業機械の農業現場への導入が重要である。このため、農研機構農業機械研究部門が実施する安全性検査の基準が令和7(2025)年度から改正され、例えば、農用トラクター(乗用型)においては、シートベルトリマインダーとPTOインターロック(離席するとPTOへの動力が遮断する)を搭載することが、新たな基準として盛り込まれた。安全な農業機械の導入を推進するため、農業機械の型式選定にあたっては、新たな安全性検査に合格した機体を優先するよう指導の徹底を図る。

また、国土交通省の道路運送車両の保安基準改正(令和7年6月17日公布)により、令和9年1月1日以降に製造される農用トラクター(乗用型)で道路を走行する際には、シートベルトの着用が義務化されるため、着用を徹底するよう周知を図る。

さらに、鳥獣被害対策において、野生鳥獣を農地等へ侵入させないための電気柵の設置にあたっては、電気柵用電源装置の使用及び危険である旨の表示等、安全確保を徹底する。このほか、がん具煙火を鳥獣の追払いに使用する場合には、「がん具煙火として販売されている火器類を動物の駆逐の用に供するために消費する場合の注意事項について(周知徹底)」等を参照し、安全に十分配慮して使用することが必要である。

<関連情報>

農研機構 農業機械研究部門 HP

<https://www.naro.go.jp/laboratory/iam/>

農研機構 農業機械研究部門農作業安全情報センターHP

<https://www.naro.go.jp/org/iam/anzenweb/index.html>

農林水産省 HP「農業機械の安全装置の普及状況について」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/souchi.html

農研機構 農業機械研究部門農作業安全情報センターHP

「安全キャブ・フレーム付きのトラクターを使おう！」

<https://www.naro.go.jp/org/iam/anzenweb/cab/cab.html>

農林水産省 HP「トラクターのシートベルト着用義務化について」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/seatbelt.html

農林水産省 HP「鳥獣による農産物等の被害の防止に係る電気さく施設における安全確保について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/tyuuikanki/denkisaku.html>

農林水産省 HP「野生鳥獣の追払い活動でのロケット花火の使用について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/tyuuikanki/hanabi.html>

農林水産省 HP「がん具煙火として販売されている火器類を動物の駆逐の用に供するために消費する場合の注意事項について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/tyuuikanki/tuuti-1.pdf>

③ 農作業の安全対策

農作業中の事故を防止するためには、以下事項の指導を徹底する。

- ・ 農用トラクター（乗用型）について、安全キャブ、安全フレーム付きの機種を使用（可倒式の安全フレームは立てて運行）し、シートベルト、ヘルメットの着用を促す。
- ・ 道路を走行する場合には、ブレーキペダルの連結を確認する等、基本的な安全操作や手順の遵守を徹底するとともに、日常的・定期的な点検・整備等の実施を推進する。

また、作業機を装着・けん引した農用トラクター（乗用型）で公道走行する場合には、反射器及び灯火器等を装着すること等で安全対策を徹底する。

現場で転落・転倒等の可能性のある危険箇所を確認し、目印を付ける、草を刈って見やすくするなどの対策を実施すること、コンバイン等の死角の多い農機を運転する際は、補助作業者のいる位置を確認し、声をかける等により、相互の意思疎通ができていることを徹底する。

- ・熱中症対策として、高温下での長時間作業や一人作業を避け、こまめな水分と塩分の補給や休憩を取ることに加え、ファン付き作業服、冷却ベスト、暑さ指数計測器、ネッククーラー、深部体温を計測する機器（ウェアラブル端末等）などの熱中症対策アイテムの活用を促す。特に、高齢者は、のどの渇きや暑さを感じにくく、気がつかないうちに熱中症になる可能性があるため、単独での作業を避ける、異常がないか家族や従業員等が定期的に巡回を行うなどの対策を行う。

<関連情報>

（一社）日本農業機械化協会 HP「トラクター・コンバイン作業を安全に～高齢農業者の実作業をもとに～」

<https://nitinoki.or.jp/bloc3/karte/index.html#video>

警察庁「農耕作業用自動車（農耕作業用の小型・大型特殊自動車）の交通死亡事故発生状況と主な事例等について」

<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/bunseki/sonota/030226noukousagyou.pdf>

農林水産省 HP「安全確認と予防対策で公道での農機による死亡事故を防ぎましょう！」
（警察庁・農林水産省・JA 共済連が連携して作成した啓発チラシ）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/attach/pdf/siryo-171.pdf

農林水産省 HP「作業機付きトラクターの公道走行について」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/kodosoko.html

農林水産省 HP「熱中症対策」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/nechu.html

④ 農業者における安全意識の醸成

①の熱中症等対策研修等の推進に加え、農作業中の死亡事故のうち農業機械作業に係るものが過半を占めていることを踏まえ、農業機械安全対策研修の実施を推進する。また、労働者における農作業事故の発生割合について経験期間が3年以下の者が過半を占めること等を勘案し、雇入れ時教育のために作成した労働者向けリーフレット（農作業安全を学びましょう）を活用した未熟練農業者への専用研修の実施を推進する。

この際、農作業事故を「自分ごと」、「自分たちごと」として捉え、その安全意識の向上が図られるよう、関係者が連携して農作業安全研修の実施及び受講者数の増加に取り組むことに加え、地域での事故事例や啓発資材を活用した農作業安全に関する情報発信を実施するとともに、SNS、回覧板や広報誌、広報車等、様々な媒体を活用して啓発活動を実施する。

加えて、労働者災害補償保険について、加入が任意となっている小規模経営体や特別加入制度の加入率が非常に低い状況にあることに鑑み、厚生労働省及び農業団体、関係機関と連携し、農作業安全と一体的に周知及び加入促進を図る。

<関連情報>

農林水産省 HP「農作業安全の啓発資料」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/enzen/siryu.html

「農作業安全のための指針」（平成 14 年 3 月 29 日付け 13 生産第 10312 号農林水産省生産局長通知）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/enzen/attach/pdf/index51.pdf

農林水産省 HP「農作業安全リスクカルテ」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/enzen/siryu.html#karte

農研機構農業機械研究部門 HP「対話型農作業安全研修ツール」

<https://www.naro.go.jp/org/iam/enzenweb/taiwa/taiwa.html>

（一社）日本農業機械化協会 HP「農作業安全指導マニュアル」

<https://nitinoki.or.jp/bloc3/karte/r3anzen.pdf>

農林水産省 HP「農作業安全対策全国推進会議」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/enzen/zennkoku.html

農林水産省 HP「農業者のための労災保険の特別加入制度」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/enzen/rosai.html

農林水産業・食品産業の作業安全のための規範（個別規範：農業）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/enzen/kihan_nougyo.html

農林水産業・食品産業の作業安全のための規範（安全対策動画、リーフレット）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/sagyou_zen/kihan.html

農林水産業・食品産業の作業安全のためのオンライン作業安全学習教材

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/sagyou_zen/e-learning.html

農林水産省 HP「農作業安全と労災保険」

https://www.maff.go.jp/j/keiei/nougyou_jinzaiikusei_kakuho/roudou_housei/rousa.html

（２） 国際水準 GAP の推進

GAP（Good Agricultural Practices：農業生産工程管理）は、農業生産の各工程の実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動である。SDGs に対する関心が国内外で高まる中、食品の安全性向上、環境の保全、労働安全の確保、人権保護、農場経営管理を含む国際水準 GAP の取組を生産現場に拡大していくことが重要である。このため、令和 4（2022）年 3 月に「我が国における国際水準 GAP の推

進方策」及び「国際水準 GAP ガイドライン」を策定。これらに基づき、地域での中核的な役割を果たす GAP 指導員の育成、面的な GAP 普及に向けた団体への認証取得促進等により、国際水準 GAP を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業生産工程管理（GAP）に関する情報」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/>

農林水産省 HP「Good な農業！ GAP-info」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/gap-info.html>

農林水産省 HP「TRY-GAP!!」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/gap/try-gap.html>

農林水産省 HP「協同農業普及事業の運営に関する指針」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/hukyu/h_tuti/index.html

5 動植物防疫の確実な実施

(1) 家畜伝染病・植物の病害虫の発生予防・まん延防止

① 家畜伝染病

ア 生産段階における衛生管理の充実・強化等

(ア) 生産段階における衛生管理の充実・強化

生産段階における家畜の伝染性疾病の発生予防とまん延防止及び畜産物の安全性向上のため、飼養衛生管理基準の向上が重要である。家畜伝染病予防法第 12 条の 3 に基づく飼養衛生管理基準を遵守するよう指導を徹底。食中毒菌の農場への侵入・感染防止、農場 HACCP 普及のため、各種ハンドブック、ガイドライン等を参考に、マニュアル策定を支援する。

(イ) 正確な情報提供の推進

行政機関が中心となり、農業者等との間で、平常時からの的確な情報及び意見の交換を行うことが重要である。重大な伝染性疾病が発生した場合などにおいては、「特定家畜伝染病防疫指針」等に沿った防疫措置を的確に実施するとともに正確でわかりやすい情報を迅速に提供する。

<関連情報>

農林水産省 HP「安全な畜産物を生産するために農場でできること（食中毒を減らすための取組）」

「牛肉の生産衛生管理ハンドブック」

「鶏肉の生産衛生管理ハンドブック」

「鶏卵の生産衛生管理ハンドブック」

「豚肉の生産衛生管理ハンドブック」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/handbook/201108.html>

農林水産省 HP「家畜生産段階における飼養衛生管理の向上について（農場 HACCP 等）」

「家畜の生産段階における衛生管理ガイドライン」

「畜産農場における飼養衛生管理向上の取組認証基準（農場 HACCP 認証基準）」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_haccp/index.html

イ 飼料・飼料添加物及び動物用医薬品の適正な使用・管理の徹底等

飼料・飼料添加物及び動物用医薬品が適正に使用されなかった場合、直ちに食品の安全に問題が生じることが十分に認識されるよう関係機関と連携して周知及び指導を徹底する。食品の安全に影響を及ぼす事態が明らかとなった場合、速やかに国と情報共有するとともに、食品衛生部局等と連携して、迅速かつ適切な対応を行う。

（ア） 飼料・飼料添加物

飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づく飼料等の使用の方法の基準や成分規格等を遵守し、飼料の表示等に従った適正な飼料給与が行われるよう関係機関と連携して、周知及び指導を徹底する。「飼料等の適正製造規範（GMP）ガイドライン」に則った対応がなされるよう関係機関と連携して、周知及び指導を徹底する。「食品循環資源利用飼料の安全確保のためのガイドライン」に従ったエコフィード原材料の確認・分別や伝染性疾病対策としての加熱処理、品質管理及び加熱等の記録の保存が行われるよう関係機関と連携して、周知及び指導を徹底する。飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律に基づく飼料中の農薬の残留基準値を遵守するよう、適正な農薬使用について関係機関と連携して、周知及び指導を徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「飼料の安全関係」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/siryo/>

農林水産省 HP「飼料等の適正製造規範（GMP）ガイドライン」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/gmp.html>

農林水産省 HP「食品循環資源利用飼料（エコフィード）の安全確保について」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/siryu/ecofeed.html>

(イ) 動物用医薬品

動物用医薬品の適正使用等について、各法令、通知等に基づき、関係機関と連携して周知及び指導を徹底する。

また、薬剤耐性対策アクションプランを踏まえ、抗菌剤の慎重な使用に関する動画や各種ガイドブックを活用し、関係機関と連携して獣医師及び生産者に対する周知及び指導を徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「動物用医薬品」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/>

農林水産省 HP「薬剤耐性（AMR）対策の動画について」

http://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/amr_movie.html

農林水産省 HP or 動物医薬品検査所 HP「薬剤耐性菌のモニタリング」

https://www.maff.go.jp/nval/yakuzai/yakuzai_p3.html

農林水産省 HP「慎重使用に関する基本的な考え方（各種ガイドブック）」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/yakuzi/240328_7.html

抗菌剤に頼らない養豚生産の取組（優良事例動画）

<https://youtu.be/zyd9paimBWg>

https://youtu.be/5jN_9MabIE

<https://youtu.be/U861rbd8AC0>

農林水産省 HP「動物用の薬剤感受性ディスクの一覧」

https://www.maff.go.jp/nval/yakuzai/yakuzai_p9.html

② 植物の病害虫

ア 総合防除の推進

病害虫防除に当たっては、病害虫発生予察情報を活用した適期防除に加え、病害虫の防除が年々難しくなる中で、持続的かつ効果的な防除を進めるため、化学農薬のみに依存しない、「予防・予察」に重点を置いた総合防除を一層推進し、現場へ浸透させる必要がある。

総合防除は、「総合防除実践ガイドライン」に沿って、

① 『予防の段階』

耕種的防除（土壌診断等も活用した施肥管理、健全な種苗及び抵抗性品種の使用、農作物の残さや周辺雑草の除去等によるほ場の衛生管理等）及び物理的防除（防虫ネットの使用やマルチング、種子の温湯消毒等）を基本として、必要に応じて

生物的防除（土着天敵や天敵の利活用等）・化学的防除（種子処理、土壌や培地の消毒等）も活用する、病虫害・雑草の発生及び増加の抑制のために行う予防に関する措置の実施

②『判断の段階』

国及び都道府県から公表される発生予察情報の活用や、農業者自身によるほ場の見回り等による病虫害・雑草の発生及び農作物への損害の発生状況の確認等に基づく、農業者による防除に関する措置の要否並びにその方法及び実施時期の適切な判断

③『防除の段階』

病虫害・雑草の発生状況等を基に、経済的被害許容水準を踏まえて防除が必要と判断される場合に、当該病虫害・雑草の駆除又はまん延を防止するために行う防除に関する措置の実施

の3つの段階を組み合わせて1つの体系とするとともに、各段階において、地域やほ場の実情に応じて、利用可能なあらゆる選択肢の中から、経済性を考慮しつつ、最も合理的な組み合わせとなるよう適時に適切な方法を選択し、実施することが基本である。

病虫害を効果的に防除するため、地域の防除体制の整備に加え、総合防除実践マニュアルの整備、新たな防除体系を普及するための取組の支援、病虫害抵抗性品種、生物防除資材、ICTを活用した水稻病虫害の早期・精密な発生予測技術等のスマート農業技術を活用した研究開発の推進及びその導入等により、指導者を活用しつつ、農業者へ、よりわかりやすく、使いやすい形で総合防除を普及する。

都道府県は、国が策定した総合防除基本指針及び総合防除実践ガイドライン並びに自県が策定した総合防除計画の下、総合防除実践指標の策定、防除技術の研究開発や、地域の病虫害の発生状況等に応じた防除体系の実証等によるコストや生産性に係るデータの把握・周知に努めることにより、農業者による総合防除の実践を支援する。

<関連情報>

農林水産省 HP「総合防除基本指針」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/attach/pdf/index-20.pdf>

農林水産省 HP「総合防除実践ガイドライン」及び「総合防除実践指標モデル」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_ipm/

農林水産省 HP「病虫害発生予察情報」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

農林水産省 HP「病虫害・雑草防除に関する研究成果情報」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_zirei/kennkyuu_link.html

(注：病害虫・雑草防除に関する研究成果として、農研機構により取りまとめられた標準作業手順書、技術紹介パンフレット等の情報をまとめている。)

イ 発生を注視すべき病害虫

(ア) 斑点米カメムシ類

水稻の斑点米カメムシ類は、ほ場周辺を含めた除草作業、きめ細かい観察・発生予察情報等による発生情報の収集に努めるとともに、発生状況に応じて適期に防除を実施するよう指導を徹底する。

また、イネカメムシは、斑点米の他、不稔米を発生させる斑点米カメムシの一種であり、近年、発生量が増加傾向にある。本虫による不稔被害を防止するためには、他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、出穂期に効果的な薬剤で防除することが重要である。このため、被害が懸念される地域や、地域の発生予察情報やほ場の見回り等から発生量が多いと判断される地域では、不稔を防止するため、出穂期の防除を実施するよう指導する。なお、地域のカメムシ類の密度を低減させるため、対策を地域一体で実施することが重要である。

<関連情報>

農林水産省 HP「カメムシ類の防除」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/kamemusii.html>

(イ) スクミリングガイ (ジャンボタニシ)

移植直後の水稻等を食害するスクミリングガイについては、暖冬の年には越冬して生き残る個体が増加し、被害の増加につながることから、被害の発生を一層警戒する。

発生地域においては、水稻の移植期の薬剤散布、水路からの侵入防止対策、冬季の水路の泥上げ、耕うん等の各種防除対策を地域の実情に応じて、地域一体となって実施するよう指導を徹底する。また、発生を拡大させないため、使用した農機具・機械を発生ほ場外に持ち出す前に泥を落とし、また、除草目的の放飼は行わないよう指導する。

<関連情報>

農林水産省 HP「スクミリングガイ (ジャンボタニシ) の被害防止対策について」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/sukumi/sukumi.html>

農林水産省 HP「【春夏編】ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために (防除対策リーフレット)」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/sukumi/attach/pdf/sukumi-11.pdf>

農林水産省 HP「【秋冬編】ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために（防除対策リーフレット）」

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/attach/pdf/index-10.pdf>

農林水産省 HP「スクミリンゴガイ防除対策マニュアル（移植水稻）（防除対策マニュアル）」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/sukumi/attach/pdf/sukumi-10.pdf>

スクミリンゴガイの防除支援マニュアル

<https://ml-wiki.sys.affrc.go.jp/applesnail/>

農研機構 HP「(研究成果)ドローンによるスクミリンゴガイ被害予測に基づく省力的な防除システムを開発」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/172361.html

(ウ) 果樹カメムシ類

果樹カメムシ類については、春先の気温が平年より高く推移した場合は、早期に活動を開始する。このため、春先の気温が平年より高く予想される場合は、例年より早めに以下の対策を講じる。また、果樹カメムシ類の発生量は、年次変動が大きいことから、都道府県の発生予察情報を確認するとともに、園地の見回りをこまめに行う。特に山林に近い園地は、飛来が多い傾向があることから、注意する。

- ・ 飛来を確認した場合は速やかに薬剤散布を実施する。
- ・ 例年発生の多い園地では防虫ネットを設置する。
- ・ 有袋栽培の場合は早期に袋かけを実施する。

<関連情報>

農林水産省 HP「カメムシ類の防除」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/kamemusi.html>

(エ) サツマイモの病害虫

主に南九州地域で発生しているサツマイモ基腐病については、発生地域において、健全種苗の確保、抵抗性品種の利用、ほ場の排水対策、効果的な散布体系による薬剤散布等の病原菌をほ場に「持ち込まない」、栽培期間中に「増やさない」、収穫後のほ場に「残さない」対策を総合的に取り組むよう指導を徹底する。また、本病は感染種苗でまん延することが知られていることから、未発生地域では健全種苗の確保、苗の消毒等の「持ち込まない」対策に取り組むよう指導する。

また、近年は、サツマイモ茎根腐細菌病、ムツスジアシナガゾウムシ等のこれまでに問題とならなかった病害虫の被害が顕在化する事例が確認されている。これらの病害虫の被害を未然に防ぐためにも、予防の取組（健全種苗の利用、排水対策の実施等）及びほ場のこまめな見回りによる異常株の早期発見、農薬散布による適期防除に努めるよう指導する。なお、葉が繁茂する時期は異常株を発見しづらくなることから注意が必要である。

<関連情報>

農研機構 HP「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html

農研機構「かんしょ生産工程におけるサツマイモ基腐病発病リスク低減技術集(概要編)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/168482.html

農研機構 HP「本圃におけるサツマイモ基腐病防除対策技術情報(薬剤を核とした総合防除体系の実証事例集)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/162336.html

農研機構 HP「サツマイモ基腐病を防除する苗床の土壌還元消毒技術標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/72>

農研機構 HP「サツマイモ基腐病に対する蒸熱処理による種イモ消毒技術標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/100>

農研機構 HP「リアルタイム PCR によるサツマイモ基腐病菌の検出・同定技術標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/87>

農研機構 HP「サツマイモ基腐病の発病ポテンシャル診断技術標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/214>

農研機構 HP「サツマイモ基腐病に抵抗性のある焼酎・でん粉原料用カンショ新品種「みちしずく」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/130>

農研機構 HP「でん粉原料用カンショ新品種「こないしん」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/23>

ウ 重要病害虫の早期発見及び被害拡大防止対策の徹底

火傷病等の重要病害虫の早期発見を図るため、令和5（2023）年4月より改正植物防疫法に基づく侵入調査事業を実施している。なお、温暖化等の影響により、近年、

侵入病害虫の種類やパターンに変化があることを踏まえて、適宜、調査地点等の妥当性を検証し、必要に応じて見直しを行うこととしている。

また、都道府県の病害虫防除所と普及指導員は、農林水産省植物防疫所と日頃からお互いに情報を共有し、重要病害虫の疑いがある場合や既発生病害虫である確証がない場合は、未同定の段階であっても、農林水産省植物防疫所へ報告することを徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「重要病害虫発生時対応基本指針について」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/ap/ap.html

(ア) ジャガイモシロシストセンチュウ、ジャガイモシストセンチュウ

ジャガイモの生産者に対して、日頃から生育不良の有無に留意するとともに、収穫物に付着した土の輸送時の飛散防止や農機具に付着した土の洗浄、ほ場に残った収穫物の処理等の指導を徹底する。また、未発生地域においては侵入防止、発生地域においては再発を防止するためジャガイモシロシストセンチュウ及びジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種への転換を推進する。

病害虫防除所の職員や普及指導員は、巡回指導時等に収穫物の根へのシストの付着の有無や生育不良の有無の情報収集に努めるとともに、生産者に対して、発生が疑われた場合は、速やかに病害虫防除所及び農林水産省植物防疫所に連絡するよう指導を徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「ジャガイモシロシストセンチュウに関する情報」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/gp/gp.html

(イ) テンサイシストセンチュウ

アブラナ科（ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー）の生産者に対して、日頃から生育不良の有無に留意するとともに、収穫物に付着した土の輸送時の飛散防止や農機具に付着した土の洗浄、ほ場に残った収穫物の処理等の指導を徹底する。また、寄主植物の連作を避け、輪作を推進する。

病害虫防除所の職員や普及指導員は、巡回指導時等に収穫物の根へのシストの付着の有無や生育不良の有無の情報収集に努めるとともに、生産者に対して、発生が疑われた場合は、速やかに病害虫防除所及び農林水産省植物防疫所に連絡するよう指導を徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「テンサイシストセンチュウに関する情報」
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/hs.html>

(ウ) ミカンコミバエ種群

ミカンコミバエ種群については、本虫のトラップの設置場所及び設置数について再検証するとともに、必要に応じて強化する。また、新たに侵入のおそれがある地域（主に九州地方）は放任園の特定を行うとともに、かんきつ類等のほ場所有者（放任園地所有者を含む。）に対して、落果の除去等のほ場衛生管理の徹底を指導するとともに、住民に対して、庭木等の寄主果実が放置されることのないよう周知を徹底する。

なお、住民等から疑義情報を得た場合は、速やかに病害虫防除所及び農林水産省植物防疫所に連絡する。

(エ) セグロウリミバエ

セグロウリミバエについては、新たに侵入のおそれがある地域（主に九州地方）における警戒態勢を再検証し、必要に応じて調査体制等を強化する。また、住民に対して、本虫が寄生する可能性のある家庭菜園等の寄主植物について、薬剤散布や残さ処理など適切な栽培管理を行うよう周知を徹底する。

なお、住民等から疑義情報を得た場合は、速やかに病害虫防除所及び農林水産省植物防疫所に連絡する。

<関連情報>

農林水産省 HP「ミカンコミバエ種群の防除について」
https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/mibae/mikan.html

(オ) クビアカツヤカミキリ

生産者に対して、定期的にほ場を見回って木屑排出の有無及び成虫の有無を確認し、本虫の早期発見・早期防除に努めるよう指導する。また、本虫は、果樹等園地の他にも街路樹や公園等の寄主植物でも発生・増殖するため、環境部局等と連携し、地域全体で本虫への対策を講じることが重要である。

さらに、病害虫防除所の職員や普及指導員は、巡回指導時等に疑義情報の収集に努めるとともに、生産者に対して、発生が疑われた場合は、速やかに病害虫防除所に連絡するよう指導を徹底する。

また、本虫が発生している産地において、有識者や農業者等の関係者からなる協議会を設置し、封じ込めや被害低減を目的とした分布調査・各種防除等、果樹産地全体で取り組む防除体系の確立のための実証を支援する。

<関連情報>

森林総研 HP「クビアカツヤカミキリの防除法」

<https://www.ffpri.go.jp/pubs/chukiseika/5th-chuukiseika12.html>

6 不測時における食料供給の確保

近年、世界的な食料需給の変化と生産の不安定化により、食料供給が大幅に減少するリスクが高まる中、食料供給が減少し、国民生活・国民経済に影響が生じる事態を防止するため、平時からの対応に始まり、必要な対策を政府一体となって早期から措置を行う「食料供給困難事態対策法」が令和6（2024）年の通常国会で成立し、令和7（2025）年4月1日から施行された。

不測時において本法に基づく供給確保の対象となる食料（「特定食料」）や生産資材（「特定資材」）は、政令に指定された以下のとおり：

<特定食料>

（農林水産物）米、小麦、大豆（食用含む）、なたね・油やしの実、てん菜・さとうきび、生乳、牛肉・豚肉・鶏肉、鶏卵

（加工品）小麦粉、植物油脂（大豆、なたね、油やしの実を原材料とするもの。）、砂糖（てん菜、さとうきびを原材料とするもの。）、飲用牛乳・乳製品、液卵・粉卵

<特定資材>

肥料、農薬、種苗、飼料、動物用医薬品

国内において連続した不作等による生産減少が見込まれる場合や、輸入相手国における輸出規制など供給不足の終期が見込み難い場合であって、備蓄の活用や出荷又は販売の調整、輸入の促進によってもなお、供給不足の解消が困難と見込まれる場合にあっては、国内において増産を図る必要がある。しかしながら、一時的な輸入の増大等の可能性から需給の見通しが不透明な場合等においては、適切な国内生産が図られないことも想定されることに加え、農産物には作付準備から収穫・出荷までに1年程度要するものもあることから、計画的に増産が図られるよう、本法に基づく生産の促進の要請を行うことも想定される。そのような場合にあっては、主務大臣は本法第17条第1項の規定に基づき、供給を確保すべき特定食料及び当該特定食料に係る特定資材のうち農林水産物の生産の事業を行う者に対し生産を促進するよう要請し、又は農林水産物生産可能業者に対し生産に協力するよう要請する。なお、農林水産物生産可能業者は、主務省令上、供給を確保すべき当該特定食料等以外の農林水産物の生産の事業を行う者であって、気象条件、地理的条件その他の自然的条件を考慮して、現に利用することができる土地、施設、設備、機械、技術その他の経営資源を活用することにより当該措置対象特定食料等の生産をすることができると認められるものとしている。

<関連情報>

農林水産省 HP「食料供給困難事態対策法の概要について」

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/horitsu.html>

農林水産省 HP「食料供給困難事態対策法について（リーフレット）」

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/attach/pdf/horitsu-33.pdf>

(Ⅱ) 輸出の促進

1 農産物・食品の輸出の促進

令和7（2025）年5月に官房長官を議長とする農林水産物・食品の輸出拡大のための輸入国規制への対応等に関する関係閣僚会議において「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」を改訂した。この戦略に基づき、海外の残留農薬等の基準に対応出来るよう、当該基準に適合した防除体系や有機栽培への転換等を進めるほか、減農薬栽培や天敵の導入、抵抗性品種等の開発を推進する。また、牛肉の安定的な輸出拡大に資する生産基盤の確立や輸出向け多収米品種の開発及び茶の輸出を可能とする防除体系の開発を始めとする重点品目別の課題の解決に取り組み、令和12（2030）年5兆円目標に貢献する。

<関連情報>

内閣官房 HP「農林水産物・食品の輸出拡大のための輸入国規制への対応等に関する関係閣僚会議」

https://www.cas.go.jp/jp/seisakukaigi/nousui/yunyuukoku_kisei_kaigi/index.html

農林水産省 HP「政府の輸出促進政策」

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/e_kyouka_senryaku/h28_senryaku.html

農林水産省 HP「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」（令和7年5月改訂）

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/progress/attach/pdf/index-43.pdf>

農林水産省 HP「輸出相手国の残留農薬基準値に対応した病害虫防除マニュアル」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/export/export_manual.html

農研機構 HP「宮城県における輸出りんご用栽培マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/080226.html

農研機構 HP「輸出検疫対象害虫の圃場防除技術と生果実及び穀物類の新たなくん蒸技術」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/080363.html

農研機構 HP「有機農業の栽培マニュアル（第3版）」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/youkinougyouaibaimanual2019018_ver3.pdf

農研機構 HP「高能率水田用除草機を活用した水稻有機栽培の手引き」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/suitouyuukisaibai20200406.pdf

農研機構 HP「様々な用途に向くお米の品種シリーズ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/kind-pamph/137546.html

農林水産省 HP「“<w 天>防除体系”～薬剤抵抗性が発達しにくい、天敵が主役の新しい果樹のハダニ防除」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2020/2020seika-13.html

農研機構 HP「天敵を主体とした果樹のハダニ類防除体系標準作業手順書 リンゴ編」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/44>

農研機構 HP「天敵を主体とした果樹のハダニ類防除体系標準作業手順書 施設編 ブドウ/ミカン」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/75>

農研機構 HP「輸出相手国の残留農薬基準に対応したブドウの防除暦作成指針」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/165331.html

農研機構 HP「輸出相手国の残留農薬基準に対応した茶の輸出対応型防除暦の作成指針」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/165328.html

農研機構 HP「日本茶海外輸出に資する緑茶用新品種「せいめい」栽培・加工技術標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/9>

農研機構 HP「サツマイモ基腐病の発生病態と防除対策(令和4年度版)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/158250.html

農研機構 HP「サツマイモ基腐病を防除する苗床の土壌還元消毒技術標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/72>

農研機構 HP「輸送中のかんしょに対する腐敗防止方策標準手順書(サンプル版)」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/105>

農研機構 HP「サツマイモ基腐病に対する蒸熱処理による種イモ消毒技術標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/100>

農研機構 HP「本圃におけるサツマイモ基腐病防除対策技術情報(薬剤を核とした総合防除体系の実証事例集)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/162336.html

農研機構 HP「サツマイモ基腐病の発病ポテンシャル診断技術標準作業手順書」

2 品種のグローバル展開

優良品種は、我が国農業の強みの源泉であり、特に果樹等の品種は海外において高評価を受けている。この優良品種を活用し、収穫物の輸出だけでなく、戦略的な海外ライセンスといったグローバル展開により、我が国農業・農業者の新たな稼ぎにつなげることができる。こうした稼ぎも利用して、優良品種の適切な管理、産地化・ブランド化、更には競争力の高い新品種の開発につなげるサイクルを確立すべきである。

しかし、過去に流出した我が国の優良品種の無秩序な生産・販売が海外で拡大し、輸出等への悪影響が顕在化している。さらに、令和2年(2020)年の「種苗法」(平成10年法律第83号)の改正により、農業現場からの品種流出には一定の歯止めがかかったものの、近年、オンライン取引の増加など、種苗の流通ルートが多様化し、新たな流出リスクが顕在化している。

このため、海外から稼ぎ、国内農業振興に還元する枠組みの整備、優良品種の海外流出・無断栽培の抑止、マーケットインの品種の開発・再評価の取組を推進する必要がある。

具体的には、優良な品種を戦略的にライセンスし、ターゲット市場における我が国の輸出促進に理解があるライセンス先の海外生産を組み合わせたジャパングレードの周年供給が可能な体制を構築することで、農業者の直接的な「稼ぎ」につなげるとともに、海外からのロイヤルティを得て、知的財産の保護・管理、産地化・ブランド化、更には新たな品種開発に還元することで、農業者の将来的な「稼ぎ」につなげる取組を推進する。

また、こうした海外展開を行う我が国優良品種の競争環境を守るため、海外流出・無断栽培の抑止と国内管理の徹底に向け、関係者の意識向上を図る。

(Ⅲ) 国民一人一人の食料安全保障・持続的な食料システム

1 食品産業

農産品等のサプライチェーン全体の物流効率化の促進に向け、物流の標準化、デジタル化・データ連携等の取組、産地における集出荷施設、農産品等の流通網の強化に必要な中継共同物流拠点や卸売市場の整備等を推進する。また、鉄道・船舶輸送をはじめ、多様な輸送モードを活用した環境負荷低減にも寄与するモーダルシフト等を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「食品等の流通の合理化について」

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/ryutu/buturyu.html>

2 食品安全・消費者の信頼確保

食品の安全性を向上させるためには、未然防止の考え方を基本とし、食品の生産から消費にわたり、科学的根拠に基づき必要かつ適切なリスク管理措置を講ずる必要がある。このため、実態の把握や検証結果を踏まえ、安全性向上のための指針や実施規範の策定・普及を推進する。

(1) 農産物の安全性の向上

① 農産物の安全性を向上させるための工程管理の推進

農林水産省では、危害要因に関する汚染実態調査や汚染防止・低減技術の開発・実証等の結果を基に、対策をまとめた指針等を作成している。都道府県、生産者団体等は、これらの指針に記載されている汚染防止・低減技術を、GAPの取組等を通じ、各産地の実情に合った方法で生産者に普及する。

② 有害物質等のリスク管理措置の徹底

ア かび・かび毒対策

農作物にかびが付着し増殖すると、収量や品質の低下を招くばかりでなく、ヒトや家畜の健康に悪影響を及ぼすかび毒によって汚染される可能性がある。かび毒は、加工や調理工程で完全に除去することは難しいため、生産・貯蔵段階において、その汚染の防止・低減対策に取り組む。

(ア) 生産段階

麦類の赤かび病菌が産生するかび毒による汚染の防止・低減対策については、「麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針」等を参照する。米麦の乾燥調製中のかびの付着や増殖の防止、かび毒汚染の防止・低減対策については、「大規模乾燥調製貯蔵施設の設置・運営に当たっての留意事項について」及び「米のカビ汚染防止のための管理ガイドライン」を参照する。原料りんご果実及びりんご果汁のかび毒汚染の防止・低減対策として、「食品、添加物等の規格基準の一部改正について」を踏まえ、傷果発生防止のための丁寧な収穫や管理、腐敗果の除去等を徹底する。

(イ) 貯蔵段階

米麦の貯蔵中のかびの付着や増殖の防止、かび毒汚染の防止・低減対策については、「大規模乾燥調製貯蔵施設の設置・運営に当たっての留意事項について」及び「米のカビ汚染防止のための管理ガイドライン」を参照する。

(ウ) 飼料用とうもろこし子実のかび毒汚染・低減対策

飼料用とうもろこし子実のかび毒汚染の防止・低減対策については、「飼料用とうもろこし子実のかび毒汚染防止・低減に向けた技術指導について」及びパンフレット「とうもろこし子実を生産する耕種農家・畜産農家の皆さまへ」を参照する。

<関連情報>

農林水産省 HP「食品のかび毒に関する情報」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/

農林水産省 HP「麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針」・「指針活用のための技術情報」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/mugi_kabi_sisin.html

農研機構 HP「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル改訂版」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/077227.html

農林水産省 HP「米のカビ汚染防止のための管理ガイドライン」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/index.html#kome

農林水産省 HP「大規模乾燥調製貯蔵施設の設置・運営に当たっての留意事項について」（平成5年10月26日付け農蚕園芸局長通知）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/suisin/tuyoi_nougyou/t_tuti_other/pdf/ryui_ziko.pdf

「食品、添加物等の規格基準の一部改正について」（平成15年12月5日付け15消安第3949号消費・安全局長通知）

農林水産省 HP 飼料の安全関係

（飼料用とうもろこし子実のかび毒汚染防止・低減対策のための実施指針及び留意事項について（令和7年7月30日付け7消安第2667号、7畜産第1226号消費・安全局農産安全管理課長、消費・安全局畜水産安全管理課長、畜産局飼料課長通知））（パンフレット「とうもろこし子実を生産する耕種農家・畜産農家の皆さまへ」）

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/siryu/index.html>

イ カドミウム対策

食品を通じた国民の平均的なカドミウム経口摂取量は、健康に悪影響を及ぼすレベルにないが、他国と比べると高い傾向にあり、その摂取量のうち、農作物からの摂取が大部分を占めるため、農作物中のカドミウム濃度低減対策は重要である。食品衛生法の基準を遵守するよう、各産地の実態に応じて対策に取り組む。

(ア) 米

「コメ中のカドミウム及びヒ素低減のための実施指針」に基づき、地域の実態を踏まえ、カドミウム低吸収性イネの利用や湛水管理を中心とする吸収抑制対策等に取り組む。

(イ) 米以外の農作物（畑作物）

将来、リスク管理措置を検討する際に必要となる基礎データとして、麦、大豆等の消費量の多い畑作物のカドミウム低減技術の実証・評価に取り組む。

<関連情報>

農林水産省 HP「食品中のカドミウムに関する情報」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_cd/index2016.html

農林水産省 HP「コメ中のカドミウム及びヒ素低減のための実施指針」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_cd/attach/pdf/sisin-1.pdf

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2017」

（カドミウムを吸収しない水稻品種「コシヒカリ環1号」）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2017.html

ウ ヒ素対策

日本において、食品を通じて摂取したヒ素については、明らかな健康影響は認められず、現状に問題があると考えられていないが、コメは日本人の主食であり、消費量が多いことから、無機ヒ素摂取量をできるだけ少なくするため、実態の把握や低減対策の確立・実証等に取り組む。「コメ中のカドミウム及びヒ素低減のための実施指針」を活用して、各都道府県における有効かつ現場で実行しやすい技術の確立・実証等に取り組む。

<関連情報>

農林水産省 HP「食品中のヒ素に関する情報」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_as/index.html

農林水産省 HP「コメ中のカドミウム及びヒ素低減のための実施指針」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_cd/attach/pdf/sisin-1.pdf

エ 野菜の病原微生物対策

生鮮野菜は、肉類と比べて微生物が増えにくいとされ、食中毒の発生につながりにくいと考えられているが、生鮮野菜が原因と考えられる大きな食中毒事件が海外で報告されている。栽培から出荷までの過程で問題が生じれば、生鮮野菜が病原微

生物に汚染されてしまう可能性があるため、それぞれの過程における病原微生物の付着・増殖の防止に向けた対策に取り組む。

(ア) 生食用野菜（全般）

生で食べる野菜については、「栽培から出荷までの野菜の衛生管理指針（第2版）」を参照する。

(イ) スプラウト

かいわれ大根等のスプラウトについては、「スプラウト生産における衛生管理指針」を参照する。

(ウ) もやし

もやしについては、「もやし生産における衛生管理指針」を参照する。

<関連情報>

農林水産省 HP「野菜の衛生管理に関する情報」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/index.html

農林水産省 HP「生鮮野菜を衛生的に保つために—栽培から出荷までの野菜の衛生管理指針—（第2版）」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/attach/pdf/index-21.pdf

農林水産省 HP「栽培から出荷までの野菜の衛生管理指針（第2版）のポイント」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/attach/pdf/index-20.pdf

農林水産省 HP「スプラウト生産における衛生管理指針」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/pdf/sprout_shishin.pdf

農林水産省 HP「もやし生産における衛生管理指針」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/attach/pdf/index-5.pdf

③ 農業生産資材の適正な使用・管理の徹底等

農薬を安全かつ適正に使用することは、農作物の安全確保及び農業生産の安定のみならず、国民の健康の保護及び生活環境の保全という観点から極めて重要である。

「農薬危害防止運動実施要綱」を参考に、関係者に対し、農薬取締法ほか関係法令に基づき遵守すべき事項について周知徹底するとともに、農薬及びその取扱いに関する正しい知識を広く普及させることにより、農薬の適正販売、安全かつ適正な使用及び保管管理並びに使用現場における周辺への配慮の徹底を進める。

<関連情報>

農林水産省 HP「農薬コーナー」

<https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>

農林水産省 HP「令和 7 年度農薬危害防止運動の実施について」（令和 7 年 4 月 25 日付け
医薬発 0425 第 1 号・7 消安第 611 号・環水大管発第 2504251 号厚生労働省医薬局長、農
林水産省消費・安全局長、環境省水・大気環境局長通知）

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/attach/pdf/index-51.pdf

農林水産省 HP「農薬の適正な使用」

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/index.html

農林水産省 HP「農薬の不適正使用により健康に悪影響を及ぼすおそれがある事案の発生
及び農薬の適正使用に係る指導の徹底について」（令和 2 年 12 月 24 日付け 2 消安第 4308
号農林水産省消費・安全局農産安全管理課長通知）

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/attach/pdf/info-7.pdf

ア 農薬の飛散による周辺作物への影響防止対策

「農薬の使用基準の遵守及び飛散防止対策の徹底について」及び農薬飛散影響防
止対策を取りまとめた「農薬飛散対策技術マニュアル」等も参考に、都道府県の農
作物病害虫防除指導関係、生産振興関係及び普及関係の部局、生産者団体等が連携
して農薬飛散影響防止のための指導を徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「農薬飛散対策技術マニュアル」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaiicyu/g_nouyaku/manual/attach/pdf/index-1.pdf

イ 無登録農薬や除草剤の販売指導の徹底

農薬の販売者等に対して、無登録農薬や農薬として使用することができない除草
剤の販売等に係る指導を徹底する。

無登録農薬に係る取締については、「無登録農薬であると疑われる資材に係る製造
者、販売者等への指導について」を、農薬として使用することができない除草剤の
販売、使用等については、「農薬として使用することができない除草剤の販売等につ
いて」を参照する。

<関連情報>

農林水産省 HP「無登録農薬であると疑われる資材に係る製造者、販売者等への指導につ
いて」（平成 19 年 11 月 27 日付け 19 生産第 5308 号農林水産省生産局農産振興課長、園
芸課長、特産振興課長通知）

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_sizai/pdf/other1.pdf

農林水産省 HP「農薬として使用することができない除草剤の販売等について」（平成 31 年 3 月 28 日付け薬生薬審発 0328 第 8 号・30 消安第 6268 号・2019 製化管第 32 号・環保企発第 1903287 号・環水大土発第 1903281 号厚生労働省医薬・生活衛生局医薬品審査管理課長、農林水産省消費・安全局農産安全管理課長、経済産業省製造産業局化学物質管理課長、環境省大臣官房環境保健部環境保健企画管理課化学物質審査室長、環境省水・大気環境局土壌環境課農薬環境管理室長通知）

<https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/attach/pdf/herbicide-7.pdf>

（２）畜産物の安全性の向上

① 生産段階における衛生管理の充実・強化等

『I（I）5（1）①ア』の項目を参照

② 飼料・飼料添加物及び動物用医薬品の適正な使用・管理の徹底等

『I（I）5（1）①イ』の項目を参照

（IV）環境と調和のとれた食料システムの確立・多面的機能の発揮

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」（令和 3（2021）年 5 月策定）では、令和 32（2050）年までに、農林水産業の CO₂ ゼロエミッション化の実現、化学農薬の使用量をリスク換算で 50% 低減、化学肥料の使用量の 30% 低減、耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を 25%（100 万 ha）に拡大する等の目標を掲げている。本戦略及びみどりの食料システム法に基づき、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の行動変容とイノベーションを進め、ネット・ゼロの実現や生物多様性保全にも貢献する。

「農林水産分野 GHG 排出削減技術海外展開パッケージ（通称：MIDORI∞INFINITY、ミドリ・インフィニティ）」（令和 7（2025）年 5 月策定）を通じて、我が国が有する食料安全保障に資する温室効果ガス（GHG）排出削減技術の海外展開を後押しし、農業・食品分野への脱炭素投資の呼び込みや気候変動ビジネスに取り組む企業の市場拡大、世界の食料安全保障ひいては我が国の食料安全保障の向上に繋げる。

また、GAP の取組などを通じた環境への負荷低減等、持続可能な農業生産や省エネルギー・省資源化、バイオマスの活用等を推進するとともに農業生産活動とのバランスを取りながら地球温暖化対策や生物多様性保全といった問題にも分野横断的に対応する。

さらに、農林水産省の全ての補助事業等において、チェックシート方式により最低限行うべき環境負荷低減の取組の実践を要件化することで、事業を実施する際に新たな環境負荷が生じないようにし、環境にやさしく、生産性も高い農業を確立する（環境配慮のチェック・要件化：令和 9（2027）年度から本格実施）。

そのため、行政機関、普及指導センター、生産者団体等の連携の強化を図りながら以下の取組を推進する。また、環境と調和のとれた農業生産に資する技術の普及を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>

農林水産省 HP「農林水産分野 GHG 排出削減技術海外展開パッケージ（通称：MIDORI∞INFINITY, ミドリ・インフィニティ）」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/midori_infinity.html

経済産業省 HP「グリーンイノベーション戦略推進会議 兼 グリーンイノベーション戦略推進会議ワーキンググループ」

https://www.meti.go.jp/shingikai/energy_environment/green_innovation/index.html

農林水産省 HP「環境保全型農業関連情報」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/hozen_type/index.html

農林水産省 HP「環境保全型農業直接支払交付金」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/kakyou_chokubarai/mainp.html

農林水産省 HP「環境配慮のチェック・要件化（みどりチェック）」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/kurokon.html>

農林水産省 HP「みどりの食料システム法について（みどり認定、基盤認定）」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/houritsu.html>

農林水産省 HP「バイオマスの活用の推進」

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/index.html>

(1) より持続性の高い農法への転換

農業分野における環境負荷の低減に向けては、経済性や生産性に留意しつつ、栽培暦の点検や見直しを行い、他の産地で実践されている取組や技術の導入を検討する等、より持続性の高い農法への転換に取り組むことが重要である。

取組にあたっては、栽培暦の点検を行うためのチェックポイントをまとめた「より持続性の高い農法への転換に向けて」を活用し、化学肥料・化学農薬の低減や有機農業に取り組む全国の産地の事例を取りまとめた「持続性の高い農業に関する事例集」、環境負荷低減等に貢献し、現場への普及が期待される技術を整理した「みどりの食料システム戦略」技術カタログも参考にしながら、栽培暦の見直しや新たな取組を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「より持続性の高い農法への転換について」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/nouhou_tenkan.html

農林水産省 HP「持続性の高い農業に関する事例集（有機農業編）」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/attach/pdf/nouhou_tenkan-17.pdf

農林水産省 HP「より持続性の高い農法への転換に向けて」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/attach/pdf/nouhou_tenkan-22.pdf

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>

農林水産省 HP「みどりの食料システム法 基盤確立事業実施計画の認定状況及びみどり投資促進税制の対象機械」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/midorihou_kibann.html

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略」技術カタログ ver. 6.0

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/catalog.html>

農林水産省 HP「グリーンな栽培体系について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gizyutu/green/index.html>

（２） 化学農薬が環境に与える負荷の低減

① 総合防除の推進

『I（I）5（1）②ア』の項目を参照

② スマート農業技術を活用した化学農薬の使用量低減

スマート農業技術の活用により農薬散布、除草の効率化を図る。具体的には、リモートセンシングによる病害虫管理、AI等を活用した病害虫発生予察、除草ロボット等の技術開発と導入・普及により、化学農薬の使用量低減や有機栽培への転換を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「スマート農業」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/index.html>

農林水産省 HP「農業新技術 製品・サービス集」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/products.html>

農林水産省 HP「農業用ドローンの普及拡大に向けた官民協議会」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/drone.html>

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略」技術カタログ ver. 6.0

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/catalog.html>

③ 農薬の適正な使用・管理の徹底等

ア 農薬の適正使用の推進

(ア) 空中散布の安全対策の強化

農薬の空中散布は効率的で効果的な防除手段であるが、その実施に当たっては、農薬飛散の防止の他、航空機の飛行に関する安全対策を徹底することが重要である。このため、都道府県は次のガイドライン等に基づき、指導及び助言を行う。

- ・ 有人ヘリコプター：「農林水産航空事業の実施について」、「農林水産航空事業実施ガイドライン」
- ・ 無人航空機：「無人ヘリコプターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン」、「無人マルチローターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン」

また、令和6年度に国土交通省へ報告された無人航空機による事故のうち、約70%は農薬散布の際に発生している状況であり、その多くは電線等への接触に起因する事故である。このような事故を未然に防ぐために、散布場所の事前確認の徹底、散布計画の策定等の基本的な対策を徹底するよう散布実施者に指導する。

なお、国土交通省航空局から、航空法に基づく無人航空機の安全な飛行を確保するため留意すべき事項について「航空局標準マニュアル（空中散布）」、無人航空機に関する事故等が発生した場合の報告手続きについて「無人航空機の事故及び重大インシデントの報告要領」等が提示されている。

<関連情報>

農林水産省 HP「農林水産航空事業の実施について」（平成13年10月25日付け13生産第4543号農林水産事務次官依命通知）

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/pdf/yuzin1.pdf>

農林水産省 HP「農林水産航空事業実施ガイドライン」（平成16年4月20日付け16消安第484号農林水産省消費・安全局長通知）

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/pdf/guide_line_2.pdf

農林水産省 HP「無人航空機による農薬等の空中散布に関する情報」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_kouku_zigyo/muzinkoukuuki.html

農林水産省 HP「無人ヘリコプターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン」（令和元年7月30日付け元消安第1388号消費・安全局長通知）

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_kouku_zigyo/attach/pdf/muzinkoukuuki-1.pdf

農林水産省 HP「無人マルチローターによる農薬の空中散布に係る安全ガイドライン」（令和元年7月30日付け元消安第1388号消費・安全局長通知）

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_kouku_zigyo/attach/pdf/muzinkoukuuki-2.pdf

国土交通省 HP「無人航空機飛行マニュアル（DID・夜間・目視外・30m・危険物・物件投下）空中散布を目的とした申請について適用」

<https://www.mlit.go.jp/common/001975907.pdf>

国土交通省 HP「無人航空機の事故等の報告及び負傷者救護義務」

https://www.mlit.go.jp/koku/accident_report.html

国土交通省 HP「無人航空機の事故及び重大インシデントの報告要領」

<https://www.mlit.go.jp/koku/content/001520661.pdf>

（イ） 住宅地等における農薬使用

住宅地等における農薬使用については、「住宅地等における農薬使用について」を参照し、農薬使用に際しての遵守事項を指導する。

<関連情報>

農林水産省 HP「住宅地等における農薬使用について」（平成 25 年 4 月 26 日付け 25 消安第 175 号・環水大土発 1304261 号農林水産省消費・安全局長、環境省水・大気環境局長通知）

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/jutakuti/pdf/20130426_jutakuch.pdf

（ウ） 土壌くん蒸剤の適正使用

土壌くん蒸剤の適正使用については、「クロルピクリン剤等の土壌くん蒸剤の適正使用について」「被覆を要する土壌くん蒸剤の使用実態等に基づく適正な取扱いの徹底について」を参照し、使用場所や周辺の状況に配慮した防除を行うよう指導を徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「クロルピクリン剤等の土壌くん蒸剤の適正使用について」（平成 18 年 11 月 30 日付け 18 消安第 8846 号農林水産省消費・安全局長通知）

<https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/pdf/cropic.pdf>

農林水産省 HP「被覆を要する土壌くん蒸剤の使用実態等に基づく適正な取扱いの徹底について」（令和 2 年 7 月 15 日付け 2 消安第 1758 号農林水産省消費・安全局農産安全管理課長通知）

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/attach/pdf/info-11.pdf

（エ） 河川等への農薬流出の防止

「水質汚濁防止のための農薬の適正使用の徹底について」、「農薬適正使用の指導に当たっての留意事項について」及び「水田において使用される農薬における止水期間の遵守の徹底等について」に基づき、水田における農薬使用に際し止水に関する注意事項を守り、畦畔の整備などの必要な措置を講じ、河川等への農薬の流出を防止するよう指導する。

<関連情報>

「水質汚濁防止のための農薬の適正使用の徹底について」（平成6年10月6日付け6農蚕第6086号農林水産省農蚕園芸局長通知）

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/attach/pdf/info-14.pdf

農林水産省HP「農薬適正使用の指導に当たっての留意事項について」（平成19年3月28日付け18消安第14701号農林水産省消費・安全局長、生産局長、経営局長連名通知）

<https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/pdf/h190328.pdf>

「水田において使用される農薬における止水期間の遵守の徹底等について」（平成23年10月12日付け23消安第3601号農林水産省消費・安全局農産安全管理課長通知）

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/attach/pdf/info-15.pdf

(オ) 農薬による蜜蜂の被害防止

農薬による蜜蜂の被害防止については、「令和7年度の蜜蜂被害軽減対策の推進について」を参照し、農薬使用者や養蜂家等の関係者に蜜蜂被害に関する情報を周知するとともに情報共有の徹底及び被害軽減対策を推進する。

<関連情報>

農林水産省HP「農薬による蜜蜂への影響について」

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_mitubati/honeybee.html

農林水産省HP「令和7年度の蜜蜂被害軽減対策の推進について」（令和7年6月19日付け7消安第1800号・7畜産第820号農林水産省消費・安全局農産安全管理課長、畜産局畜産振興課長通知）

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_mitubati/attach/pdf/notice-10.pdf

イ 農薬の適正管理の徹底等

農薬の用途外使用等の誤った取扱いによる事故の発生を防止するため、販売者、農業者等に対し、正しい保管管理の指導に取り組むとともに、特に、農薬の誤飲による中毒事故については、「農薬の誤飲を防止するための取組について」に基づき、指導を徹底する。

また、やむを得ず使用後に残った農薬や使用後の農薬の空容器は、廃棄物処理業者への処理の委託等により環境に影響が生じないように適正処理を徹底し、都道府県の指導の下、組織的な回収・処理を行う。

<関連情報>

農林水産省 HP「農薬の誤飲を防止するための取組について」（平成 23 年 5 月 16 日付け 23 消安第 1114 号農林水産省消費・安全局農産安全管理課長通知）
https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/attach/pdf/info-16.pdf

ウ 販売が禁止されている農薬の適正処理

販売が禁止されている農薬については、周知及び適正処理の指導を徹底する。

(3) 化学肥料が環境に与える負荷の低減

① 土壌診断に基づく適正施肥や効率的施肥の推進

土壌診断に基づく適正施肥の速やかな現場導入や、うね内部分施用技術等の局所施肥技術や土着菌根菌の活用によるリン酸肥料の節約など施肥低減技術の導入・実践を推進する。また、化成肥料や配合肥料を使用する場合、リン酸・加里の土壌への過剰蓄積が顕著となっている地域においては、これらの成分をあらかじめ抑制した肥料の利用を促す。また、土づくり専門家との連携及び土づくり専門家リストの活用により、土壌診断に基づく土づくりの取組を推進する。

<関連情報>

農研機構 HP「土着菌根菌を活用することでリン酸肥料を節約できる」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/054611.html

農研機構 HP「キャベツ・ハクサイ等露地野菜作において生産コストと環境負荷を大幅に低減できるうね内部分施用技術」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/055669.html

農研機構 HP「野菜作における可給態窒素レベルに応じた窒素施肥指針作成のための手引き」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134396.html

農研機構 HP「水田土壌可給態窒素の簡易・迅速評価マニュアル」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/062019.html

農研機構 HP「簡易測定用試薬と簡易吸光度計を用いた畑土壌分析マニュアル」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/dojyoubunsekimanyuaru1-2.pdf

農研機構 HP「日本土壌インベントリー 土壌管理アプリ集」
<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/main/menu/static/>

農林水産省 HP「土づくり専門家リスト」
https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/tuti_list.html

農研機構 HP「施肥時期の変更を中心としたニホンナシ発芽不良対策マニュアル」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/077258.html

農研機構 HP「圃場一筆毎の肥効を見える化する土壌環境 API 標準作業手順書」
<https://sop.naro.go.jp/document/detail/101>

② バイオマス活用の推進

資源・エネルギーの地産地消等に向け、バイオマスの高度利用に資する技術開発や地域の未利用資源等を活用した「農林漁業循環経済地域」の創出、地方自治体によるバイオマス利活用構想（都道府県・市町村計画及び産業都市構想等）の策定や構想の実現を推進する。また、多種多様なバイオマス利用技術の到達レベルを評価した「バイオマス利用技術の現状とロードマップについて」により重点的に活用する実用化技術とバイオマスを明らかにしており、本ロードマップを通じて、バイオマス利活用技術を後押ししつつ、事業化に向けたイノベーションを重点的に推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「バイオマスの活用の推進」
<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/index.html>

ア 地域有機資源等の活用促進

耕畜連携の体制づくりや堆肥品質の改善等を進め、堆肥の有効利用、物流性や散布性等を向上させたペレット堆肥等の普及に向けた取組を推進する。さらに、メタン発酵後の副産物である消化液（バイオ液肥）や二酸化炭素、余剰熱の温室利用は、「メタン発酵消化液の畑地における液肥利用－肥料効果と環境への影響－」など、農業研究分野において生産コストの低減等の技術を活用したバイオマス利活用の優良事例があり、これらを活用して地域資源の循環利用を推進する。

<関連情報>

農研機構 HP「混合堆肥複合肥料の製造とその利用～家畜ふん堆肥の肥料原料化の促進～」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/133583.html

農研機構 HP「畑地におけるメタン発酵消化液の肥料効果と環境影響」

https://www.naro.go.jp/project/results/laboratory/nkk/2012/220e0_01_50.html

日本有機資源協会 HP「バイオ液肥活用先進事例集」

https://www.jora.jp/wp-content/uploads/2023/06/2024_jireisyu.pdf

農林水産省 HP「バイオマスの活用の推進」

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/index.html>

イ 家畜排せつ物の有効利用（堆肥の高品質化と広域流通の推進）

都道府県においては、耕種部局と畜産部局が協力して耕畜連携を推進する。さらに、地域間での堆肥の需給バランスの改善に向け、機動的なマッチング体制の整備に努める。また、耕種農家のニーズに対応した堆肥の生産推進のため、堆肥の高品質化、ペレット化、化学肥料等との配合などに関する情報提供を行う。

<関連情報>

農林水産省 HP「畜産環境対策」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kankyo/taisaku/>

（公社）中央畜産会 HP「畜ふん堆肥の広域利用促進ガイドブック」

https://jlia.lin.gr.jp/data/2021/shien/taihiriyousokushin_guidebook.pdf

農研機構 HP「混合堆肥複合肥料の製造とその利用～家畜ふん堆肥の肥料原料化の促進～」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/133583.html

農林水産省 HP「ペレット堆肥の広域流通に向けて」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/pellet_kouiki.html

（一財）畜産環境整備機構 HP「畜産環境関連 Q&A～堆肥化技術～」

<https://www.leio.or.jp/technical/qanda/>

（一財）畜産環境整備機構 HP「畜産環境対策技術～堆肥化技術～」

<https://www.leio.or.jp/technical/information/>

農林水産省 HP「先進事例の横展開・関連情報の提供」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/kokunaishigen/zenkokuyougikai/information.html

（一財）畜産環境整備機構 HP「耕畜連携事例～地域の優良事例～」

<https://www.leio.or.jp/technical/case/>

農林水産省 HP「クロピラリド関連情報」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/clopyralid/clopyralid.html>

（一財）畜産環境整備機構 HP「堆肥化施設設計マニュアル等の配付について」

<https://www.leio.or.jp/news/n376.html>

農林水産省 HP「指定混合肥料」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_hiryo/shiteikongou.html

農林水産省 HP「国内資源の肥料利用の拡大について」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/kokunaishigen.html

農林水産省 HP「国内肥料資源の利用拡大に向けた関係事業者間のマッチングサイト」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/kokunaishigen/matching.html

(ア) 十分に発酵温度を保ち時間をかけた堆肥の利用促進

生鮮野菜の生産において堆肥を施用する場合は、病原微生物による汚染を防止するため、切り返しを適切に行い、発酵過程において病原微生物を死滅させるために十分に温度を保ち時間をかけて生産された堆肥を使用するよう指導を徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「栽培から出荷までの野菜の衛生管理指針（第2版）」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_yasai/attach/pdf/index-21.pdf

(イ) 牛等の排せつ物に由来する堆肥中のクロピラリドが原因と疑われる園芸作物等の生育障害の発生への対応

クロピラリドは、国内では農薬として登録されていない。一方で、海外においてイネ科作物等に使用されている除草剤の成分であり、クロピラリドを含む飼料が給与された牛等の排せつ物に由来する堆肥に含まれる可能性があることから、堆肥・培土等の製造・販売業者等に対し、「牛等の排せつ物に由来する堆肥中のクロピラリドが原因と疑われる園芸作物等の生育障害の発生への対応について」に基づき、指導する。

<関連情報>

農林水産省 HP「クロピラリド関連情報」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/clopyralid/clopyralid.html>

農林水産省 HP「牛等の排せつ物に由来する堆肥中のクロピラリドが原因と疑われる園芸作物等の生育障害の発生への対応について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/clopyralid/attach/pdf/clopyralid-8.pdf>

ウ 食品循環資源の再生利用等の推進

都道府県、市町村等においては、食品循環資源を飼料及び肥料等に再生利用する技術の普及に努めるとともに、食品リサイクル法における再生利用の優先順位を踏まえ、可能な限り飼料化、次いで肥料化への活用を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「食品リサイクル法」

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/161227_6.html

農林水産省 HP「食品リサイクルの推進」

https://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/index.html

③ 化学肥料の使用量低減

スマート農業技術の活用により施肥の効率化を図る。具体的には、土壌や生育診断等のデータに基づく施肥管理、ドローンや局所施肥機によるピンポイント肥料散布等の技術開発と導入・普及により、化学肥料の使用量低減を推進する。

また、堆肥や下水汚泥など肥料成分を含有する国内資源の利用拡大を図るため、肥料の原料供給事業者、肥料製造事業者、肥料利用者のマッチング等を推進する。その際、国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会の取組である、マッチングフォーラム、国内肥料資源推進ロゴマーク、国内資源由来肥料の活用事例集及び国内肥料資源マッチングサイト等を活用する。

さらに、汚泥資源の肥料利用を拡大するため、令和5（2023）年10月に創設した新たな公定規格「菌体りん酸肥料」を活用し、品質管理が徹底され、多様なニーズに応じた汚泥資源を利用した肥料の開発及び生産を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「スマート農業」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/index.html>

農林水産省 HP「農業新技術 製品・サービス集」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/products.html>

農研機構 HP「野菜用高速局所施肥機を活用した畝内二段施肥法標準作業手順書」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/SOP22-206aK20221005.pdf
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/SOP22-206aK20221005.pdf
<https://sop.naro.go.jp/document/detail/78>

農林水産省 HP「国内肥料資源の利用拡大に向けた全国推進協議会」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/kokunaishigen/zenkokusuishin.html

農林水産省 HP「国内肥料資源マッチングサイト」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/kokunaishigen/matching.html

農林水産省 HP「肥料成分を保証可能な新たな公定規格（菌体りん酸肥料）の創設について」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_hiryo/kintairinsan.html

④ 肥料の適正な使用・管理の徹底等

ア 法令違反の未然防止に向けた取組

肥料の生産において、肥料の品質の確保等に関する法律への違反を未然に防止するため、汚泥肥料については「汚泥肥料中の重金属管理手引書」に基づき指導を徹底している。特殊肥料については、都道府県に対して、特殊肥料の届出の受理及び立入検査における留意事項について依頼文書を発出し、指導の徹底を依頼している。

また、事業者自身で確認可能な事項をまとめた「肥料事業者のための自主管理マニュアル」の周知を行っている。

イ BSE まん延防止のためのリスク管理措置の徹底

動物由来たん白質を原料とする肥料は、牛の飼料への誤用・流用を防止し、BSEの感染の遮断に万全を期す観点から、肥料生産業者に対し、「肥料の品質の確保等に関する法律第二十一条第一項第一号及び第二号の規定に基づき普通肥料の表示の基準を定める件」により家畜等の口に入らないところで保管・使用する旨の表示を義務付けている。

ウ 肥料効果のない資材の肥料への混入の防止

知事登録の普通肥料または特殊肥料を生産する業者に対し、ニームオイル等の肥料効果が認められない資材を肥料に混入しないよう指導を徹底する。

エ 硝酸性窒素の溶脱の防止

硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素による地下水汚染の原因が肥料によるものと特定されている場合、都道府県をはじめとする関係者は、硝酸性窒素の溶脱を防止するため、地域における協議会の設置、土壌管理状況の把握・評価、適正施肥の推進等により具体的な汚染防止対策の実施及び改善状況の確認を行う。また、過剰施肥の場合、作物に利用されない肥料成分は環境負荷の原因（一酸化二窒素や硝酸性窒素など）となるため、肥料の効率的な利用により過剰な施肥を抑制するための各種取組を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「肥料の品質と安全性の確保」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_hiryo/index.html

農林水産省 HP「汚泥肥料中の重金属管理手引書」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_hiryo/tebikiso.html

農林水産省 HP「肥料事業者のための自主管理マニュアル」（令和4年2月公表）

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_hiryo/220513.html

農林水産省 HP「肥料の品質の確保等に関する法律第二十一条第一項第一号及び第二号の規定に基づき普通肥料の表示の基準を定める件」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_hiryo/attach/pdf/kokuji-20.pdf

環境省 HP「硝酸性窒素等地域総合対策ガイドライン」（令和3年3月環境省水・大気環境局土壌環境課地下水・地盤環境室）

https://www.env.go.jp/water/chikasui/post_91.html

（４） バイオスティミュラントの活用

バイオスティミュラントを使用する際には、「バイオスティミュラントの表示等に係るガイドライン」に沿って効果や使用に係る表示が適正に行われている製品を選択する。

<関連情報>

農林水産省 HP「バイオスティミュラントの表示等に係るガイドライン」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/attach/pdf/biostimulant-28.pdf>

（５） 有機農業の推進

有機農業に関する技術の研究開発及びその成果の普及の促進に加え、雑草対策などの生産技術の実証・成果の普及、栽培技術向上に向けた研修等を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「【有機農業関連情報】 トップ ～有機農業とは～」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/index.html>

農研機構 HP「有機農業に関する栽培マニュアル・手引き・標準作業手順書など」

<https://www.naro.go.jp/laboratory/carc/organic/yuki-nogyo/manual.html>

農研機構 HP「有機農業栽培マニュアル（第3版）」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/yuukinougyousaibaimanual2019018_ver3.pdf

農研機構 HP「有機農業実践の手引き」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/narc_man_yuuki.pdf

農林水産省 HP「有機食品の検査認証制度」

https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/yuuki.html

① 有機農業栽培体系の構築

有機農業栽培体系の構築に向け、土づくり及び雑草管理技術の実証・成果の普及を推進する。

<関連情報>

北海道 HP「有機導入に関する手引き」

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/shs/yuki/104931.html>

鹿児島県 HP「有機農業の手引き 有機百培（栽培編）」

<http://www.pref.kagoshima.jp/ag04/sangyo-rodo/nogyo/gizyutu/kankyo/youki/youkihyakubai.html>

ア 土づくりの推進

有機農業を構成する要素の1つとして、土づくりの技術の実証・普及を推進する。

<関連情報>

日本土壌協会 HP「有機栽培技術の手引き」

<https://www.japan-soil.net/report/h25.html>

有機農業参入促進協議会 HP「有機農業をはじめよう！土づくり編」

<https://yuki-hajimeru.net/wp-content/uploads/2011/11/hajimeyo3.pdf>

イ 雑草管理技術

有機農業に取り組む際に大きな作業負担となっている雑草対策について生産技術の実証・成果の普及を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「水稲有機栽培における早期湛水深水管理の雑草防除抑草技術体系」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutsuhasshin/techinfo/attach/pdf/organic-1.pdf>

農林水産研究情報総合センターHP「機械除草技術を中心とした水稲有機栽培技術マニュアル」

<https://ml-wiki.sys.affrc.go.jp/Organic-Pro/start>

農研機構 HP「水田用自動抑草ロボット「アイガモロボ」の抑草効果を実証」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/160389.html

農研機構 HP「関東地域における大豆有機栽培技術体系標準作業手順」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/111>

農研機構 HP「高能率水田用除草機を活用した水稲有機栽培の手引き」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/suitouyuukisaibai20200406.pdf

農研機構 HP「深水管理による省力的な有機水稻栽培を実現する農地整備&栽培管理マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/fukamizu_shoryoku_yu_kisuitosaibai_manual_20250410.pdf

農研機構 HP「省力除草、安定生産の水田有機栽培体系の実証と支援アプリケーションの開発」成果集

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/suiden_yuuki_manual3.pdf

② 有機 JAS 認証の取得推進

有機 JAS 認証の取得推進のための必要な見直しを行うとともに、諸外国との有機同等性の取得や海外への普及を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「JAS (Japanese Agricultural Standards、日本農林規格)」

<https://www.maff.go.jp/j/jas/index.html>

農林水産省 HP「有機食品の検査認証制度」

https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/yuuki.html

(6) 地球環境問題に対応した農業の推進

国際的な動向を踏まえ、農業者が自ら積極的に取り組むことで持続可能な生産基盤を築くとともに、サプライチェーン全体でこれを後押しする取組を進める。また、取組を消費者に認知してもらうことで、農業者と消費者の結びつきの強化につなげる。

<関連情報>

外務省 HP「パリ協定 (和文)」

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000197312.pdf>

農林水産省 HP「「国連気候変動枠組条約第 30 回締約国会議 (COP30)」の結果 (農林水産省関係) について」

https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/b_kankyo/251128.html

① 2050 年ネット・ゼロの実現に向けた農業分野における地球温暖化対策の更なる推進

令和7（2025）年2月に「地球温暖化対策計画」が改定され、新たに令和17（2035）年度、令和22（2040）年度の温室効果ガス削減目標が定められるとともに、「GX2040ビジョン」が策定された。

世界全体での1.5℃目標及び2050年ネット・ゼロの実現に向け、農業においても、令和3（2021）年5月に策定された「みどりの食料システム戦略」、令和7（2025）年4月に改定された「農林水産省地球温暖化対策計画」、令和7（2025）年5月に策定された「農林水産分野 GHG 排出削減技術海外展開パッケージ（通称：MIDORI∞INFINITY、ミドリ・インフィニティ）」等を踏まえ、以下の取組を推進する。

<関連情報>

環境省 HP「地球温暖化対策計画」

<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/keikaku/250218.html>

経済産業省 HP「GX2040 ビジョン」

<https://www.meti.go.jp/press/2024/02/20250218004/20250218004.html>

環境省 HP「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」

<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/keikaku/chokisenryaku.html>

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>

農林水産省 HP「農林水産省地球温暖化対策計画」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/climate/taisaku/top.html>

農林水産省 HP「農林水産分野 GHG 排出削減技術海外展開パッケージ（通称：MIDORI∞INFINITY、ミドリ・インフィニティ）」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/midori_infinity.html

ア 温室効果ガス排出削減対策

温室効果ガスの排出削減対策としてヒートポンプや木質バイオマス利用加温設備等の燃油依存度の低い省エネ型の加温設備等や省エネ生産管理の取組を施設園芸の生産現場へ普及するよう努める。技術の関連情報については、I（IV）（6）④「省エネルギー・省資源型農業の推進」を参照する。温室効果ガス排出抑制技術について、生産現場への普及の早期実現に向け、研究開発、実証試験を推進しているところであるが、このうち効果が明らかになった水稻の栽培技術（中干し期間の延長、秋耕）については、これまでの研究結果を踏まえ、普及に向けた取組を進める。さらに、農産物の生産段階における環境負荷低減の取組を消費者に分かりやすく伝える「見える化」を推進するとともに、民間投資を促す観点から、温室効果ガスの排出削減・吸収量をクレジットとして認証し取引可能とするJ-クレジット制度の活用を推進する。特に近年、「水稻栽培における中干し期間の延長」を中心に農業分野の取組が広

がってきており、また、令和8（2026）年2月には「牛への飼料添加物（暖気中の温室効果ガス削減に資するもの）を使用した飼料の給餌」が新しく方法論に追加された。引き続き新たな方法論の検討等を進め、当該制度の取組を推進する。なお、「水稻栽培における中干し期間の延長」の実施に当たっては、ビオトープや江の設置、作期分散による中干し時期の分散など、水生生物への影響を緩和するよう配慮に努める。

<関連情報>

農林水産省 HP 「みどりの食料システム戦略」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>

農林水産省 HP 「「みどりの食料システム戦略」技術カタログ ver. 6.0」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/catalog.html>

農林水産省 HP 「農林水産省地球温暖化対策計画」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/climate/taisaku/top.html>

環境省 HP 「地球温暖化対策計画」

<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/keikaku/250218.html>

環境省 HP 「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」

<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/keikaku/chokisenryaku.html>

経済産業省 HP 「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」

https://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/global_warming/ggs/index.html

農林水産省 HP 「地球温暖化対策」

（施設園芸省エネルギー生産管理マニュアル）

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/index.html>

農研機構 HP 「成長点局所加温とCO2施用を組み合わせたミニトマト栽培技術」【2019年度改訂版】

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/133091.html

農研機構 HP 「水田メタン発生抑制のための新たな水管理技術マニュアル」

<https://www.naro.go.jp/laboratory/niaes/contents/manual.html>

J-クレジット制度 HP

<https://japancredit.go.jp/>

農林水産省 HP 「農林水産分野のJ-クレジット制度」

<http://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/climate/jcredit/top.html>

農林水産省 HP 「「水稻栽培における中干し期間の延長」のJ-クレジット制度について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/#credit>

J-クレジット制度 HP 「水稻栽培における中干し期間の延長」

https://japancredit.go.jp/pdf/methodology/AG-005_v3.5.pdf

J-クレジット制度 HP「牛への飼料添加物（暖気中の温室効果ガス削減に資するもの）を使用した飼料の給餌」

https://japancredit.go.jp/pdf/methodology/AG-007_v1.0.pdf

農林水産省 HP「農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/mieruka.html

農林水産省 HP「フードサプライチェーンにおける脱炭素化の実践・見える化（情報開示）」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/climate/visual.html>

イ 農地土壌の温室効果ガスの吸収源としての機能の活用

農林水産省では、平成 25（2013）年度以降、農地土壌を二酸化炭素吸収源として位置づけ、農地土壌における炭素貯留量の算定を行い、国連気候変動枠組条約事務局へ報告（温室効果ガスインベントリ報告）している。都道府県においては、こうした農地土壌が有する新たな価値を農業者や消費者などへ伝えるよう努めるとともに、炭素含有量など、農地土壌を将来にわたって健全な状態で保全するための基礎データとなる種々の情報について定期的にモニタリングを実施する。さらに、土壌診断に基づく堆肥等による土づくりや緑肥の導入により農地土壌の炭素貯留機能を向上させる取組を実施する。また、J-クレジット制度も活用しバイオ炭の農地施用による炭素貯留の取組を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>

農林水産省 HP「農林水産省地球温暖化対策計画」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/climate/taisaku/top.html>

環境省 HP「地球温暖化対策計画」

<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/keikaku/250218.html>

環境省 HP「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略」

<https://www.env.go.jp/earth/ondanka/keikaku/chokisenryaku.html>

経済産業省 HP「2050 年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」

https://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/global_warming/ggs/index.html

農林水産省 HP「農地土壌をめぐる事情」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/tuchi_kanren.html

農研機構 HP「土壌の CO₂ 吸収「見える化」サイト」

<https://soilco2.rad.naro.go.jp/>

国際連合食糧農業機関 HP「地球土壌有機態炭素地図」

<http://54.229.242.119/GSOCmap/>

農研機構 HP「緑肥利用マニュアル -土づくりと減肥を目指して-」
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134374.html

農林水産省 HP「バイオ炭の農地施用をめぐる事情」
https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/tuchi_kanren.html

J-クレジット制度 HP「バイオ炭の農地施用」
<https://japancredit.go.jp/about/methodology/>

② 農業分野における気候変動適応策の推進

近年、高温による農作物の生育障害、品質低下等が顕在化しており、地球温暖化の進行に伴い猛暑や豪雨のリスクが更に高まることが予測されている。気候変動による被害を回避・軽減するため、生産安定技術や対応品種・品目転換を含めた対応技術を開発し、農業者等が気候変動に対するリスクマネジメントを行えるよう技術の普及を進めるなど、農業生産へのリスク軽減に取り組む。さらに、今まで生産出来なかった亜熱帯・熱帯果樹等の新規導入や転換など気候変動がもたらす機会の活用を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略」環境と調和のとれた食料システムの確立
<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>

農林水産省 HP「農林水産省気候変動適応計画」
<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/climate/adapt/top.html>

農林水産省 HP「果樹農業の振興を図るための基本方針（果樹農業振興基本方針）」
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/fruits/attach/pdf/index-198.pdf>

農林水産省 HP「気候変動の影響への適応に向けた将来展望 気候変動がもたらす機会の活用（熱帯果樹編）」
<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/climate/report2018/attach/pdf/report-122.pdf>

農林水産省 HP「地域における気候変動適応実践セミナー」
<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/climate/seminar/top.html>

農林水産省 HP「気候変動の影響への適応に向けた将来展望 ウェブ検索ツール」
<https://adaptation-platform.nies.go.jp/external/nousui/index.html>

農林水産省 HP「地域の気候変動適応計画調査・分析委事業」
（気候変動の影響への適応に向けた将来展望）
<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/climate/report2018/report.html>

環境省 HP「気候変動への適応」
<https://www.env.go.jp/earth/tekiou.html>

国立環境研究所 HP「気候変動適応情報プラットフォーム」

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/>

農林水産省 HP「地球温暖化対策」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/index.html>

農林水産省 HP「地球温暖化影響調査レポート」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/report.html>

農林水産省 HP「気候変動に負けない「新たな品目・品種の導入による産地づくりセミナー」」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/index.html#seminar>

農林水産省 HP「農業生産における気候変動適応ガイド（水稻編）」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/attach/pdf/index-131.pdf>

農林水産省 HP「農業生産における気候変動適応ガイド（りんご編）」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/attach/pdf/index-136.pdf>

農林水産省 HP「農業生産における気候変動適応ガイド（うんしゅうみかん編）」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/attach/pdf/index-140.pdf>

農林水産省 HP「農業生産における気候変動適応ガイド（ぶどう編）」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/attach/pdf/index-144.pdf>

農林水産省 HP「農業新技術 2008」（水稻栽培における地球温暖化への適応策）

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology.htm

農研機構 HP「帰化アサガオ類まん延防止技術マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/012185.html

農研機構 HP「サイズへの適期灌水を実現するための『灌水支援システム』Web システム 開発者向け標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/80>

③ 農業機械が環境に与える負荷の低減

農業機械の導入・使用に当たっては排出ガス規制に適合し、排出ガス基準への適合の表示が付されたものを選択する。また、温室効果ガスの排出削減に資する小型電動農機の普及を推進する。

<関連情報>

環境省 HP「特定特殊自動車排出ガス規制法」

https://www.env.go.jp/air/car/tokutei_law.html

環境省 HP「水質汚濁に係る環境基準」

<https://www.env.go.jp/ki jun/mizu.html>

④ 省エネルギー・省資源型農業の推進

昨今の世界的な原油価格の変動、我が国の脆弱なエネルギー供給構造等を踏まえ、「省エネルギー・省資源のための技術指導について」に基づき、省エネルギー・省資源対策に取り組む。

<関連情報>

農林水産省 HP「地球温暖化対策」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/index.html>

農林水産省 HP「地域温暖化対策」

(施設園芸省エネルギー生産管理マニュアル)

(施設園芸省エネルギー生産管理チェックシート)

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/index.html>

農林水産省 HP「施設園芸等の省エネルギーに係る通知」

(施設園芸の生産現場における省エネルギーに向けた取組強化の徹底について)

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/attach/pdf/index-166.pdf>

農林水産省 HP「施設園芸における化石燃料の使用量削減に向けた取組について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/midori.html>

農林水産省 HP「「みどりの食料システム戦略」技術カタログ ver. 6.0」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/catalog.html>

農研機構 HP「超省エネ・高強度な次世代型パイプハウス施工マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/046016.html

農研機構 HP「成長点局所加温と CO2 施用を組み合わせたミニトマト栽培技術」【2019 年度改訂版】

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/133091.html

農研機構 HP「ナノファイバー断熱資材活用マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/079866.html

⑤ 農業分野における生物多様性保全の更なる推進

我が国の農業は、二次的自然として豊かな自然を育てており、適切な生産活動を行うことによって我が国の生物多様性の保全に貢献することが重要である。このため、都道府県、普及指導センター等は I (IV)「環境と調和のとれた食料システムの確立・多面的機能の発揮」に記載した農薬・肥料の適正使用等の生物多様性に配慮した生産活動及びその効果の評価手法を普及することが重要である。

さらに、米について、生物多様性保全と温室効果ガス削減の取組を行っていることを消費者に分かりやすく伝える「見える化」を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/index.html>

農林水産省 HP「農林水産省生物多様性戦略」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/c_bd/bds_maff/index.html

農林水産省 HP「見つけて！農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/mieruka.html

農林水産省 HP「生物多様性の保全・再生（パンフレット、手引等）」

（生態系ネットワーク財政支援制度集～川・森・農地・海の自然をつないで地域を豊かに～）」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/c_bd/pr/pr.html#ENFSPC

農林水産省 HP「生物多様性の保全・再生（パンフレット・手引き等）」

（The 自然資本～生物多様性保全の経済的連携に向けて～）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/c_bd/pr/pr.html#TheNC

農林水産省 HP「生物多様性の保全・再生（パンフレット・手引き等）」

（生きものマークガイドブック）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/c_bd/pr/pr.html#LTMG

環境省 HP「外来種被害防止行動計画」

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/actionplan.html>

環境省 HP「生態系被害防止外来種リスト」

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>

農研機構 HP「鳥類にやさしい水田がわかる生物多様性の調査・評価マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/080832.html

農研機構 HP「魚が棲みやすい農業水路を目指して～農業水路の魚類調査・評価マニュアル～」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/079440.html

(7) 農業由来廃プラスチックの資源循環の推進

① 資源の有効利用を基本とした適正処理

農業由来廃プラスチックについて、関係機関は、通常、個々の農業者が排出する量が少なく、発生地点が広く分散していることから、農業者個々において処理を行うより、一体的に処理を行う方が、経済性及び環境負荷の観点で一定の効果が期待できる。このため、既存の回収・処理体制の運用強化や改善、農業者への適正処理に関する情報提供等、必要な支援措置を積極的に講ずるものとする。

農業由来廃プラスチックの適正処理を推進するためには、地域全体で安定的かつ確実に回収を実施することが不可欠であるとともに、リサイクルを行う場合には、種類別に分別、混入する異物を除去することが特に重要である。関係機関は、回収・分別・洗浄等により資源の有効利用に努めるよう農業者への指導を行うものとする。

また、農業由来廃プラスチックの処理に当たっては、素材循環重視のリサイクル（マテリアルリサイクル及びケミカルリサイクル）を基本とし、リサイクルが経済性、技術的可能性、労働確保性等を考慮した上で困難な場合には、熱回収等の手法を活用することにより、資源の有効利用を基本とした適正処理を推進するものとする。

② 排出抑制

関係機関は、経済性、技術的可能性、労働確保性等も総合的に考慮の上、農業者に対し、以下の取組を促進することにより、農業由来廃プラスチックの排出抑制を推進する。

ア 排出抑制に資する資材の使用の促進

耐久性が強化されたハウス用の中長期展張フィルム、従前の強度等の機能が確保された薄膜の農業用フィルムの使用を促進する。また、使用後の回収が困難、回収は可能だが回収・異物の除去時の作業負担が大きい等の農業生産資材については、微生物などの働きによって分解し、最終的には二酸化炭素と水にまで変化する生分解性を持つ素材を使用した資材の使用を促進する。

イ プラスチック資材の使用の合理化の促進

適切な巻き数でのサイレージ調製による使用量の最適化や育苗箱等を使用後に洗浄・消毒し反復利用することによる長期使用を促進する。

③ プラスチック被覆肥料の被膜殻の流出防止

肥料成分をプラスチック等の被膜で覆った被覆肥料は、作物が必要とする時期に肥料成分が溶け出すことで、環境負荷の低減が図られ、追肥等が不要となることから省力化にも役立つものであるが、肥料成分溶出後の被膜殻が河川等に流出することが懸念されている。

近年、プラスチック汚染に関する法的拘束力のある国際文書の策定に向けた議論の進展やプラスチック被膜殻の海洋流出による環境汚染への世間の関心が高まりつつある状況にあり、令和4（2022）年1月には「2030年にはプラスチックを使用した被覆肥料に頼らない農業に。」を理想に掲げて肥料関係団体から、プラスチック被膜殻の海洋流出防止に向けた取組方針が公表され、また、令和8年1（2026）2月には当該取組方針の取組状況が公表されている。

このため、ほ場からのプラスチック被膜殻の流出防止技術や、プラスチック被覆肥料の代替肥料の開発等、様々な技術の実証を推進するとともに、実証で得られた成果の生産現場での定着を図る。

<関連情報>

環境省 HP「廃棄物等の処理」

<https://www.env.go.jp/recycle/waste/>

農林水産省 HP「園芸用プラスチック適正処理対策」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/used_plastic.html

農林水産省 HP「プラスチック資源循環（農業生産）」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/pura-jun/>

農林水産省 HP「プラスチック被覆肥料の代替資材・プラスチック被膜殻の流出防止対策に係る事例」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/attach/pdf/hihuku_hiryo_tai_saku-30.pdf

農林水産省 HP「緩効性肥料におけるプラスチック被膜殻の流出防止に向けた対応の強化について」（令和4年1月24日付け3農産第2561号農産局長通知）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/attach/pdf/hihuku_hiryo_tai_saku-15.pdf

農林水産省 HP「プラスチックを使用した被覆肥料代替技術 活用事例集」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/attach/pdf/hihuku_hiryo_tai_saku-37.pdf

農林水産省 HP「緩効性肥料におけるプラスチック被膜殻の流出防止に向けた対応の継続・強化について」（令和8年2月13日付け7農産第4549号農産局長通知）

https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_hiryo/attach/pdf/hihuku_hiryo_tai_saku-45.pdf

（Ⅴ） 農村の振興

1 農福連携の推進

「農福連携等推進ビジョン（2024改訂版）」（令和6年6月5日農福連携等推進会議決定）に基づき、「地域で広げる」「未来に広げる」「絆を広げる」を新たなスローガンに、「農福連携等を通じた地域共生社会の実現」を目指して、法務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省が連携した施策を推進する。

<関連情報>

首相官邸 HP「農福連携等推進ビジョン（2024改訂版）」

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/nousui/noufuku_suishin_kaigi/pdf/2024_kaiteiban.pdf

農林水産省 HP「農福連携に関わる人材育成のための研修」

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/seminars.html>

農林水産省 HP「農福連携等応援コンソーシアム」

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/conso.html>

農林水産省 HP「農福連携に関連するパンフレット・マニュアル」

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/pamphlet.html>

農研機構 HP「スマート農業実証プロジェクト「長崎せいひ農協長崎びわ部会」」

<https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/r2/results/kaju-cha/155351.html>

一般社団法人日本農福連携協会 HP「「農福連携×スマート農業」PR資料」

<https://x.gd/IyZoC>

一般社団法人日本農福連携協会 HP「作物別農作業 標準モデルと作業難易度一覧表」

<https://x.gd/4Xxbb>

2 鳥獣被害防止対策の推進

野生鳥獣による農作物被害の防止のためには、農地等に野生鳥獣を寄せ付けないための生息環境管理、侵入防止柵の整備等による侵入防止対策、被害を及ぼす鳥獣の捕獲の3つの対策を地域ぐるみで実施していくことが重要である。

このため、農作物の被害状況を的確に把握し、効果的かつ効率的な被害防止対策の実施に必要な情報を得て、各地域において、鳥獣被害防止特別措置法のほか、各関係法令及び各種マニュアル等に基づき、地域ぐるみで対策を推進する。

（1）野生鳥獣を寄せ付けない営農管理の徹底等による生息環境管理の推進

鳥獣被害対策においては、農作物残さやひこばえ（収穫後の再生イネ）、放任果樹等が野生鳥獣を誘引する原因となることや耕作放棄地等が野生鳥獣の隠れ場所となりやすい。

このことから、鳥獣に対する「無意識の餌付け」を防止するため、農作物残さ等の適切な管理・除去や、ひこばえ及び放任果樹等を放置しないなどの、営農管理を徹底するとともに、野生鳥獣が農地や集落に接近できる場所を減らすため、耕作放棄

地等の草刈りや藪の刈払い、侵入防止柵周辺に緩衝帯を設置するなど、環境整備等による「生息環境管理」の取組を推進する。

(2) 計画的な侵入防止対策の推進

侵入防止柵（金網柵、ワイヤーメッシュ柵及び電気柵等）については、個々のほ場を囲っても隣接するほ場に侵入するといったこともあることから、鳥獣の侵入経路等を踏まえ、集落単位での効率的な整備を推進する。整備に当たっては、専門家等からの指導やマニュアル等を参照して正しい方法で設置し、整備した柵については、定期的な見回りと補修を行う。その際、被害が発生しやすい時期の前や農閑期などに集中的に見回りと補修や補強を行うなど、持続性のある方策とすることが重要である。

さらに、被害を及ぼす個体・個体群の行動範囲・加害レベル、対象鳥獣の種類等に応じた効果的な追払い等による「侵入防止対策」の取組を推進する。なお、鳥類を対象とする場合、追払いの効果は永続的ではないため、追払い器具類は、設置位置、器具の種類などを頻繁に変えるといった工夫が必要である。

(3) 捕獲を含めた総合的な対策の推進

被害を及ぼす野生鳥獣を的確に捕獲するため、市町村職員、農業者等の地域住民、狩猟者、農林漁業団体の職員等による捕獲体制を構築する。その際、狩猟者に任せきりにするのではなく、農業者等自ら、狩猟免許を取得することやわなの見回りを支援するなど捕獲活動に参画することも重要である。また、捕獲に当たっては、被害状況や捕獲実績等を踏まえ、捕獲方法や捕獲場所等について必要な見直しを行うよう留意する。併せて、遠隔捕獲や捕獲通知の機能をもった機器、捕獲確認アプリなど ICT 機器等の活用により、わなの見回り等の負担軽減が期待されることから、その導入を検討し、これに合わせて、見回りしやすい場所から捕獲効率の高い場所へのわなの移設も検討する。

このほか、都道府県では、被害防止を目的としたシカ・イノシシの個体数を減少させるため、複数の隣接市町村や都道府県との広域捕獲等を実施し、市町村の対策をより効果的なものとする。これらの取組と上記(1)、(2)に示した生息環境管理や侵入防止対策の取組を組み合わせ、計画的・総合的な被害防止対策を推進する。

捕獲した鳥獣については地域資源として捉え、安全性を確保しつつ食肉として加工、販売する取組等を推進する。そのためには、捕獲者にも衛生管理を理解してもらう必要があるため「ジビエハンター育成研修制度」の推進等に取り組む。さらに、衛生管理の遵守等に取り組む食肉処理施設を認証する「国産ジビエ認証制度」の認知度向上、取得促進等に取り組むことで、より安全なジビエの提供と消費者のジビエに対する安心の確保に努める。他方で、ジビエ利用や焼却場等の処理施設への搬

出が困難な場合には、生態系に影響を与えないような適切な方法で埋設する必要がある。

(4) 農作業中のクマ類の出没に対する注意喚起

農業現場におけるクマ類の出没による人身被害、農作物被害等を防止するため、出没地域などで農作業や鳥獣対策を行う際には、できるだけ単独での作業を避け、ラジオなど音の出るものやクマ撃退スプレー等の装備品を携帯するなど安全管理に十分配慮するとともに、農作物の収穫残さや放置された果実等の処理などクマ類の誘引物の適切な管理が実施されるよう、周知徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP 「鳥獣被害対策コーナー」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/index.html>

農林水産省 HP 「鳥獣被害防止対策研修・動画」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/h_kensyu/30_tsukuba_kensyu.html

農林水産省 HP 「野生鳥獣による被害防止マニュアル等」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/manyuaru/manual.html>

農林水産省 HP 「鳥獣被害に活用出来る機器情報」

(ICT機器活用情報(相談窓口を含む))

https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/kiki_jouhou/kiki_jouhou.html

農林水産省 HP 「農業用ドローンの普及拡大に向けた官民協議会」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/drone.html>

農林水産省 HP 「ジビエ利用拡大コーナー」

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/gibier/index.html>

農林水産省 HP 「国産ジビエ認証制度」

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/gibier/ninsyou.html>

農林水産省 HP 「ジビエハンター研修」

https://www.maff.go.jp/j/nousin/gibier/gibier_hunter.html

農林水産省 HP 「【改訂版】野生鳥獣被害防止マニュアル(捕獲鳥獣の食肉等利活用(処理)の手法)令和4年8月版」

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/gibier/attach/pdf/manual-45.pdf>

環境省 HP 「野生鳥獣の保護及び管理」

<https://www.env.go.jp/nature/choju/index.html>

環境省 HP 「CSF・ASF 対策としての野生イノシシの捕獲等に関する防疫措置の手引き」

<https://www.env.go.jp/nature/choju/infection/notice/guidance.pdf>

厚生労働省 HP 「ジビエ(野生鳥獣の肉)の衛生管理」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/01_00021.html

国立環境研究所 HP「有害鳥獣の捕獲後の適正処理に関するガイドブック」

<https://www-cycle.nies.go.jp/jp/report/choju.html>

農研機構 HP「動物行動管理グループ」

<https://www.naro.go.jp/org/nilgs/choju/>

農林水産省 HP「農業現場におけるクマ出没等に関する注意喚起リーフレット」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/tyuuikanki/attach/pdf/index-15.pdf>

(VI) 国民理解の醸成

食料・農業・農村に関する国民の理解を深め、食料の持続的な供給に寄与する国民の「行動変容」につなげるよう、食品企業等を巻き込んだ官民のプラットフォームの構築や従業員等の健全な食生活の実践に取り組む企業を顕彰することで、「大人の食育」を推進するとともに、農林漁業体験機会の提供をはじめとする生産者と消費者との交流の促進や学校給食における地場産物等の活用促進のほか、総合的・計画的な「農林漁業教育」の実践に向けた地域農業・教育連携モデルの創出の取組を支援することで、地域の関係者等が連携して取り組む食育活動を推進する。また、地産地消の促進、食文化の保護・継承、農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」、優良な取組を行う企業等の表彰や、食料システムを支える食品事業者の食と農に関する理解促進に向けたシンポジウムの開催など、具体的な施策を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「食育の推進」

<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/index.html>

農林水産省 HP「消費・安全対策交付金（地域での食育の推進）」

<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/torikumi.html>

農林水産省 HP「官民連携食育プラットフォーム」

https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/otona_syokuiku/platform.html

農林水産省 HP「食育実践優良法人顕彰制度」

https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/kensyo/kensyo_top.html

農林水産省 HP「地産地消（地域の農林水産物の利用）の促進」

https://www.maff.go.jp/j/nousin/inobe/chisan_chisyo/index.html

農林水産省 HP「食文化のポータルサイト」

<https://www.maff.go.jp/j/keikaku/syokubunka/>

農林水産省 HP「見つけて！農産物の環境負荷低減の取組の「見える化」」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/mieruka.html

農林水産省 HP「農林水産省委託事業ニッポンフードシフト」

<https://nippon-food-shift.maff.go.jp/>

(VII) 自然災害への対応

作物別の対応は、Ⅲ（Ⅲ）主要作目の災害等対策技術上の基本的留意事項の項目を参照する。

東京電力福島第一原子力発電所事故により放出された放射性物質への対応

農林水産省においては、安全な農畜産物の生産・供給のため、原発事故発生後直ちに関係都道府県における検査に対する支援（試料採取等に関するマニュアルの策定、分析機関への依頼、検査計画策定への助言、その他の科学的助言等）を始め、生産資材の暫定許容値の設定等による管理、農地土壌や農畜産物中の放射性物質の低減等に向けた技術指導通知の発出や関連情報の提供等に取り組んできたところである。今後も国と地方自治体が連携して取組を行っていくとともに、政府全体での検討の中で随時対応の見直しが行われていくことから、常に最新の情報に基づいて現場への指導等を行っていく必要がある。

<関連情報>

農林水産省 HP「東京電力福島第一原子力発電所事故による農畜水産物等への影響～関係府省等のサイトへのポータル～」

https://www.maff.go.jp/noutiku_eikyo/index.html

農林水産省 HP「東日本大震災に関する情報」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/index.html>

1 安全な農畜産物の供給に向けた対応

(1) 農地の除染

農地及び森林の効果的・効率的な除染に向けた実証試験等を実施し、得られた成果を「農地の除染の適当な方法等の公表について」や「除染関係ガイドライン」（注2）として公表。また、除染実施の際に参考となる具体的な作業手順を示すものとして「農地土壌の放射性物質除去技術（除染技術）作業の手引き」や「農地除染対策の技術書」、「土壌攪拌（代かき）による放射性物質低減技術の実施作業の手引き」を公表している。除染作業の実施にあたっては、「除染等業務に従事する労働者の放射線障害防止のためのガイドライン」に基づいて、作業員の放射線被曝の低減に努める

とともに、「除染関係ガイドライン」に基づき、作業や除染に用いた機械に付着した粉塵・土壌等の飛散・流出防止に努める。

<関連情報>

首相官邸 HP「原子力災害対策本部（第21回原子力災害対策本部配布資料）（農地の除染の適当な方法等の公表について）」（平成23年9月30日原子力災害対策本部）

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/genshiryoku/dai21/index.html>

環境省除染情報サイト「政策資料・ガイドライン」

（除染関係ガイドライン（平成23年12月14日公表環境省、平成25年5月 第2版（平成30年3月追補）））

<https://josen.env.go.jp/material/>

農林水産省 HP「農地土壌の放射性物質除去技術（除染技術）作業の手引き」（平成24年3月農林水産省）

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/pdf/120302-01.pdf>

厚生労働省 HP「除染等業務に係る放射線障害防止対策について」（除染等業務に従事する労働者の放射線障害防止のためのガイドライン（平成23年12月22日制定厚生労働省、令和5年4月27日改正））

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000029897.html>

農林水産省 HP「農地土壌の放射性物質濃度分布図の作成について」

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/map/index.htm>

農林水産省 HP「農地除染対策の技術書概要」（平成25年2月農林水産省）

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/seko/josen/pdf/gaiyou.pdf>

農研機構 HP「土壌攪拌（代かき）による放射性物質低減技術の実施作業の手引き」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/061247.html

（2） 生産資材の生産・流通・使用の管理

肥料、土壌改良資材、培土及び飼料等の生産資材の生産・流通・使用に当たっては、これまでに得られた知見や以下の通知に基づき適切に対応する。

<関連情報>

農林水産省 HP「放射性セシウムを含む肥料・土壌改良資材・培土及び飼料の暫定許容値の設定について」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/soumu/saigai/supply.html>

農林水産省 HP「放射性セシウムを含む飼料の暫定許容値の見直しについて」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/soumu/saigai/shizai_2.html

農林水産省 HP「飼料中の放射性セシウムの暫定許容値の見直しについて」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/soumu/saigai/shizai_3.html

農林水産省 HP「飼料の暫定許容値見直しを踏まえた今後の対応について」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/soumu/saigai/pdf/120203_kongo.pdf

農林水産省 HP「飼料の暫定許容値見直し等を踏まえた今後の対応について」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/pdf/120323.pdf>

農林水産省 HP「汚泥肥料中に含まれる放射性セシウムの取扱いについて」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_hiryo/caesium/

農林水産省 HP「肥料中の放射性セシウム測定のための検査計画及び検査方法」の制定について」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/hiryo/kennsa.html>

農林水産省 HP「「培土中の放射性セシウム測定のための検査方法」の制定及び土壤改良資材中の放射性セシウム測定の扱いについて」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/hozen_type/baido.html

農林水産省 HP「農家が自ら生産・施用する有機質土壤改良資材等の取扱いについて」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/hozen_type/zikasyohi.html

農林水産省 HP「地方公共団体及び事業者が生産・出荷する有機質土壤改良資材の取扱いについて」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/hozen_type/zigyosya.html

農林水産省 HP「平成 28 年以降の飼料作物等の流通・利用の自粛及びその解除等の取扱いについて」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/28_moni.html

農林水産省 HP「永年生牧草地の除染等に当たっての留意事項について」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/pdf/einen_bokuso_tokekomi.pdf

農林水産省 HP「水田畦畔に生育する野草の利用に当たっての留意点について」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/pdf/250401_keihan.pdf

農林水産消費安全技術センターHP「飼料中の放射性セシウムの検査方法について」

http://www.famic.go.jp/ffis/feed/obj/23_2489.pdf

農林水産省 HP「牧草地における放射性物質移行低減対策の手引き」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/pdf/josen_pamph_all.pdf

農林水産省 HP「肥料・土壤改良資材・培土の暫定許容値設定に関する Q&A」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/hiryo_info/cs_qa.html

農林水産省 HP「培土・土壤改良資材の検査方法に関する Q&A」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/hozen_type/attach/pdf/baido-4.pdf

農林水産省 HP「家畜用飼料の暫定許容値設定に関する Q&A」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/soumu/saigai/siryo_faq.html

農研機構 HP「原発事故に伴う畦畔草の放射性セシウム汚染の実態と利用にあたっての留意点」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/narc_keihansou_cs.pdf

(3) 農畜産物の栽培管理等

① 栽培管理・飼養管理等

各地域での農産物の放射性セシウム検査の結果や農地における放射性物質の濃度等を踏まえ、必要に応じて放射性物質低減対策を行うよう現場に指導する。

<関連情報>

農研機構 HP「除染後圃場におけるそば栽培・収穫のポイント」

<https://www.naro.go.jp/laboratory/tarc/introduction/files/buckwheat170418.pdf>

農研機構 HP「放射性セシウムに汚染された牧草等の牛ふん堆肥化処理での副資材利用」
(2019年3月29日)

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/nilgs_report20.pdf

農研機構 HP「原発事故に伴う畦畔草の放射性セシウム汚染の実態と利用にあたっての留意点（追補版）」(2019年3月1日)

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/Cs137LeveeWeeds_suppl.pdf

② 農畜産物の検査

原子力災害対策本部が示した「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」の対象自治体では、国や市町村と連携しつつ、品目ごとの検査が的確に実施できるよう検査体制を構築。

<関連情報>

農林水産省 HP「東日本大震災に関する情報（生産関係）」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/s_seisan.html

農林水産省 HP「米の収穫・乾燥・調製工程における放射性物質交差汚染防止ガイドライン」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/pdf/kome_130709.pdf

2 農作業における安全の確保等

厚生労働省が、労働者の放射線障害を防ぐために策定したガイドラインに則り農作業に従事する。

<関連情報>

厚生労働省 HP「除染等業務に係る放射線障害防止対策について」

(除染等業務に従事する労働者の放射線障害防止のためのガイドライン令和5年4月27日改正)

(特定線量下業務に従事する労働者の放射線障害防止のためのガイドライン令和5年4月27日改正)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000029897.html>

II 営農類型別の技術的対応の方向

(I) 水田作

水田作においては、主食用米の需要減少が続く中、引き続き需要に応じた生産を進めることが重要であり、麦、大豆や米粉用米等の収益性や定着性の高い品目への転換を進めるとともに、これらの品目の生産性向上や高付加価値化の取組を推進する必要がある。

また、関東以西の米麦二毛作が可能な地域においては、水稻早生～中生品種への転換等による地域の作付体系の見直しや、作業効率・排水性向上のための水田の団地化・汎用化による裏作麦を導入する等、水田の高度利用を推進する。これらの推進に当たっては、既存の農業機械・施設を作物間で最大限に活用することや、水稻直播栽培、麦・大豆の不耕起栽培、水田地下水位制御技術等の新技術や多収かつ良質な新品種の導入により、コスト縮減に努めることを併せて推進する。

さらに、食品の安全や信頼の確保に向けた取組が重要となっていることから、カドミウム低吸収性水稻品種の育成及び産地への導入のための取組、農薬の適正使用の徹底や産地自らが残留農薬基準の遵守等を保証するための GAP 等の実践、米穀に係る保管環境等の適正な管理、トレーサビリティ確保に資する収穫物の区分管理や出荷記録の記帳・保管等の取組を推進する。

併せて、近年、水田の強害雑草である雑草イネの発生が散見されることから、被害の軽減や拡散防止等のため、必要な対策を講じるとともに、農薬の流出防止のため、止水期間の遵守を徹底する。

<関連情報>

農研機構 HP「様々な用途に向くお米の品種シリーズ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/nicsrice-tec2024.pdf

農林水産省 HP「多収品種に取り組むに当たって—多収品種の栽培マニュアル—」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/attach/pdf/siryoyoumai-2.pdf>

農林水産省 HP「飼料用米生産コスト低減マニュアル」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/attach/pdf/siryouqa-256.pdf>

農研機構 HP「極短穂茎葉型品種を活用したイネホールクroppサイレージ生産体系標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/6>

農研機構 HP「乾田直播栽培体系標準作業手順書 —プラウ耕鎮圧体系—「東北地方版」」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/3>

農研機構 HP「水稻無コーティング種子代かき同時浅層土中播種栽培標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/76>

農林水産省 HP「農業新技術 2008」(湿害や干ばつを防止する新地下水位制御システム)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/2008.pdf>

農林水産省 HP「農業新技術 2013」(4tトラックに積載可能な小型汎用コンバイン)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/konbain.pdf>

農研機構 HP「雑草イネ・漏生イネ防除技術マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/129066.html

農研機構 HP「雑草イネまん延防止マニュアル Ver. 2」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/028068.html

農林水産省 HP「コメ中のカドミウム及びヒ素低減のための実施指針」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/kome/k_cd/attach/pdf/sisin-1.pdf

1 水稻

新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2024 年改訂版（令和 6（2024）年 6 月 21 日閣議決定）、食料安全保障強化政策大綱（令和 4（2022）年 12 月 27 日）、食料・農業・農村基本計画（令和 7（2025）年 4 月 11 日閣議決定）において、「農林水産物・食品の輸出について、2025 年 2 兆円、2030 年 5 兆円」、「2030 年までに化学肥料の使用量の低減 20%」、「2030 年までに有機農業の取組面積 6.3 万 ha に拡大」、「2030 年までに飼料作物の生産面積拡大 32%増」、「2030 年までに 2021 年比で米粉用米の生産面積拡大 188%」及び「15ha 以上の経営体について 2030 年までに生産コストを 9,500 円/60kg に低減」と令和 12（2030）年産に向けた目標が設定されたところ、目標達成の評価は統計データの出る令和 6（2024）年産以降に行うものの、農業経営の安定化のためには引き続きコスト低減を図る必要がある。このことを踏まえ、以下の取組を進めるとともに、「新品種・新技術の開発・保護・普及の方針」に基づき加工・業務・輸出用ニーズへの対応強化を進める。

（1） 業務用・加工用・輸出用ニーズへの対応

外食・中食用、加工用、輸出用等の用途別需要に求められる価格・品質条件を満たし、かつ収益が得られる多収品種や低コスト技術等を開発しその普及を図る。

<関連情報>

農研機構 HP「様々な用途に向くお米の品種シリーズ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/nicsrice-tec2024.pdf

農林水産省 HP「米の輸出について」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_yusyutu/kome_yusyutu.html

農研機構 HP「多収・良食味米品種「にじのきらめき」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/22>

農研機構 HP「多収・良食味米品種「つきあかり」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/20>

農研機構 HP「多収・良食味米品種「ちほみのり」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/21>

農研機構 HP「冷凍米飯向け多収米品種「とよめき」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/99>

農研機構 HP「多収・良食味米品種「ほしじるし」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/97>

(2) 米の低コスト生産体制の確立

水稻の生産コスト低減のため、ニーズに応じた多収品種の活用や、作期分散、農業機械・施設の共同利用や他作物との汎用利用、肥料・燃油の削減、水稻直播栽培・密播育苗等の省力栽培技術の普及、スマート農業技術を活用した効率的な作業管理、高性能農業機械・施設の導入・普及及び稲わら、もみがら等の資源の有効活用を推進する。

また、乾燥調製コストの低減のため、老朽化・遊休化した大規模乾燥調製施設については、再編整備による地域の乾燥調製機能の最適配置や生産者組織等が中心となった施設の運営管理体制への見直しを進める。

さらに、担い手への一部貸出、麦、大豆、新規需要米等の増産に対応した施設の汎用化により、施設利用率の向上を図る。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業新技術 2013」(4tトラックに積載可能な小型汎用コンバイン)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/konbain.pdf>

農林水産省 HP「農業新技術 2014」(水稻・大豆作における新たな難防除雑草の早期発見・被害軽減総合対策技術)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/zassou.pdf>

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2015」(水稻作におけるリン酸肥料削減の基本指針)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology_cultivar/2015/attach/pdf/list-1.pdf

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2016」(水稻の「密苗」移植栽培技術)

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/pdf/03.pdf

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2017」

(べんがらとモリブデン化合物で種子を被覆した水稻湛水直播(べんモリ直播))

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/attach/pdf/2017-16.pdf

(ほ場で液肥を作成し、水田に直接流し込める施肥装置)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/attach/pdf/2017-31.pdf

(プラウ耕・グレーンドリル播種による稲-麦-大豆の2年3作体系)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/attach/pdf/2017-17.pdf

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2022」

(耐倒伏性品種の根出し種子を用いた水稻無コーティング種子浅層土中播種栽培)

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2022/2022seika-01.html

農林水産省 HP「水稻直播栽培」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/chokuha.html>

農林水産省 HP「担い手の稲作コスト低減事例集」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/cost/jirei.html>

農研機構 HP「水稻の鉄コーティング湛水直播」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/iron_coating_seed_2012.pdf

農研機構 HP「乾田直播栽培体系標準作業手順書 -北海道版-

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/29>

農研機構 HP「乾田直播栽培体系標準作業手順書 —プラウ耕鎮圧体系—「東北地方版」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/3>

農研機構 HP「乾田直播栽培体系標準作業手順書 —振動ローラ式乾田直播— [九州地方版]

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/68>

農研機構 HP「水稻無コーティング種子代かき同時浅層土中播種栽培標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/76>

(3) 新市場開拓用米・米粉用米・飼料用米等の低コスト生産

水田の活用を推進する観点から新市場開拓用米、加工用米、米粉用米、飼料用米及び稲発酵粗飼料用稲等の需要に応じた生産拡大を推進する。

また、生産コストの低減に向け、多収品種の導入、スマート農業技術等の省力栽培技術の導入、耕畜連携による堆肥の活用、窒素固定能力が高い大豆や野菜後の作付による基肥の削減、収穫前におけるほ場での立毛乾燥、直播栽培体系等の低コスト栽培体系の確立・普及を図るとともに、加工品等の差別化・ブランド化を推進する。

併せて、主食用米への異品種の混入を防ぐため、生産者の組織化や集団化により団地化を進めるとともに、晩生品種による収穫期の後ろ倒し、収穫後の機械や乾燥調製施設の清掃の徹底、地域の複数の乾燥調製施設間での分別管理の徹底、後作ほ場における漏生稲対策の徹底を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「飼料用米生産コスト低減マニュアル」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/attach/pdf/siryouqa-256.pdf>

農林水産省 HP「多収品種に取り組むに当たって—多収品種の栽培マニュアル—」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/attach/pdf/siryouyoumai-2.pdf>

農研機構 HP「米とワラの多収を目指して 2017-飼料用米、稲発酵粗飼用品種—」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/laboratory/nics/material/078330.html

農林水産省 HP「お米の流通に関する制度」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/zyunsyu/index.html>

農研機構 HP「水稻の鉄コーティング湛水直播」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/iron_coating_seed_2012.pdf

農研機構 HP「乾田直播栽培体系標準作業手順書 —北海道版—」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/29>

農研機構 HP「乾田直播栽培体系標準作業手順書 —プラウ耕鎮圧体系—「東北地方版」」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/3>

農研機構 HP「乾田直播栽培体系標準作業手順書 —振動ローラ式乾田直播—〔九州地方版〕」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/68>

農研機構 HP「水稻無コーティング種子代かき同時浅層土中播種栽培標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/76>

農研機構 HP「雑草イネまん延防止マニュアル Ver.2」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/028068.html

農林水産省 HP「農業新技術 2009」(地域に適合した飼料用稲品種と新たな収穫調製利用技術)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/gizyutu/tikusan/pdf/syuukakucyousei.pdf>

農林水産省 HP「農業新技術 2011」(新たな米粉需要の拡大を促進する水稲品種)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/2011.pdf>

農林水産省 HP「農業新技術 2013」(生産しやすく栄養価の高い稲発酵粗飼料用水稲品種「たちすずか」)、(4tトラックに積載可能な小型汎用コンバイン)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/2013sasshi.pdf>

農林水産省 HP「農業新技術 2014」(水稲・大豆作における新たな難防除雑草の早期発見・被害軽減総合対策技術)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/2014sasshi.pdf>

農研機構 HP「飼料用米の生産・給与技術マニュアル〈2016年度版〉」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/pub2016_or_later/pamphlet/tech-pamph/074988.html

農研機構 HP「様々な用途に向くお米の品種シリーズ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/kind-pamph/137546.html

農研機構 HP「米粉用多収品種「笑みたわわ」の栽培技術 標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/79>

(4) 米穀等の適切な保管管理の促進に向けた保管環境の点検

米穀等のより適切な管理を促進する観点から、「米穀等の保管環境の点検について」の通知に基づいて、カントリーエレベーターやライスセンター、農業倉庫などの米穀等の保管施設において、通知の点検シートを用いた環境の点検を実施する。

<関連情報>

「米穀等の保管環境の点検について」(平成30年2月1日付け29政統第1548号政策統括官付穀物課長通知)

2 麦類

生産・加工適性に優れ、実需者ニーズに応じた優良品種の導入促進や、簡易暗きよの施工等による排水対策、土壌や生育の状況に応じた施肥管理、適時適切な防除対策、天候の状況を踏まえた播種、収穫等の適期作業の徹底を図るとともに、地域の条件に応じた輪作体系の最適化等による地力維持を推進し、収量・品質の高位安定化を図る。また、需要・用途に応じたきめ細かな生産対応や実需者との連携をさらに進め、産地自らの需要開拓による計画的な生産を推進する。さらに、異種穀粒・異品種・異物混

入を防ぐため、異種・異品種毎の収穫、乾燥・調製や、異種・異品種への切り替え時の収穫機、乾燥機、糶摺り機等の機械・施設の清掃を徹底する。

<関連情報>

農研機構 HP「水田輪作における地下水位制御システム活用マニュアル(増補改訂版)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/052038.html

農研機構 HP「地下水位制御システム(フォアス)を導入した中山間水稲・大麦・大豆での2年3作体系」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/062289.html

農研機構 HP「水稲湛水直播を核とした 稲・麦・大豆 輪作栽培技術マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/063533.html

農研機構 HP「水稲乾田直播を核とした アップカットロータリの汎用利用による 稲・麦・大豆輪作技術マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/063531.html

農研機構 HP「ドローンによるリモートセンシングを利用した小麦追肥重点型多肥栽培」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/136837.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2017」

(プラウ耕・グレーンドリル播種による稲-麦-大豆の2年3作体系)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2017.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2018」

(畑輪作で活用できる生育履歴情報を利用したマップベース可変施肥技術)

(生産者が使える簡便でリーズナブルな排水改良技術のラインナップ)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/12996925/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2018.html

農研機構 HP「診断に基づく栽培改善技術導入支援マニュアル」

https://www.naro.go.jp/project/research_activities/laboratory/carc/139073.html

北海道病害虫防除所 HP「コムギなまぐさ黒穂病 Q&A 第2版」

http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/namagusa/namagusa_Q&A_dai2han.pdf

農研機構 HP「高速高精度汎用播種機を活用した作物栽培体系標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/73>

(1) パン・中華麺用途への供給拡大

パン用・中華麺用に適した新品種の導入・普及に向け、現地での栽培実証試験や地域の気候等に対応した栽培マニュアルの作成や品種特性を踏まえた栽培指導等により、収量・品質の安定生産を推進する。また、地域の製粉事業者や製麺・製パン事業者等の実需者と連携し、品種特性に応じた加工方法の改良や、新製品の開発等の取組を推進する。

<関連情報>

農研機構 HP「麦の浅耕播種・不耕起播種を活用した除草剤抵抗性スズメノテッポウ総合防除マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/041717.html

農林水産省 HP「農業新技術 2011」(国産小麦の用途拡大と安定供給を支える品種)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/2011kaisetuhenn.pdf>

農林水産省 HP「農業新技術 2012」(農地の排水性を改良する低コストな補助暗きょ工法)

<https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/2012kaisetuhenn.pdf>

農林水産省 HP「農業新技術 2013」(4tトラックに積載可能な小型汎用コンバイン)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology.htm

農研機構 HP「製パン性に優れ、多収の温暖地向けパン用小麦新品種「せときらら」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/048918.html

農研機構 HP「製パン適性に優れた寒冷地向け小麦新品種「夏黄金」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/075822.html

農研機構 HP「早生の西日本向けパン用小麦「はるみずき」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/131072.html

農研機構 HP「パン用小麦品種「はる風ふわり」の普及拡大」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/155294.html

農研機構 HP「製パン性に優れコムギ縞萎縮病に強い小麦新品種「せとのほほえみ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/164955.html

農研機構 HP「福島県における小麦「夏黄金」栽培マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/163945.html

(2) 大麦・はだか麦の安定供給

大麦・はだか麦については、用途特性が高く収量性の優れた優良新品種への転換や排水対策の徹底等により、単収・品質の高位安定化を図り、実需者に対する安定供給体制を強化する。また、麦種によって実需者が各地に偏在する実態を踏まえ、関東・北陸地方においては主食用や麦茶用の六条大麦、中国・四国地方においては

味噌等の醸造用のはだか麦や二条大麦、九州地方においては焼酎用の二条大麦等、地域ごとに麦種を特定し、地域の実需者との連携の下に需要に応じた生産を推進する。さらに、近年、健康志向の消費者から大麦に多く含まれる食物繊維（β-グルカン）が注目されており、β-グルカンを多く含む国産もち性大麦品種等の開発、導入・普及により、新たな国産大麦の需要拡大を図る。

<関連情報>

農研機構 HP「診断に基づく小麦・大麦の栽培改善技術導入支援標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/18>

農研機構 HP「もち性大麦品種標準作業手順書(2021年11月小改訂版)」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/4>

農研機構 HP「品種紹介パンフレット」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/kind-pamph/02/index.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種2017」

(六条もち性大麦新品種「東山皮糯109号(ホワイトファイバー)」)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2017.html

農研機構 HP「関東・東海向けのもち性六条大麦品種「きはだもち」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/70>

農研機構 HP「もち性二条大麦品種「くすもち二条」の製品販売開始」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/132718.html

農研機構 HP「早生のウルチ性六条裸麦品種「ハルアカネ」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/137937.html

農研機構 HP「「はねうまもち」栽培マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/130016.html

3 大豆

大豆については、気象等による収量の変動が大きいことなどから、安定した生産・供給の確保が重要となっている。このため、湿害軽減対策等による作柄の安定化、地域の条件に応じた輪作体系の適正化や有機物施用等の地力向上対策、省力化技術の確立等による収量の向上を図るとともに、実需者が求める品種・品質等を的確に把握し、実需者ニーズに即した大豆の生産・供給を推進する。

(1) 単収の向上・安定化

ほ場条件に応じた湿害回避の耕起・播種技術や排水対策、地下水位制御システムの導入等を進めるとともに、地力の維持や病害虫リスクの低減に資する輪作体系の確立を推進する。

また、極多収品種である「そらしリーズ」などの新品種の開発・普及を推進するなど、品種の切替によって単収の向上と収量の安定化を図る。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業新技術 2007」(大豆の安定多収生産「大豆 300A 技術」)

農林水産省 HP「農業新技術 2008」(湿害や干ばつを防止する新地下水位制御システム)

農林水産省 HP「農業新技術 2012」(農地の排水性を改良する低コストな補助暗きょ工法)

農林水産省 HP「農業新技術 2013」(4t トラックに積載可能な小型汎用コンバイン)

農林水産省 HP「農業新技術 2014」(水稲・大豆作における新たな難防除雑草の早期発見・被害軽減総合対策技術)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology.htm

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2015」

(地下水位制御システムを用いた梅雨明け後に播種する大豆の苗立ち安定向上技術)

(大豆の収量を向上させる小畝立て深層施肥播種機)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology_cultivar/2015/list.htm

農林水産省 HP「納豆加工適性に優れたセンチュウ抵抗性大豆新品種「スズマルR」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/pdf/06.pdf

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2017」

(プラウ耕・グレーンドリル播種による稲-麦-大豆の2年3作体系)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2017.html

農林水産省 HP「帰化アサガオ類の地域全体へのまん延を防止するためのほ場周辺管理技術」

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/pdf/publication_narc_kika_asagao_00.pdf

農研機構 HP「帰化アサガオ類まん延防止技術マニュアル : 大豆畑における帰化アサガオ類の防除技術」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/publication_narc_kika_asagao_boujo.pdf

農研機構 HP「水田輪作における地下水位制御システム活用マニュアル」(増補改訂版)

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/narc_suidenrinsaku_foas_rr.pdf

農研機構 HP「地下水位制御システムを導入した中山間水稲・大麦・大豆での2年3作体系」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/WARC_FOEAS_Manual_20160331.pdf

農研機構 HP「水稻湛水直播を核とした稲・麦・大豆輪作栽培技術マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/063533.html

農研機構 HP「水稻乾田直播を核としたアップカッターロータリの汎用利用による稲・麦・大豆輪作技術マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/063531.html

農研機構 HP「大豆用新規茎葉処理除草剤 フルチアセットメチル乳剤の雑草種別効果と初期薬害」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/081344.html

農研機構 HP「警戒すべき雑草「ヒロハフウリンホオズキ」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/080364.html

農研機構 HP「警戒すべき雑草「イヌホオズキ」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/080385.html

農研機構 HP「営農排水改良ラインナップ技術 新世代機「カットシリーズ」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/132584.html

農研機構 HP「診断に基づく栽培改善技術導入支援マニュアル」

https://www.naro.go.jp/project/research_activities/laboratory/carc/139073.html

農研機構 HP「大豆難裂莢品種群標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/5>

農研機構 HP「大豆用高速畝立て播種機を活用した大豆栽培体系標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/116>

農研機構 HP「ディスク式高速一工程播種法を活用したダイズの栽培体系」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/177>

農研機構 HP「収量が高く豆腐に利用できるダイズ新品種「そらひびき」、「そらたかく」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/163266.html

農研機構 HP「収量が高く豆腐に利用できるダイズ新品種「そらみずき」、「そらみのり」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nics/160417.html

(2) 実需者ニーズに即した戦略的な品種開発・普及

国産需要の確保に向けて、育成段階から実需者の意見を聞くなどニーズと評価を適切に把握しつつ、収量・品質が既存品種より優れ、かつ広域適応性のある品種を開発する。また、生産性や実需者の評価が劣る品種を優先的に切り替えるなどの実需者ニーズに即した戦略的な品種の開発・普及を推進することで国産大豆需要を確保・拡大する。

<関連情報>

農林水産省 HP「大豆の品種」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/daizu/d_ziten/index.html

農研機構 HP「大豆の品種あらかると」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/kind-pamph/132572.html

農研機構 HP「大豆難裂莢品種群標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/5>

農研機構 HP「収量が高く豆腐に利用できるダイズ新品種「そらひびき」、「そらたかく」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/163266.html

農研機構 HP「収量が高く豆腐に利用できるダイズ新品種「そらみずき」、「そらみのり」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nics/160417.html

農林水産省 HP「納豆加工適性に優れたセンチュウ抵抗性大豆新品種「スズマルR」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/pdf/06.pdf

農研機構 HP「ダイズシストセンチュウに極めて強いダイズ品種「リョウユウ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/155653.html

(Ⅱ) 畑作

1 北海道畑作地域

緑肥等の導入や家畜排せつ物等の地域内の未利用資源の最大限の活用により肥料や農薬等の使用量の節減を図り、効率的かつ持続的な生産体制を構築するとともに、Ⅱ(Ⅰ)2「麦類」及びⅡ(Ⅰ)3「大豆」に記載した内容と併せて、作物別には以下の事項に留意して技術対策を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業新技術 2012」(農地の排水性を改良する低コストな補助暗きょ工法)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology.htm

農研機構 HP「営農排水改良ラインナップ技術(新世代機「カットシリーズ」)

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/Paddy_field_Kitagawa_Cut_series.pdf

(1) てん菜

褐斑病や根腐れ病等の主要病害虫に対する抵抗性品種の開発・導入、排水対策や適期防除の徹底等を推進する。また、砂糖の需要動向等の情報を踏まえた、計画的生産を推進する。さらに、一戸当たり経営面積の拡大に伴う労働力不足に対応するため、直播栽培の導入による春作業の労働分散・省力化、高性能農業機械の導入やコントラクターの育成等による作業の共同化や外部化を推進する。

<関連情報>

北海道立総合研究機構 HP「テンサイ褐斑病抵抗性極強品種の省力防除法」

<https://www.hro.or.jp/upload/52649/12.pdf>

農研機構 HP「テンサイ新品種「カチホマレ」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/138590.html

北海道農産協会 HP「近年におけるてん菜低糖分の要因と対策」

<https://hokkaido-nosan.or.jp/manager/wp-content/uploads/kinnen-teitoubun.pdf>

北海道農産協会 HP「てん菜の安定生産に向けて」

<https://hokkaido-nosan.or.jp/manager/wp-content/uploads/antei-seisan.pdf>

北海道農産協会 HP「てん菜直播栽培マニュアル」

https://hokkaido-nosan.or.jp/manager/wp-content/uploads/tyokuha-saibai_2004.pdf

(2) ばれいしょ

実需者からのニーズを的確に把握し、増産要望が多い加工用原料の安定供給体制に資する省力・高品質生産体系の整備を推進する。また、ジャガイモシストセンチュウの拡散により種ばれいしょほ場の確保が困難になるなどの状況が発生しており、まん延を防止するため、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種への転換を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「ばれいしょの技術情報のページ」(ばれいしょの実用化技術情報)及び(品種)

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutsuhasshin/techinfo/bareisyo.html>

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2022」(目が浅くて害虫に強い生食用早生ばれいしょ「ゆめいころ」)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13768129/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2022/index.html

農研機構 HP「長期貯蔵が可能なポテトチップ用バレイショ新品種「しんせい」を開発」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/172383.html

農研機構 HP「赤肉・紫肉色のカラフルポテト新品種「シャイニールビー」と「ノーブルシャドー」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/143574.html

農研機構 HP ばれいしょ品種「はるか」

<https://www.naro.go.jp/collab/breed/0100/0106/001696.html>

農研機構 HP「ばれいしょ新品種「ピルカ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/012976.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2016」(高カロテノイドで良食味、複合病虫害抵抗性のバレイショ新品種「ながさき黄金」)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2016.html

農林水産省 HP「農業新技術 2011」(ばれいしょ・かんしょでん粉の加工食品原料への用途転換を促進する品種)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology.htm

農林水産省 HP「農業新技術 2009」(ジャガイモシストセンチュウの簡易土壌検診)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology.htm

農林水産省 HP「ジャガイモシロシストセンチュウに関する情報」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/gp/gp.html

2 その他地域

さとうきび及びでん粉原料用かんしょについては、沖縄県及び南九州地方の基幹作物であり、その生産が関連産業とともに地域の経済社会において重要な地位を占めている。しかし、小規模・高齢な生産者が多く、脆弱な生産構造にあるため、一定の生産規模を有する者の育成、一定の作業規模を有する共同利用組織づくりとこれら受託組織等への基幹作業の委託等を積極的に推進する。また、茶や繭・生糸等の特産農産物については、国内の消費構造の変化や輸入品との競争等により、需要の減少や価格の低迷等による厳しい環境下にあることから、国内外の新たな需要の開拓を進めるとともに、流通業者や加工業者との連携体制を構築し、国産品の品質の良さ等を最大限に活かした、付加価値の高い製品づくりを推進する。

(1) さとうきび

さとうきびの効率的かつ安定的な生産体制を確立するため、①土壌診断による地力の把握及び堆肥や緑肥等による地力の増進、②株出栽培を阻害する土壌害虫及びメイチュウ類に対する防除の徹底に努める、③干ばつ時であっても安定的な生産量を確保するためのかん水施設等の導入、④高齢・小規模農家が多い現状を踏まえた、産地を支える作業受委託組織や共同利用組織の育成・強化、担い手の育成、⑤作業

の軽労化・低コスト化のためのハーベスタ、株出管理機、植付機等の導入による機械化一貫体系の確立、⑥島ごとの自然条件に応じて作型・品種を選択するとともに、収量、糖度、病害虫抵抗性、機械化適性といった各種特性を踏まえた品種の開発を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2016」

(ケーンハーベスタによる採苗と無選別蔗苗の適切な植付けによる省力作業体系)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2016.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2017」

(小型半履帯式トラクタによる新サトウキビ管理技術)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2017.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2021」

(萌芽が極めて優れ株出し栽培で多収なさとうきび新品種「はるのおうぎ」)

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2021/2021seika-21.html

農研機構 HP「沖縄本島地域で株出し多収となるサトウキビ新品種候補系統 RK10-1007」

https://www.naro.go.jp/laboratory/karc/prefectural_results/files/R04_2_01.pdf

農研機構 HP「株出し多収でビレットプランタでの植付けに適したサトウキビ新品種候補 RK10-29」

https://www.naro.go.jp/laboratory/karc/prefectural_results/files/R5_2_01.pdf

(2) かんしょ

実需者等のニーズを的確に把握し、地域の立地条件や需要用途にあった適正品種の導入を進めるとともに、機械化一貫体系の導入等により省力・低コスト化を推進する。

また、でん粉原料用かんしょの生産性向上を図るために、多収で病害に強い新品種の普及や生分解性マルチの導入を推進する。

<関連情報>

農研機構 HP「でん粉原料用カンショ新品種「こないしん」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/23>

農研機構 HP「8月の収穫直後から甘いサツマイモ新品種「あまはづき」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/carc/144297.html

農研機構 HP「冷涼な地域でも収量がとれるホクホクおいしいサツマイモ新品種「ゆきこまち」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/carc/150187.html

農研機構 HP「サツマイモ基腐病に抵抗性のある焼酎・でん粉原料用新品種「みちしずく」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/153663.html

農研機構 HP「ホクホク食感のおいしいサツマイモ新品種「ひめあずま」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/carc/155418.html

農研機構 HP「サツマイモ基腐病に強い抵抗性を有する青果用新品種「べにひなた」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/159534.html

農研機構 HP「沖縄向けサツマイモ基腐病抵抗性新品種「おぼろ紅」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/160514.html

農研機構 HP「マスカット様の香りを特徴とする芋焼酎の原料用さつまいも新品種「霧N8-2」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/163833.html

農研機構 HP「加工にも青果にも使える沖縄向けサツマイモ基腐病抵抗性新品種「ニライむらさき」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/165287.html

農研機構 HP「多収でサツマイモ基腐病など複数の土壌病害虫に対する抵抗性をもつ原料用サツマイモ新品種「コガネタイガン」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/171412.html

農研機構 HP「一般的なサツマイモでん粉とは特性が異なる低温糊化性でん粉原料用サツマイモ新品種「こなみらい」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/171413.html

農研機構 HP「橙肉色の焼酎原料用サツマイモ新品種「はなあかね」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/171415.html

農研機構 HP「基腐病に強い赤紫肉色のサツマイモ新品種「さくらほのか」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/172297.html

農研機構 HP「サツマイモ基腐病に強く収量・外観・食味に優れる沖縄向け青果用紅いも新品種「Hai-Sai すいと」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/172298.html

(3) 茶

需要動向に留意しつつ、優良品種への改植等による茶園の若返りや、国内外で需要の高い抹茶の原料となるてん茶の生産や有機栽培の推進、早生・中生・晩生品種の適切な組合せによる労働力の分散、園地改良等による機械化体系の導入、適切な施肥や防除による生産コストの削減を推進する。輸出拡大に向けて、輸出先国の規

制に対応した農薬の使用・交信攪乱剤や天敵等の化学合成農薬代替防除技術の導入、茶園でのドリフト対策、残留農薬分析を徹底する。また、多様なニーズに応じた魅力ある茶の生産及び流通に向けた生産者と茶商工業者等の連携体制の強化、機能性成分等の特色を持つ品種の導入や新商品開発の推進等を通じて、茶の付加価値の向上に努める。

<関連情報>

農研機構 HP「茶品種ハンドブック第6版」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/cha_hinshu_handbook06.pdf

農林水産省 HP「輸出相手国の残留農薬基準値に対応した日本茶の病害虫防除マニュアル～煎茶（一番茶）・玉露編～」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/pdf/tya.pdf>

農林水産省 HP「輸出相手国の残留農薬基準値に対応した日本茶の病害虫防除マニュアル～抹茶・かぶせ茶編～」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/attach/pdf/export_manual-4.pdf

農林水産省 HP「最新農業技術・品種2020」

（無人自動走行作業システムを用いた「ロボット茶摘採機」の開発）

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/11672184/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2020/index.html

（４） 繭・生糸

高品質な純国産絹製品づくりに資するよう、糸の太さや色等に特徴を有する蚕品種や製糸業者と連携した新たな繰糸方法の導入等及び少量・多蚕品種飼育、広域配蚕に資するよう稚蚕共同飼育所の再編整備を推進する。

（５） なたね

他作物との適切な組合せによる輪作体系の確立に留意しつつ、暗きよ等の排水対策や畝立て等の湿害対策を行い、需要と結びついた生産を推進する必要がある。また、エルシン酸（食用に適さない脂肪酸）に加え、グルコシノレート（飼料に適さない配糖体）含量も低く油粕を飼料として利用可能なダブルロー品種についても導入を推進する。自家採種は、交雑等による品種特性の劣化が生じるため望ましくないことから、隔離採種ほど増殖した種子を使用するものとする。

<関連情報>

農研機構 HP「ペノカのしずく」

<https://www.naro.go.jp/collab/breed/0200/0204/136437.html>

農研機構 HP「きらきら銀河」

<https://www.naro.go.jp/collab/breed/0200/0204/060207.html>

農研機構 HP「キラリボシ」

<https://www.naro.go.jp/collab/breed/0200/0204/001656.html>

農研機構 HP「ダブルローナタネ品種「ペノカのしずく」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/120>

農研機構 HP「なたね栽培の手引き(東北地方向け)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/naro-se/natane_saibai.pdf

(6) そば

実需者ニーズに応じた安定生産・安定供給に向けて、小畦立て播種、弾丸暗きよ、心土破碎等の湿害対策技術の導入を推進する。

<関連情報>

農研機構 HP「世界初の難脱粒性・難穂発芽性を併せ持つソバ新品種「はるかみどり」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/karc/170362.html

農研機構 HP「普通ソバ品種「キタミツキ」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/52>

農研機構 HP「ソバ春まき栽培マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/soba_manual_201901.pdf

(Ⅲ) 園芸

1 野菜

将来にわたり、国産野菜を安定的に供給していくためには、野菜の生産、流通、加工の各段階において、消費者・実需者ニーズ等に的確に対応できる体制づくりを進めるとともに、産地の技術革新、経営戦略を担う中核的な人材の確保・育成等により産地の体質強化を推進することが重要である。生産・流通コストの低減に向けた技術的支援を充実・強化するとともに、的確なマーケティングを基礎とした経営戦略の下に選定された新技術・新品種の導入、生産技術の高度化、野菜産地の育成、安全性への取組の強化等により、産地の競争力を強化することが必要である。

(1) 加工・業務用需要の増大への対応

加工・業務用需要の増大に適切に対応するため、生産者・流通業者・実需者の連携の強化により実需者が求める規格・品質等を産地において的確に把握するとともに、これに対応した適性を持つ品種の導入、新たな生産体系の構築、作柄安定技術の導

入、省力化・低コスト化のための機械化一貫体系の確立等が必要である。また、産地段階における高付加価値化や供給体制の安定化に向け、一次加工や包装を行う処理加工施設や集出荷貯蔵施設の整備、豊作時にも原料野菜の冷凍による一時的なストックを通じた出荷調整が可能となる冷凍加工貯蔵施設の整備、園芸産地が抱える流通の課題に対応した出荷作業の合理化のための整備等が必要である。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業技術総合ポータル（露地野菜の技術情報）」

（「加工・業務用ホウレンソウ機械収穫体系マニュアル」）

（（かぼちゃ新品種「栗のめぐみ2号」を育成））

（臭いや黄変の原因となる成分グルコラファサチンを含まない白首の F1 ダイコン品種「令白」）

（高温期でも生育が旺盛な夏どり用ネギ品種「夏もえか」）

（最高レベルの根こぶ病抵抗性を有するキャベツ F1 品種「YCR ふゆいろ」）

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutsuhasshin/techinfo/cabbage.html>

農研機構 HP「ブロッコリー花蕾の大型化によるフローレット増収技術」

https://www.naro.go.jp/project/results/4th_laboratory/nivfs/2020/nivfs20_s01.html

農研機構 HP「株元着果性に優れ良食味のかぼちゃ新品種「豊朝交1号」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/156678.html

農研機構 HP「着果位置が揃い収穫作業の負担を軽減、端境期出荷も可能なかぼちゃ新品種「栗のめぐみ2号」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/harc/168585.html

農研機構 HP「臭いや黄変の原因となる成分グルコラファサチンを含まない白首の F1 ダイコン品種「令白」」

<https://www.naro.go.jp/collab/breed/0300/0316/134636.html>

農研機構 HP「四季成り性のイチゴ新品種「夏のしずく」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/tarc/141317.html

農研機構 HP「吸肥力と吸水力に優れ、植物工場等における安定生産のための養液栽培向けトマト台木用 F1 品種「ベースアップ」」

<https://www.naro.go.jp/collab/breed/0300/0310/136579.html>

（2）生産コストの低減と施設園芸の高度化

生産コストの低減及び栽培作業の省力化並びに収益力向上のため、作業の機械化や高度環境制御技術を導入した次世代型園芸の取組拡大を推進する。また、意欲ある農業者による産地体制を構築し、作業の効率化を進めるため、農地の集約化等を推進する。一方、農地の集約化が困難な産地においては、それぞれの産地の実情に

あわせて導入機械の共同利用等を推進する。環境保全型農業の推進による農薬費の低減など低コスト化・省力化の取組を積極的に検討する。さらに、エネルギーコストの低下を図り燃油価格の変動に対応するため、省エネルギー対策を推進する(I(IV)1(6)④「省エネルギー・省資源型農業の推進」)。露地野菜については、機械化一貫体系の確立に向けた収穫用機械等の開発及び実用化を進めているところである。収穫機の導入と規模拡大を通じたコスト低減を推進する。施設野菜については、「低コスト耐候性ハウス」の導入を推進するとともに、更なる低コスト化に向けた技術の検討・普及等に取り組む。また、生育や環境のモニタリングに基づく複合環境制御などにより生産性を向上させ、季節や天候に左右されない安定的な野菜生産を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業新技術 2013」

(機上調製作業と大型コンテナ収容を特徴とする高能率キャベツ収穫機)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology.htm

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2016」

(促成栽培ナスにおける増収効果の高い日の出後 CO₂施用)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2016.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2017」

(容易に設置可能で省力的なキャベツセル成型苗の底面給水育苗技術)

(促成ピーマンにおける株元加温による設置作業の省力化技術)

(暖地タマネギの収穫・運搬作業を省力化する高能率収穫機及び収納容器)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2017.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2018」

(タマネギ直播栽培における直下施肥を用いたリン酸肥料の減肥技術)

(東北・北陸地域に適するタマネギの春まき夏どり作型)

(キュウリ促成栽培における基肥リン酸施用要否のための可給態リン酸基準)

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/12996925/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2018.html

農林水産省 HP「農業用温室の設置コスト低減に向けた取組について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/onshitsu.html>

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2021」(加工・業務用葉ネギ収穫機)

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2021/2021seika-11.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2022」

https://warp.ndl.go.jp/web/20240105034032/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2022/index.html

(3) 有害物質への対応

農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）に基づき販売・使用が禁止されたドリソ系農薬等の難分解性の化学物質を過去に使用していた産地では、土壌や農作物の調査を行うとともに、必要に応じてこれらの物質を吸収しにくい他の品目への転換等の対策を徹底する。クロピラリドは、国内では農薬として登録されていない。一方で、海外においてイネ科作物等に使用されている除草剤の成分であり、クロピラリドを含む飼料が給与された牛等の排せつ物に由来する堆肥に含まれる可能性があることから、園芸農家・育苗業者等に対し、「牛等の排せつ物に由来する堆肥中のクロピラリドが原因と疑われる園芸作物等の生育障害の発生への対応について」に基づき、指導する。

<関連情報>

農林水産省 HP「クロピラリド関連情報」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/clopyralid/clopyralid.html>

農林水産省 HP「牛等の排せつ物に由来する堆肥中のクロピラリドが原因と疑われる園芸作物等の生育障害の発生への対応について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/clopyralid/attach/pdf/clopyralid-8.pdf>

(4) 花粉媒介昆虫の利用

セイヨウオオマルハナバチの利用に当たっては、「セイヨウオオマルハナバチの飼養等施設の適切な管理の徹底等について」や「セイヨウオオマルハナバチの代替種の利用方針」により、在来種マルハナバチへの切替えや単為結果性品種への転換について、産地の状況を踏まえつつ、積極的に検討する。在来種マルハナバチの利用に当たっては、園芸用施設からの逸出や鳥類による捕食を防ぐことが農業経営上の観点からも重要であること、セイヨウオオマルハナバチとは異なる特性を持っており、取扱方法の違いを理解する必要があることを十分に周知する。また、セイヨウオオマルハナバチ、クロマルハナバチの安定利用の観点から、リーフレット「マルハナバチを適切に管理しましょう！」等を参照し、指導する。

さらに、花粉交配用ミツバチについては、自然災害や猛暑の影響等によるダニ被害等により、その供給に影響が生じる可能性があることを踏まえ、養蜂業者からの注意事項や「施設園芸農家向けハウスでの花粉交配（ポリネーション）用ミツバチの管理マニュアル 2024」等を適宜参照し、適切な管理を指導するとともに、イチゴ等の栽培においてはマルハナバチやビーフライの利用した花粉交配技術が実用化されていることから、これらの導入も積極的に検討するように指導する。

<関連情報>

農林水産省 HP「花粉交配用昆虫について」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gijutu/mitubati/index.html>

農林水産省 HP「セイヨウオオマルハナバチの飼養等施設の適切な管理の徹底等について」(平成 24 年 12 月 21 日付け 24 生産第 2455 号生産局農産部園芸作物課長通知)

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gijutu/mitubati/attach/pdf/index-5.pdf>

環境省 HP「セイヨウオオマルハナバチ」(セイヨウオオマルハナバチの飼養等の許可の運用について)

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/seiyou.html>

農林水産省 HP「セイヨウオオマルハナバチの代替種の利用方針」(平成 29 年 4 月 環境省及び農林水産省)

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gijutu/mitubati/attach/pdf/index-35.pdf>

農林水産省 HP「マルハナバチを適切に管理しましょう！」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gijutu/mitubati/attach/pdf/index-62.pdf>

農林水産省 HP「施設園芸農家向けハウスでの花粉交配(ポリネーション)用ミツバチの管理マニュアル 2024」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gijutu/mitubati/attach/pdf/index-63.pdf>

農林水産省 HP「花粉交配用みつばちを適切に管理しましょう！」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gijutu/mitubati/attach/pdf/index-38.pdf>

2 果樹

果樹については、高品質な果実生産が国内外から高い評価を得ているものの、担い手・後継者の不足や気候変動に伴う高温等の影響により、生産量は減少しており、その需要に応えきれない状況にある。国内外の需要に応えるため、生産基盤強化の加速化に向けて、園地の集積・集約化や基盤整備、省力樹形等への改植・新植、スマート農業技術の開発・導入等による労働生産性の向上のほか、温暖化の影響に対して、資機材による対策や高温適応性を有する品種の開発・普及等を推進する。

(1) 労働生産性の向上に向けた取組

農業者の減少・高齢化が進む中、需要に応える果樹生産に向けて、労働生産性を向上させるため、園地の集積・集約化や基盤整備のほか、省力樹形等への改植・新植、スマート農業技術・省力化品種等の開発・導入を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「果樹農業の振興を図るための基本方針(果樹農業振興基本方針)」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/fruits/attach/pdf/index-198.pdf>

農研機構 HP「省力樹形樹種別栽培事例集（第2版）」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138903.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種2015」

（果樹の樹体ジョイント仕立てを核とした省力、低コスト栽培システム）

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology_cultivar/2015/list.htm

農研機構 HP「「各地域に適したリンゴ早期成園化技術の開発と経営体における実証」技術紹介資料」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134831.html

農研機構 HP「食味に優れ栽培しやすいコンパクトな樹姿（カラムナー性）のリンゴ新品種「紅つるぎ」を育成」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/163351.html

農研機構 HP「カキわい性台木「豊楽台（ほうらくだい）」標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/110>

栃木県 HP「果樹の盛土式根圏制御栽培法」（果樹の根圏制御栽培法導入マニュアル）

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/kajyu/konkenseigyoo.html>

（2） 気候変動等への対応

生産減少の大きな要因となる温暖化の影響等に対して、高温障害に対しては、栽培管理における基本技術を徹底した上で、遮光資材やかん水など症状に応じた技術的対策を講ずる。技術的対策による対応が困難な場合においては、障害リスクの低い品種の導入を図るなど品種構成の見直しを行う。それでもなお障害の発生が抑えられず生産が困難な場合は、地域の気象条件に合った品目への転換を検討する。

<関連情報>

農林水産省 HP「地球温暖化対策（気候変動適応ガイド）」

（農業生産における気候変動適応ガイド（りんご編）、（うんしゅうみかん編）、（ぶどう編））

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/index.html>

農林水産省 HP「果樹における高温に伴う農作物等の被害防止に向けた技術指導の徹底について（農産局果樹・茶グループ長通知）」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/attach/pdf/gijyutu_sido-196.pdf

農研機構 HP「被覆資材によるリンゴ日焼け軽減マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/080314.html

農研機構 HP「浮皮軽減のための技術情報（2014.12改訂版）」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/030159.html

農研機構 HP「アボカド・パッションフルーツ「栽培の手引き」リーフレット集」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/130811.html

農研機構 HP「わい化栽培のリンゴ「ふじ」における着色向上のための窒素施肥マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134298.html

農研機構 HP「ニホンナシ発芽不良対策マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/133380.html

農研機構 HP「ブドウ着色不良発生頻度予測詳細マップ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/131034.html

農研機構 HP「温暖化による温州ミカンの着花性と「不知火」こはん症発生の影響と対策技術」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/133383.html

農研機構 HP「温暖化に対応したミカンとアボカドの適地予測マップ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/167624.html

農研機構 HP「温暖化に対応したパイナップル品質予測モデルの開発」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/162672.html

農研機構 HP「西南暖地に向く早生モモ新品種「さくひめ」」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/076023.html

農研機構 HP「高温でも濃赤色に着色しやすく、食味も良いリンゴ新品種「錦秋」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/081278.html

農研機構 HP「高温でも着色しやすく、軟化もしにくいリンゴ新品種「紅みのり」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/081288.html

農研機構 HP「果樹の温暖化被害(着色不良・日焼け・晩霜害)を予測するシステムを開発」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/173098.html

(3) 病害虫対策の徹底

温暖化等の気候変動を背景に、果樹カメムシ類等の病害虫の発生の早期化、発生量の増加など、病害虫の発生状況の変化が生じるとともに、ミカンコミバエ種群等の病害虫の侵入リスクも高まっている。また、化学防除に過度に依存した防除体系により、ハダニ類等の薬剤抵抗性病害虫の顕在化も認められている。これらの防除

が困難な病害虫の被害を防止するため、生産者に対して次の取組を確実に実施するよう指導する。

- ・ 果樹カメムシ類への対応

I (I) 5 (1) ②イ (ウ) を参照。

- ・ ミカンコミバエ種群への対応

I (I) 5 (1) ②ウ (ウ) を参照。

- ・ クビアカツヤカミキリへの対応

I (I) 5 (1) ②ウ (オ) を参照。

- ・ 薬剤抵抗性管理

ハダニ類、リンゴ黒星病等の薬剤抵抗性発達リスクの高い病害虫については、抵抗性発達を回避するため、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を実施する。また、落葉処理、下草管理、排水対策、天敵の活用等の化学農薬以外の防除についても取り組む。

また、輸出に取り組んでいる地域においては、相手国が要求する検疫条件に適合するよう、放任園地（管理不良園）を適切に管理するとともに、園地におけるモモシンクイガ等の防除や選果時の食害果の除去等を徹底するよう指導する。

<関連情報>

農研機構 HP「果樹胴枯細菌病対策技術ガイドブック」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/168711.html

農研機構 HP「ビワの新害虫ビワキジラミの対策技術標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/51>

農林水産省 HP「“<w 天>防除体系”～薬剤抵抗性が発達しにくい、天敵が主役の新しい果樹のハダニ防除」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2020/2020seika-13.html

農研機構 HP「天敵を主体とした果樹のハダニ類防除体系標準作業手順書 施設編 ブドウ/ミカン」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/75>

農研機構 HP「天敵を主体とした果樹のハダニ類防除体系標準作業手順書 リンゴ編」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/44>

農研機構 HP「天敵を主体とした果樹のハダニ類防除体系標準作業手順書 基礎・資料編」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/45>

農研機構 HP「白紋羽病 温水治療マニュアル 改訂版」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/010793.html

農研機構 HP「白紋羽病温水治療マニュアル 2018 年速報版」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/080205.html

農林水産省 HP「農業新技術 2014」(温水を用いた果樹白紋羽病の治療技術)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology.htm

農研機構 HP「果樹胴枯細菌病対策技術ガイドブック」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/168711.html

森林総研 HP「クビアカツヤカミキリの防除法」

<https://www.ffpri.go.jp/pubs/chukiseika/5th-chuukiseika12.html>

農研機構 HP「外来カミキリムシ種の迅速かつ確実な寄生検出法を新たに開発」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nipp/160173.html

農林水産省 HP「カメムシ類の防除 1. 果樹カメムシ類」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/kamemusi.html>

(4) 新たな需要への対応

多様な消費者ニーズを捉え、手頃で日常的に摂取してもらえる生果実、果実加工品など新たな需要に対応した取組等を行う。具体的には、手に取りやすい国産果実生産・供給や、国産の加工原料用果実の確保に向けて、労働生産性の高い栽培体系への転換や、付加価値の高い加工仕向けの取組等を推進する。また、海外需要の開拓、輸出産地の育成に向けて、輸出先国・地域の規制に対応するための防除体系の見直しや、輸出先国・地域のニーズに対応するための価値・特性を有する品種の産地への導入等を推進する。

<関連情報>

農研機構 HP「省力樹形樹種別栽培事例集 (第2版)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/138903.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2015」

(果樹の樹体ジョイント仕立てを核とした省力、低コスト栽培システム)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology_cultivar/2015/list.htm

農林水産省 HP「農業新技術 2013」

(「不知火」等の主要中晩柑の夏季出荷技術)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology.htm

農研機構 HP「「団地型マルドリ方式」導入の手引き(第2版)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/080349.html

農研機構 HP「カンキツの高品質果実安定生産技術シールディング・マルチ栽培（NARO S. マルチ）標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/163>

農研機構 HP「新技術を導入した「シャインマスカット」栽培マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/080221.html

農研機構 HP「渋皮がむきやすいニホングリ果実の安定生産体系標準作業手順書（SOP）」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/19>

農研機構 HP「渋皮が簡単にむける早生のニホングリ新品種「ぼろすけ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/074118.html

農研機構 HP「自家和合性のウメ新品種「麗和」と「和郷」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/136639.html

農研機構 HP「皮ごと食べられる赤色のブドウ新品種「サニーハート」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/169442.html

農研機構 HP「極早生で良食味のニホンナシ新品種「蒼月」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nifts/170345.html

農林水産省 HP「“<w 天>防除体系”～薬剤抵抗性が発達しにくい、天敵が主役の新しい果樹のハダニ防除」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2020/2020seika-13.html

農研機構 HP「天敵を主体とした果樹のハダニ類防除体系標準作業手順書 施設編 ブドウ/ミカン」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/75>

農研機構 HP「天敵を主体とした果樹のハダニ類防除体系標準作業手順書 リンゴ編」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/44>

農研機構 HP「天敵を主体とした果樹のハダニ類防除体系標準作業手順書 基礎・資料編」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/45>

3 花き

花きの需要に合わせた安定生産・安定供給に向け、高温障害を回避・軽減する技術、高温耐性・病害虫抵抗性品種への転換に係る実証や普及活動の取組、花き業界関係者の情報連携に向けた取組、新たな需要開拓・利用拡大の取組等、地域や全国で生じている課題解決に資する取組を支援している。

(1) 生産コストの低減に向けた取組

生産コストの低減や生産性向上に資する技術や品種の導入等により、花き産地の収益性の向上を推進する。また、生産資材や燃料価格の上昇にも対応するため、低

コスト化・省エネルギー化に資する農業機械・施設等の導入、生育診断や土壌診断に基づく肥料や農薬の適正使用の取組を促進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略技術カタログ ver. 6.0」

（日没後（EOD）の加温や光照射による花きの省エネルギー生産技術）

（暖房費が削減できるバラ栽培のヒートポンプ利用方法）

（ク라운部局所加温による花きの低温期低コスト栽培技術）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/06_midori_catalog5_flowerr.pdf

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2020」

（施設園芸向け UECS 対応複合環境制御ロジック開発用ソフトウェア）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2020/2020seika-24.html

（2） 実需者ニーズへの対応

花き産地の生産品目の需要状況や品目の特徴に応じた新たな需要開拓、品種導入や栽培体系の実証などによるマーケットインの産地づくり、産地間連携の取組、品質向上や輸出先国の検疫条件に対応するための栽培管理技術の実証等の支援を進める。

<関連情報>

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2016」

（輪ギクにおける実需者ニーズに基づく新規格効率生産体系の確立）

https://warp.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/13271042/www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/pdf/20.pdf

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略技術カタログ ver. 6.0」

（夏の暑さに強い「スプレー愛知夏2号」「スプレー愛知夏3号」）

（気象変動に左右されない安定した開花特性を持つ小ギク品種の育成）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/06_midori_catalog5_flowerr.pdf

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略技術カタログ ver. 6.0」

（萎凋細菌病抵抗性・耐暑性を有するカーネーション新品種の育成）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/06_midori_catalog5_2030flower.pdf

農林水産省 HP「花きの技術情報のページ」

（花きの高温障害を軽減する短時間夜間冷房の栽培指針）（2015.03）

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutsuhasshin/techinfo/kaki.html>

農研機構 HP「植木、盆栽及び苗木の輸出に不可欠な植物寄生性線虫の除去及びそれに伴う商品価値の低下に関する対策技術マニュアル」(2024.03)

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/162482.html

農林水産省 HP「最新農業技術・品種2018」

(植木類輸出促進に向けた害虫の防除手法の開発)

https://warp.ndl.go.jp/web/20230901233345/https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/pdf/2018kobetuseika/2018_17.pdf

農研機構 HP「センリョウ技術マニュアル」(2019.03)

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/130460.html

農研機構 HP「開花調整技術を活用したつぼみ輸送体系の実証事業実施報告書」(2019.03)

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/130086.html

(3) 消費者ニーズへの対応

日持ちの良い花きを求める消費者ニーズに応えるため、コールドチェーンや品質保持剤の使用等による産地から小売段階までの品質管理の推進、高品質で日持ちの良い花き品種の普及、効率的な流通体制の確立や品質保持技術の実証等の支援を進める。また、SDGs や環境に配慮した生産への関心が高まる中、エネルギーや化学農薬、化学肥料の低減に資する生産技術の導入を推進する。

<関連情報>

農研機構 HP「ダリア・エターニティシリーズに新品種登場 良日持ち性ボール咲き品種「エターニティファイヤー」を追加(2026.02)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/174254.html

農研機構 HP「切り花の日持ちが優れるダリアエターニティシリーズの新品種「エターニティムーン」、「エターニティサンセット」(2024.03)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/162086.html

農研機構 HP「切り花の日持ちが優れる ダリアエターニティシリーズの新品種 「エターニティピーチ」、「エターニティシャイン」(2023.5)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/158348.html

農研機構 HP「良日持ち性のダリア新品種「エターニティトーチ」、「エターニティロマンズ」、「エターニティルージュ」を育成(2020.10)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/136828.html

農林水産省 HP「みどりの食料システム戦略技術カタログ ver.6.0」

(淡ピンク花色で日持ちが極めて良いカーネーション品種「カーネアイノウ1号」)
https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/06_midori_catalog5_flowerr.pdf

農林水産省 HP「最新農業技術・品種 2022」

(日持ち性が極めて良いカーネーション品種「カーネフジ愛農1号」)
https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/new_tech_cultivar/2022/2022seika-13.html

農研機構 HP「切り花の低温管理技術集」(2020.03)
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134492.html

農林水産省 HP「JASの対象となる品目(規格)は？」(日持ち生産管理切り花の日本農林規格)

https://www.maff.go.jp/j/jas/jas_standard/#nousan

農研機構 HP「日持ち保証に対応した切り花の品質管理マニュアル増補改訂版」(2014.03)
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/052743.html

(4) 有害物質への対応

クロピラリドを原因とするスイートピー等の生育障害の発生については、「Ⅱ(Ⅲ) 1(3) 有害物質への対応」と同様に園芸農家・育苗業者に対し、「牛等の排せつ物に由来する堆肥中のクロピラリドが原因と疑われる園芸作物等の生育障害の発生への対応について」に基づき指導する。

<関連情報>

農林水産省 HP「クロピラリド関連情報」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/clopyralid/clopyralid.html>

農林水産省 HP「牛等の排せつ物に由来する堆肥中のクロピラリドが原因と疑われる園芸作物等の生育障害の発生への対応について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/clopyralid/attach/pdf/clopyralid-8.pdf>

(Ⅳ) 畜産

高齢化等による離農や後継者不足等を背景に農家数は減少しているが、国内外の需要に応えるため、畜産農家を始めとして、地域に存在する各種支援組織や関連産業等の関係者(コントラクター、TMRセンター等)が有機的に連携・結集し、地域ぐるみで収益性・持続性を向上させる畜産クラスターの取組を推進する等、生産基盤の維持・強化や経営安定の確保を図る。その際、新規就農者等の確保や経営資源の円滑な継承を促進するとともに、搾乳ロボットや哺乳ロボット等の省力化機械の導入・活用、コントラクタ

一やTMRセンター等の外部支援組織の活用による労働負担の軽減、スマート農業技術の導入・活用による飼養管理の高度化を推進する。

また、青刈りとうもろこしなどの国産飼料の一層の生産・利用の拡大や国産原料由来エコフィードを始めとする未利用資源の飼料利用により、輸入飼料に過度に依存しない国産飼料生産基盤に立脚した畜産を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「畜産における情報通信技術（ICT）等を活用した取組について」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_katiku/attach/pdf/index-23.pdf

1 酪農

国内の多様な消費者ニーズや需要に応じた生乳生産のため、長命連産性に優れた強健な乳用牛群への転換や飼養管理技術の向上、日本の飼養環境に適した乳用牛の改良等に取り組み、生産コストの削減と酪農経営の改善を図る。このため、生産活動から得られる牛群検定や遺伝的能力評価、スマート農業機器等からのデータの活用を活用し、繁殖性の向上や子牛の事故防止を推進する。

（1） 遺伝的能力の向上

牛群改良の目標を設定し、その目標に即した種雄牛の交配による優良後継牛の確保及び牛群の能力向上を推進する。また、長命連産性の向上、泌乳持続性の向上、飼養環境に適した体型の斉一化及び体各部の均衡、さらに、乳器・肢蹄等の機能的体型に優れたものとするため、遺伝子解析情報や娘牛の成績を持たない若い種雄牛であるヤングサイア等の活用を推進する。

（2） 飼養管理技術の向上

酪農技術者等の地域の関係者で生産関連データを共有しながら、衛生管理、暑熱対策など、適切な飼養管理方法の普及・定着を図り、乳用牛の能力を最大限発揮させる。この取組を行う上で、「乳用牛ベストパフォーマンス実現会議」のパンフレットや、牛群検定により定期的に得られる乳量、乳成分の情報、スマート農業技術等を活用した飼養管理の高度化等を促進し、供用期間の延長等の飼養管理の改善に努めるよう促す。また、搾乳ロボットの導入においては、搾乳ロボットによる搾乳を前提とした分娩移行期の管理や飼料設計等が行われるよう、搾乳ロボットメーカーから飼養管理指導を受け、旧来の飼養管理方法ではなく、指導内容の忠実な実施に努めるよう指導する。

また、牛が本来持つ遺伝的能力を十分発揮させるためには、日々の健康管理や適切な飼料給与、丁寧な取り扱いなどの牛を快適な環境で飼養するアニマルウェルフ

エアに配慮した飼養管理が重要であることから、アニマルウェルフェアに関する指針の周知及び普及を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「乳用牛のベストパフォーマンスを実現するために」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_katiku/pdf/h27_bp_pamph_zentai.pdf

農林水産省 HP「乳用牛の飼養管理の改善に係るチェックポイント～長命連産性の向上のために～」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/lin/attach/pdf/chomeirensan-17.pdf>

農林水産省 HP「乳用牛の飼養管理に関する技術的な指針」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/attach/pdf/animal_welfare-135.pdf

(3) 生産コストの低減及び省力化の推進

飼養規模や飼養管理方式に応じた搾乳ロボットやほ乳ロボット等の省力的で労働負担の軽減に資する飼養管理技術の普及を推進する。併せて、自給飼料の生産拡大や放牧の導入により、生産コストの低減を図る。

コントラクター及び公共牧場等の活用を通じて作業の外部化を促進し、多様な経営形態に対応した生産コストの低減及び省力化を推進する。また、酪農ヘルパー組織を育成し、休日を確保できる体制を整備する。

(4) 衛生対策の推進

家畜伝染病の発生を予防するため、畜舎の清掃・消毒の実施等により飼養環境を整備するとともに、病原体の侵入を防ぐために、農場への立入制限、立入者の記録、農場に出入りする人・モノ・車両の消毒等をそれぞれ徹底する。また、普段から家畜の健康管理を徹底し、異状が確認された際には家畜保健衛生所や獣医師に直ちに通報する早期通報を徹底する。ヨ一ネ病等、農場に浸潤・発生が増大している伝染病については、ガイドラインや防疫対策要領を踏まえ、清浄化を進めるために、発生農場における重点的な検査等を推進する。なお薬剤耐性菌の増加を防ぐため、ワクチン接種を含む適切な飼養衛生管理を実施の上、抗菌剤の適正使用に取り組む。

<関連情報>

農林水産省 HP「口蹄疫に関する情報」

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/katiku_yobo/k_fmd/index.html

(5) 乳用牛の後継牛確保等の推進

酪農経営及び生乳供給の安定を図るためには、優良な乳用後継牛の確保とその遺伝的能力を高めることが重要である。このため、雌の性選別技術の活用や公共牧場等を活用した自家生産の取組の強化や地域内での育成体制の構築等により、乳用後継牛の計画的な確保・育成を推進する。

(6) 特色ある牛乳乳製品の生産の支援

国産ナチュラルチーズ製造者のための製造技術研修、国際コンテストへの参加、国内コンテスト開催及び器具機材の整備等を通じ、特色あるチーズづくりを推進する。また、酪農家の創意工夫を生かし、放牧認証を受けた牧場で生産された生乳を使用する等、特色ある牛乳乳製品の製造による高付加価値化を推進する。

2 肉用牛生産

肉用牛の改良及び飼養管理技術の向上等により経営の体質を強化するとともに、コスト低減を図りつつ、多様な消費者ニーズにも対応した牛肉の生産と安定供給を推進する。

(1) 肉用牛の改良の推進

産肉能力については、生産コストの低減や効率的な牛肉生産の観点に加え、品種特性に応じた適度な脂肪交雑の肉用牛生産により多様な消費者ニーズの高まりに対応する観点から、飼料利用性も考慮した日齢枝肉重量や歩留基準値など肉量に関する形質や、MUFAなどの脂肪の質を始めとする食味の向上に重点を置いた種雄牛及び繁殖雌牛の選抜・利用を推進する。また、牛肉の食味や脂肪交雑の形状に関する指標の研究を進め、それらを改良の指標として取り入れるための評価手法の検討を進める。

繁殖性については、繁殖形質に関するデータ収集等を推進するとともに、これまでに収集されたデータによる遺伝的能力評価に基づき、繁殖能力に優れ、生涯生産性の高い種畜の選抜に取り組むことにより、分娩間隔の短縮や性成熟を踏まえた初産月齢の適正化等を推進する。

飼料利用性については、生産コストの低減を一層推進する観点から、直接検定における余剰飼料摂取量と肥育牛における飼料利用性との関連性等も含め、飼料利用性に関する指標化の検討を引き続き進めるとともに、これまで蓄積されたデータを基に遺伝的能力評価に着手し、種畜の選抜手法の実用化を進める。

また、遺伝的多様性の確保を図るため、食味、繁殖性、飼料利用性等に関係する新たな改良形質のデータ収集に取り組み、ゲノミック評価等を活用して、これらに着目した種雄牛の造成等の改良を推進する。

(2) 生産コストの低減及び省力化の推進

肉用牛ヘルパーやコントラクター等の活用による作業の外部化を促進するとともに、牛の個体識別番号と生産関連情報とを関係者に共有すること等により、飼養管理の省力化や合理化の推進を図る。また、肉用牛が本来持つ繁殖性や増体性などの能力を十分発揮させるため、アニマルウェルフェアに関する指針の普及を図るとともに、以下の取組を推進する。

<関連情報>

家畜改良センターHP「肉用牛枝肉情報全国データベース」

<https://www.nlbc.go.jp/kachikukairyo/data/index.html>

農林水産省 HP「肉用牛の飼養管理に関する技術的な指針」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/attach/pdf/animal_welfare-134.pdf

① 繁殖経営

繁殖雌牛については、1年1産に向けて、適正な栄養管理、適度な運動の実施のほか、日ごろからの牛体観察やスマート農業技術の活用等により、確実な発情発見、授精適期の把握、分娩事故や子牛の事故防止等を徹底する。

<関連情報>

家畜改良センター鳥取牧場 HP「黒毛和種の飼養管理」

<https://www.nlbc.go.jp/tottori/rensai/kurogewashusiyoukanri/text.html>

「代謝プロファイルテストを用いた黒毛和種における飼養管理マニュアル」

<https://www.nlbc.go.jp/tottori/kenkyuuseika/taishaprofairu/index.html>

農林水産省 HP「スマート農業技術カタログ（畜産）」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/smart_agri_technology/smartagri_catalog_c_hikusan.html

② 肥育経営

肥育牛については、脂肪交雑の能力を活かす慣行肥育もブランド化等には引き続き有用である一方、肥育期間が長くなるほど飼料費等の生産コストが増加し、必ずしも収益性の向上にはつながらない場合もある。このため、個別の経営実態に鑑み、適正な月齢での肥育開始、肥育期間の短縮、適度な脂肪交雑での出荷を行う短期肥育・早期出荷も多様な肥育形態の1つとして検討し、必要に応じて取り組む。

(3) 衛生対策の推進

『Ⅱ（Ⅳ）1（4）』の項目を参照

3 養豚

国産豚肉の安定供給を確保するため、更なる種豚改良、飼養・衛生管理の高度化等による養豚経営の体質強化を推進する。

(1) 種豚の改良の推進

多様な消費者ニーズに対応する産肉能力の改良に向けて、国産豚肉全体の食味の向上を図るため、交配用の雄として主に利用されるデュロック種について、ロース芯への脂肪交雑の増進等により食味の向上を図る。また、生産コストの低減を図るため、1腹当たり育成頭数の向上に着目した改良を推進する。さらに、繁殖能力及び産肉能力を最大限に発揮させるため、強健で肢蹄が強く、発育に応じて体各部の均称がとれた体型への改良を図るとともに、肢蹄に関する評価指標の現場での実践に向け判定の均一化・精度向上を図る。生産コストの低減を一層推進するため、肉質への影響も考慮しつつ、きめ細やかな飼養管理による生産性向上に努めることにより、飼料要求率の向上を図る。

(2) 飼養・衛生管理の高度化

豚肉の生産性向上を図りつつ、遺伝的能力を発揮させる観点から、適切な飼養・衛生管理を徹底する。

① 飼養管理

飼養管理の効率化や労働時間の削減を図るため、母豚群飼システムや豚舎洗浄ロボット等のスマート農業技術の他、ベンチマーキング等のデータの活用を推進する。特色ある豚肉生産や一層の生産コストの低減を図るため、国内由来飼料を利用することによる肉質・食味の改良、循環型社会への貢献等により、販売力の強化を推進する。また、遺伝的能力などの豚が本来持つ能力を十分発揮させるためには、日々の飼養管理や適切な飼料給与、丁寧な取り扱いなどの豚を快適な環境で飼養するアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理が重要であることから、アニマルウェルフェアに関する指針の周知及び普及を推進する。

② 衛生管理

豚熱については、適時適切なワクチン接種が重要である。また、豚熱やアフリカ豚熱の他にも、豚サーコウイルス感染症等の慢性疾病は生産性を阻害する大きな要因となっていることから、農場における疾病対策及びバイオセキュリティの強化が極めて重要である。これらの伝染性疾病の発生予防及びまん延防止を図るため、農場においては、農場周囲の侵入防止柵の設置等の野生動物対策、農場に進入する車両の消毒や、農場及び畜舎に出入りする際の衣服や靴の消毒等を徹底するなどの飼養衛生管理基準の遵守を徹底する。また、グループ生産システム等を活用したオールイン・オールアウトの導入等の衛生対策を推進するものとする。なお、薬剤耐性

菌の増加は、疾病治療を困難にし、生産性の低下にもつながることから、抗菌剤の慎重使用に取り組む。

<関連情報>

農林水産省 HP「家畜改良増殖目標」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_katiku/attach/pdf/index-58.pdf

農林水産省 HP「養豚農業の振興に関する基本方針」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/tikusan_sogo/attach/pdf/yoton_nogyu_kihonhosin-28.pdf

農林水産省 HP「豚熱（CSF）について」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/index.html>

農林水産省 HP「アフリカ豚熱（ASF）について」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/asf.html>

4 養鶏

国産鶏卵・鶏肉の生産については、生産コストの低減や高病原性鳥インフルエンザ等の発生予防による安定供給に向け、衛生管理の改善、飼養管理技術の向上、家畜改良の推進や養鶏経営の省力化・生産性の向上を図る。

(1) 国産鶏種の改良の推進

我が国の気候風土に適応した国産鶏種の改良を推進するとともに、生産能力の向上とバランスのとれた飼料要求率の改善、低コスト生産のための産卵・産肉能力の改良、消費者ニーズに対応した特徴ある卵質・肉質の改良を推進する。国産鶏種の改良に当たっては、(独)家畜改良センター、都道府県、民間の連携により、系統の造成・利用を推進するとともに、実用鶏の安定供給に努める。加えて、始原生殖細胞（PGCs）の凍結保存等技術を普及するとともに、関係者間で相互に補完できるような連携体制の構築について検討を行う。また、アニマルウェルフェアの向上等を図るため、喧噪性を低減させるための飼養管理手法や改良手法についても検討を行う。

<関連情報>

農研機構 HP「鳥類の遺伝資源の効率的な保存・復元方法を開発」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nilgs/006611.html

農林水産省 HP「鶏の改良増殖目標」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_katiku/attach/pdf/index-59.pdf

農林水産省 HP「採卵鶏の飼養管理に関する技術的な指針」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/attach/pdf/animal_welfare-132.pdf

農林水産省 HP「ブロイラーの飼養管理に関する技術的な指針」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/attach/pdf/animal_welfare-131.pdf

(2) 飼養・衛生管理の徹底

鶏卵・鶏肉の生産性向上を図る観点から、種鶏、ふ卵及び鶏卵・鶏肉の生産段階で、適切な飼養・衛生管理を徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「鶏の技術情報のページ」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutsuhasshin/techinfo/chikusan_tori.html

① 飼養管理

スマート農業技術の導入による飼養管理方法の効率化を推進する。また、農場 HACCP や GAP 等の生産工程管理の普及を通じ、生産者の家畜衛生、作業安全、アニマルウェルフェア等の取組を推進する。

② 衛生対策

高病原性鳥インフルエンザ等の伝染病の発生を未然に防止する観点から、海外におけるこれらの疾病の発生状況等を把握するほか、飼養環境を良好に保つとともに、異状を発見した場合には家畜保健衛生所や獣医師に直ちに通報するなど、養鶏場における飼養衛生管理及び早期通報を徹底する。また、外来者の施設への立入制限等の実施や、鶏舎内外の定期的な清掃・消毒等の農場周辺環境整備、感染源となる野生動物の侵入を防止するためのフェンス、ネット等の設置、衛生害虫の発生防止など、外部からの病原体の侵入防止対策を徹底する。薬剤耐性菌の増加を防ぐため、飼養衛生管理による感染症の予防、抗菌剤の使用機会の削減等により、抗菌剤を真に必要な場合に使用する慎重使用に取り組む。

<関連情報>

農林水産省 HP「鳥インフルエンザに関する情報」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html>

(一社) 日本種鶏孵卵協会 HP「種鶏孵卵場の衛生対策マニュアル等」

<https://www.syukeifuran.or.jp/official/books.html>

5 アニマルウェルフェア (AW) の推進

AW は、適正な飼養管理を行うことで、家畜のストレスや疾病を減少させ、家畜の本来持つ能力を発揮させる取組であり、畜産物の輸出拡大や SDGs への対応等の国際的な動向を踏まえ、国として、我が国の AW の水準を国際水準とすべく、令和 5 (2023) 年 7 月に国際基準に沿った AW に関する飼養管理指針を発出した。

こうした取組の推進のため、同指針の取組状況に係る調査結果を踏まえつつ、指針の事項ごとに適正な達成目標を設定するなど、生産現場における同指針の更なる普及・定着を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針」及び「生産現場における指針の取組状況」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/animal_welfare.html

6 飼料作物等

国産飼料の生産・利用拡大のため、以下の取組を推進。

<関連情報>

農林水産省 HP「飼料」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryu/index.html

農林水産省 HP「飼料の技術情報のページ」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutsuhasshin/techinfo/chikusan_forage.html

(1) 飼料用とうもろこしの作付拡大

青刈りとうもろこしの生産に当たっては、各種マニュアル等を踏まえ、地域の自然条件、気象条件等に応じた品種の選定を指導するとともに、二期作による収量の確保や不耕起栽培技術、細断型ロールベラーによる作業省力化を推進する。農林水産省、都道府県、地域農業再生協議会が連携して畜産農家の需要と耕種農家の供給のマッチングを推進しており、需要者情報を公開している。

また、濃厚飼料である子実用とうもろこしについても生産・利用の取組を推進する。

<関連情報>

農研機構 HP「飼料用トウモロコシの作付け拡大に向けた新しい栽培技術<2019 年度版>

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/nilgs-corn2019.pdf

農研機構 HP「イアコーンサイレージ生産・利用技術マニュアル(第2版)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/earcornmanual_ver2.pdf

農研機構 HP「不耕起対応トウモロコシ高速播種機の活用Q&A ～試験事例集～」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/iam/080441.html

農研機構 HP「気候変動に対応したサイレージ用トウモロコシの二期作栽培技術<関東地域版>

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/078189.html

農研機構 HP「子実用トウモロコシ生産・利活用の手引き（都府県向け）第2版

https://www.naro.go.jp/PUBLICITY_REPORT/publication/pamphlet/tech-pamph/167572.html

農研機構 HP「水田飼料作を基盤とする資源循環型牛乳・牛肉生産の手引き」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134762.html

農林水産省 HP「青刈りとうもろこし生産の推進について（生産をお考えの皆様へ）」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/aogari_corn.html

農林水産省 HP「飼料の安全関係」

（飼料用とうもろこし子実のかび毒汚染防止・低減に向けた技術指導について（令和5年3月23日付け4消安第7174号、4畜産第2770号消費・安全局農産安全管理課長、消費・安全局畜産安全管理課長、畜産局飼料課長通知）

（パンフレット とうもろこし子実を生産する耕種農家・畜産農家の皆さまへ）

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/siryo/index.html>

（2） 作業の外部化の推進

畜産農家の飼養規模拡大や働き方改革に対応するため、飼料収穫・調製作業の外部化を図る。具体的には、飼料生産組織の健全な運営を推進するため、組織の法人化、オペレーターの確保・技術向上、ICTの活用等による作業の効率化、組織の運営強化等を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「飼料生産組織の皆様へ」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/siryoseisannsosiki.html>

（3） 優良草種・品種の育成・普及や草地更新による生産性の向上

飼料作物の生産性向上やコストの低減に当たっては、優良草種・品種の育成や普及を推進するとともに、草地の状況を把握し、計画的な草地更新を推進する。併せて生育・収穫時の気象リスクを分散できるよう、草種・品種の選定や、初冬季播種技術の導入を図る。

<関連情報>

農研機構 HP「飼料作物品種の一覧」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/kind-pamph/08/index.html

農研機構 HP「飼料作物の品種一覧」

<https://www.naro.go.jp/collab/breed/0500/index.html>

農研機構 HP「夏ごしペレ栽培マニュアル(寒冷地暫定版)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134486.html

農林水産省 HP「優良品種の活用について」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/yuryouhinsyu/katsuyou.html>

農畜産業振興機構 HP「気候変動が自給飼料生産に及ぼす影響と栽培管理技術の対応」

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001149.html

農研機構 HP「気象リスクに対応した安定的な飼料作物生産技術の開発 技術紹介パンフレット」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/139171.html

(4) 放牧の推進

家畜の放牧に際しては、各種マニュアル等を踏まえ、荒廃農地、野草地、林地等の低・未利用地や水田等の有効利用についても推進する。また、地域の実情に応じ肉用牛の周年親子放牧や乳用牛の集約放牧等による省力化を併せて推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「家畜改良センター技術マニュアル 20 未利用地を活用した放牧技術マニュアル」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/houboku/pdf/miriyoumanyual.pdf>

農研機構 HP「水田里山の放牧利用による高収益和牛繁殖経営の手引き」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/kihon_sisin/attach/pdf/sisin2-4-6-2.pdf

農研機構 HP「周年親子放牧導入マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/140413.html

農研機構 HP「集約放牧マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/011199.html

農研機構 HP「周年放牧肥育～実践の手引き～【九州低標高地版】」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/072958.html

農研機構 HP「スマート放牧導入マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/162121.html

農林水産省 HP「放牧の部屋」

<https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/shiryo/houboku/houboku.html>

(5) 国産稲わらや農場残さ等未利用資源の飼料利用拡大

稲わらの収集にあたっては、かびの発生防止のため水分含有率や土砂の付着に留意するよう指導する。このため、日本海側など稲刈り後の天候が不安定な地域にあつては、生稲わらサイレージ技術の導入を推進する。また、稲わらの供給可能な地域と不足する地域との間で連携を図るため、農林水産省、都道府県、地域農業再生協議会が連携して畜産農家の需要と耕種農家の供給のマッチングを推進しており、販売者情報を公開している。

地域で活用が進んでいない農場残さ等未利用資源を新たな飼料として活用するため、地域未利用資源の調査、未利用資源を利用した飼料製造実証等による生産・利用体制の構築の取組を推進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「稲わらについて」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/inawara.html

(6) エコフィードの利用推進

エコフィード（食品製造副産物等未利用資源利用飼料）の新たな活用・高品質化に向け、食品製造副産物等未利用資源等の排出事業者・飼料製造事業者・畜産農家が一体となった製造コスト削減、高品質化や安全確保等を図る取組を推進する。

また、エコフィードの適切な製造・利用を推進するため、衛生管理などについて「食品循環資源利用飼料の安全確保のためのガイドライン」の遵守に向けた指導を徹底する。

<関連情報>

農林水産省 HP「エコフィードについて」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/ecofeed.html

農林水産省 HP「食品循環資源利用飼料（エコフィード）の安全確保について」

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/siryo/ecofeed.html>

(7) 稲発酵粗飼料や飼料用米の生産・利用

稲発酵粗飼料・飼料用米の生産に当たっては、各種マニュアルや通知等により、農薬の適正使用や多収化及びコスト低減に向けた管理等を徹底する。家畜に給与する際には、各種マニュアルや通知等を踏まえた適切な給与を推進する。特に、新たに飼料用米の給与を開始する際には、家畜の状態をよく観察しながら徐々に配合割合を増やすなど、十分時間をかけた馴致を推進する。また、飼料用米を給与した家畜から生産した畜産物について、脂肪酸組成の変化等が報告されていることから、このような特徴を踏まえつつ、飼料用米の利用が畜産物の品質向上や高付加価値化に繋がるよう推進する。農林水産省、都道府県、地域農業再生協議会が連携して畜産農家の需要と耕種農家の供給のマッチングを推進しており、需要者情報を公開している。

<関連情報>

農林水産省 HP「飼料として使用する粳米への農薬使用について」（令和6年2月20日付け5畜産第2444号）

「稲発酵粗飼料用稲に係る農薬使用について」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/attach/pdf/index-1056.pdf

日本草地畜産種子協会 HP「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル 第7版」

https://souchi.lin.gr.jp/skill/pdf/manual_vol7.pdf

日本草地畜産種子協会 HP

2025fy_forage-for-rice_pamphlet.pdf

農研機構 HP「米とワラの多収を目指して2017—飼料用米、稲発酵粗飼料用品種—」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/kometowara2017.pdf

農研機構 HP「飼料用米の生産・給与技術マニュアル〈2016年度版〉」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/pub2016_or_later/files/ricm2016.pdf

農林水産省 HP「飼料用米生産コスト低減マニュアル」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/attach/pdf/siryouqa-256.pdf>

農林水産省 HP「多収品種に取り組むに当たって—多収品種の栽培マニュアル—」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/attach/pdf/siryouyoumai-2.pdf>

農林水産省 HP「稲発酵粗飼料（稲ホールクロップサイレージ）について」

https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/lin/l_siryo/#wcs

農研機構 HP「極短穂茎葉型品種を活用したイネホールクロップサイレージ生産体系標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/6>

農研機構 HP「水田飼料作を基盤とする資源循環型牛乳・牛肉生産の手引き」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/134762.html

(8) サイロ及び倉庫における飼料調製作業及び救護活動等にかかる安全確保

サイロ及び倉庫におけるサイレージ等飼料の貯蔵や調製作業に当たっては、調製材料の条件等により二酸化窒素等有毒ガスが発生している場合や、密閉され酸素欠乏状態となっている場合があるため、事前に十分な換気を行うよう指導する。また、サイロ及び倉庫内で人が倒れた場合は、急いで入らずに人を呼んで、空気を入れ換えて命綱をつけて救助にあたるよう周知徹底する。

(9) 経営・生産管理システム、ドローン等を用いた効率的な飼料作物の生産

飼料生産ほ場の作付計画や栽培履歴等の管理を行う経営・生産管理システム、ほ場作業を支援するロボットトラクターや自動操舵システム、ドローンを活用した農薬散布や牧草の播種、家畜ふん堆肥等の有機質資材の肥効を見える化するシステム等が開発されており、こうした技術を取り入れることで効率的な飼料生産の推進を図る。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業新技術_製品・サービス集」

- (1. 経営・生産管理システム)
- (2. ロボットトラクター)
- (3. 自動操舵システム)
- (9. 農業用ドローン)

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/products.html>

(一社)日本草地畜産種子協会 HP「ドローンを活用したライグラス類播種・栽培技術について」

https://souchi.lin.gr.jp/feed_increase/2024_drone.php

農研機構 HP「日本土壌インベントリー 土壌管理アプリ集」

<https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/main/menu/static/>

Ⅲ その他、特に留意すべき技術的事項等

(I) 自然災害等のリスクに備えるためのチェックリストと農業版BCP（事業継続計画書）

近年、自然災害（台風・大雪）等が多発しており、農林水産関係の被害額も増加傾向にある。そうした中で、農業者が自然災害等への備えに取り組みやすいものとなるよう、「自然災害等のリスクに備えるためのチェックリスト」と「農業版BCP（事業継続計画書）」のフォーマットを策定した（令和3（2021）年1月）。

本チェックリストと農業版BCPは、耕種、園芸、畜産の3パターンからなり、自然災害等のリスクに対する備えの意識を高めるとともに、台風被害等の軽減のための取組

事例等（災害の教訓）の提供や農業保険などセーフティネットへの加入の契機となることを目的としている。

チェックリストは、平時からのリスクに対する備えや台風等の自然災害への直前の備えに関するチェック事項であるリスクマネジメント編と、被災後の早期復旧・事業再開の観点から対策すべき事項（ヒト、モノ、カネ/セーフティネット、情報等）である事業継続編から構成されている。

また、農業版BCPは、インフラや経営資源等について、被害を事前に想定し、被災後の早期復旧・事業再開に向けた計画を定めるものである。

農業者自身が自然災害等の備えに活かせるよう、ホームページ、SNSに農業版BCP作成者の声を掲載、各種研修等での周知・説明を実施しつつ農業版BCP等の活用を促進する。

<関連情報>

農林水産省 HP「自然災害等のリスクに備えるためのチェックリストと農業版BCP」

https://www.maff.go.jp/j/keiei/maff_bcp.html

（Ⅱ） 農作業における安全の確保

『I（Ⅰ）4（1）』の項目を参照

（Ⅲ） 主要作目の災害等対策技術上の基本的留意事項

災害等対策の基本として、災害等に農業者自らが備えるため収入保険又は農業共済への加入を勧める。

高温対策については、「地球温暖化影響調査レポート」を活用しつつ取組を強化する。雪害対策については、雪害の経験が乏しい地域においても、適切な被害防止・低減対策を講じる。豪雨、台風、豪雪等の異常出水や積雪時においては、農作業及び見回りは行わないなど、二次災害の防止を徹底する。

上記災害等において留意すべき気象情報については、「農業気象ポータルサイト」（気象庁）を参照する。

災害等発生時に畜産農家に飼料を安定的に供給できるよう、飼料メーカー等と飼料穀物の保管数量の調整、広域的相互融通体制の構築、安定供給体制の整備に関する協議を行う。

さらに、ライフラインの機能が低下した場合には、「東北地方太平洋沖地震発生に伴う家畜の飼養管理及び施設園芸の停電対応等について」を参考として、畜産農家や施設園芸農家等に対して適切な技術指導を行う。

これらに加えて、農林漁業者に災害への備えのポイント等を出水期、降雪期、融雪期等の時機に合わせて、農林水産省のアプリやSNS、HPを活用して情報発信する。

<関連情報>

農林水産省 HP「自然災害リスクへの対応に係る取組の強化」

<https://www.maff.go.jp/j/saigai/saigairisk.html>

農林水産省 HP「農業保険（収入保険・農業共済）」

<https://www.maff.go.jp/j/keiei/nogyohoken/index.html>

農林水産省 HP「地球温暖化影響調査レポートについて」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/report.html>

気象庁 HP「農業気象ポータルサイト」

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

気象庁 HP「農業気象ポータルサイト利用方法」

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/setumei.pdf>

（一社）日本施設園芸協会 HP「平成 26 年 2 月の大雪被害における施設園芸の被害要因と対策指針」

<https://jgha.com/wp-content/uploads/2019/11/TM06-10-yuki.pdf>

農林水産省 HP「被害防止等に向けた技術指導」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/gijyutu_sido.html

農林水産省 HP「品目ごとの気象被害防止に向けた技術対策」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/attach/pdf/gijyutu_sido-120.pdf

農林水産省 HP「融雪出水期に備えるための予防減災情報」

https://www.maff.go.jp/j/saigai/taisaku_yusetsu/taisaku_yusetsu.html

農林水産省 HP「豪雨や台風等の風水害に備えるための予防減災情報」

https://www.maff.go.jp/j/saigai/taisaku_gaiyou/yobou_gensai.html

農林水産省「暴風雪や大雪に備えるための予防減災情報」

https://www.maff.go.jp/j/saigai/taisaku_ooyuki/taisaku_ooyuki.html

農林水産省 HP「野菜・花きの予防減災情報」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/yobougensai_yasaikaki.html

農林水産省 HP「果樹の予防減災情報」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/yobougensai_kaju.html

農林水産省 HP「農業用ハウスの予防減災情報」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/yobougensai_house.html

農林水産省 HP「東北地方太平洋沖地震発生に伴う家畜の飼養管理及び施設園芸の停電対応等について」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/joho/saigai/pdf/3_110315.pdf

農林水産省 HP「農地の除塩マニュアル」

<https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/sekkei/pdf/110624-01.pdf>

農研機構農村工学研究所 HP「東日本大震災復興支援農工研特設サイト」

https://www.naro.go.jp/laboratory/nire/contents/higashinihon_earthquake/index.html

農林水産省 HP「農業新技術 200X」「農業新技術 2012」（併載：震災復興等を支援する技術）

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology.htm

1 水稲

(1) 災害等に備えるための保険加入

水稲は、かつては生育期から出穂期にかけての低温・日照不足による生育不良や不稔粒が発生し、減収となる被害が度々発生していたが、近年は登熟期の高温による白未熟粒が多発し、一等米比率が低下するなどの被害が頻発している。また、台風などにより、収穫後の自宅倉庫で保管中の米が浸水する被害も発生している。

災害等対策の基本として、自然災害や気候変動などのリスクに対しては、収入保険又は水稲共済への加入により、農業者自らが備えることが重要である。水稲共済は、ほ場での自然災害による収量減少を補償する。収入保険は、ほ場での自然災害による収量減少に加え収穫後の事故や価格低下など農業者の経営努力では避けられない様々な要因による収入減少を補償する。このため、青色申告者には収入保険、白色申告者には水稲共済への加入を勧める。また、育苗用施設（特にパイプハウス）を所有している場合は、雪害や春先の突風による被害に備えて、園芸施設共済等への加入を勧めるとともに、水稲共済に加入する者に対しては、収穫後に自宅倉庫等で保管中の事故に備えて、農業共済組合の保管中農産物補償共済や民間保険会社の事業者向けの火災保険などに併せて加入するよう勧める。

(2) 低温・日照不足対策

冷害のおそれがある地域においては、耐冷性品種を選定するとともに、移植に当たっては、中苗や成苗を基本とし、稚苗の不適地への植付けを抑制し、適期を越えた早植えを避けるとともに、活着適温に配慮し、十分温度が上昇してから移植を行う。窒素の追肥に当たっては、生育診断等に基づき、生育遅延を来さないよう十分に留意し、冷害の危険性が高い場合には、追肥の中止や大幅な削減等、被害軽減を旨とした施肥に切り換える。

分けつ期の昼間止水夜間かんがい、低温来襲時の 20 cm 程度の深水かんがい等により稲体の保護と被害の軽減に努める。特に、幼穂形成期から出穂期の冷害危険期においては、日平均気温が 20 °C を下回る日が長期間続く場合や、短期間でも 17 °C を下回る場合が予想される地域では、幼穂形成期に 10 cm 以上、穂ばらみ期には 20 cm 程度の水深を確保することを基本に、生育進度に合わせた深水管理に努める。登熟期は間断かんがいにより根の活力を維持し、高次分けつを含め登熟の向上を図る。

その際、登熟期の気温、気象条件に即応した通水間隔や落水期を決定することとし、早期落水は厳に抑止する。中山間地等用水温が低い地域においては、用水温、水田水温、気温を事前に測定するとともに、昼間止水夜間かんがい等により水田の水温及び地温の確保に努める。

また、日照不足による軟弱徒長気味の生育が見込まれる場合は、穂肥については葉色、生育診断等に基づき適期適量の施用を実施することとし、窒素質肥料の過剰施用を避ける。

さらに、いもち病の防除については、種子消毒の徹底や予防粒剤の施用等により生育初期の予防に努めることが重要であるが、感染好適日が続き、上位葉への葉いもち病勢の進展及び穂いもちへの移行が懸念される場合には、雨の切れ間等をねらい、防除適期を逸しないように適切な追加防除を実施する。収穫に当たっては、出穂後の積算平均気温を目安に、ほ場毎の登熟状況を観察し、適期刈取りを実施する。

なお、普及指導センター、農業協同組合、農業共済組合等は連携して、収穫前の被害実態把握に努める。また、登熟不良等、外見上判断が困難な被害が想定される場合には、これらの機関は農業者に対してその旨の情報提供を行うとともに、農業共済組合等は共済制度が適切に活用されるよう必要な手続きの周知を行う。

<関連情報>

農研機構 HP「Google マップによる気象予測データを用いた水稻栽培管理警戒情報システム」

<https://www.naro.go.jp/project/results/laboratory/tarc/2010/tohoku10-03.html>

(3) 大雨（長雨）・台風対策

冠水時には排水路等を通じて速やかな排水に努め、排水後は、白葉枯病等の発生動向に留意し、的確な防除に努める。潮風害を受けたほ場では、できる限り速やかに散水により除塩を実施する。

また、冠水被害を受けた稲体は水分調節、肥料吸収等の機能が低下していること、出穂期や登熟期における台風通過に伴うフェーン現象は、白穂の発生、登熟不良等を引き起こすことから、根の活力を旺盛に保つよう水管理を徹底するとともに、応急的に通水し、水分の補給に努める。

さらに、台風の接近に伴う強風や大雨により倒伏や潮風害が起きた場合には、未熟粒や穂発芽等が発生し、品質低下が懸念されるため、被害の程度と籾の状況を見極めつつ、適期収穫に努めるとともに、被害籾は仕分けして乾燥・調製を行う。

なお、普及指導センター、農業協同組合、農業共済組合等は連携して、収穫前の被害実態把握に努める。また、登熟不良等、外見上判断が困難な被害が想定される場合には、これらの機関は農業者に対してその旨の情報提供を行うとともに、農業共済組合等は共済制度が適切に活用されるよう必要な手続きの周知を行う。

収穫後にほ場に放置している稲わらについて、ほ場の冠水リスク等を予め地域のハザードマップ等により確認するとともに、冠水リスクが高い場合には普及指導員等と相談の上、他のほ場等に流出・堆積が起こらないよう早期にすき込みや撤去等を行う。

収穫後に乾燥・保管している米については、風水害に伴う自宅倉庫の倒壊等により被害が発生しないよう、適切な場所で保管するとともに、農業共済組合の保管中農産物補償共済や民間保険会社の事業者向けの火災保険等への加入の必要性を周知する。

(4) 高温対策

近年、登熟期の高温傾向により、白未熟粒が多発する高温障害が頻発したことから、地域の条件に応じて、高温耐性品種の導入を進めるとともに、多様な熟期の品種を作付けることによって、登熟期高温の回避に努める。

また、栽培管理については、登熟期における稲体の活力の凋落を防ぐため、以下の点に留意する。

- ① 葉色を見ながら生育診断を必ず行い、適期に適量の穂肥の施用を行うこと。
- ② 出穂後の通水管理、収穫前の早期落水防止等の水管理を徹底すること。
- ③ ケイ酸質資材や堆肥の施用、稲わらの鋤き込み、深耕等の土づくりを徹底すること。

育苗段階においては、種子伝染性病害の発生を防止するため、種籾の塩水選・消毒等を徹底する。また、育苗期における高温・高日射条件では、もみ枯細菌病等の病害、苗の徒長やヤケ苗が発生しやすくなるため、高温・過湿にならないようハウスの換気を行うとともに、十分なかん水を行う。

さらに、生育前半が高温であった場合は、過剰分けつや籾数過多が見られることから、適正な基肥の施用、栽植密度の調整、中干しの徹底等に努める。なお、肥効調節型肥料（いわゆる基肥一発肥料）を使用した場合でも、現場での生育・栄養診断の実施による適切な追肥に努める。

このほか、移植時期の繰り下げは、梅雨明け直後の高温時期における出穂及び登熟の回避につながり、一定の被害軽減効果が期待されるが、平成22（2010）年夏の異常高温下では登熟期における高温の遭遇を回避できず、その効果が十分でなかったため、導入する地域にあっては、8月中下旬から9月の高温に備え、高温耐性品種の導入や栽培管理の見直し等総合的な対応に努める。

収穫作業については、高温によって登熟期間が短縮し、収穫適期が通常より早まる可能性があるため、出穂期以降の積算気温や籾の状態に十分注意し、刈り遅れとならないよう品種・地帯毎の収穫適期を判定する。

なお、普及指導センター、農業協同組合、農業共済組合等は連携して、収穫前の被害実態把握に努める。また、高温障害による白未熟粒の多発等、外見上判断が困難

な被害が想定される場合には、これらの機関は農業者に対してその旨の情報提供を行うとともに、農業共済組合等は共済制度が適切に活用されるよう必要な手続きの周知を行う。

<関連情報>

農林水産省 HP「農林水産省気候変動適応計画」

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/climate/adapt/top.html>

農林水産省 HP「地球温暖化影響調査レポートについて」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/report.html>

農林水産省 HP「令和7年地球温暖化影響調査レポート（速報）」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/ondanka/attach/pdf/index-170.pdf>

(5) 雪害対策

雪害が生じるおそれがある地域にあっては、育苗用施設（特にパイプハウス）の積雪による破損や倒壊を防ぐため、以下の点に留意する。

①積雪前に施設のパイプを撤去する（アーチパイプのみの解体・撤去によっても、被害の軽減が期待できる）。

②パイプの撤去が不可能な場合は、事前に被覆資材を除去することにより、破損や倒壊を防ぐ。また、積雪深がパイプハウスの肩部を超えないよう除雪等を適宜実施する。

③平年であれば降雪量の少ない地域においても、比較的短期間に多量の降雪が見込まれる場合は、必要に応じて被覆資材を切断除去することで積雪による破損や倒壊を防ぐ。

④被害が発生しても円滑に苗を確保できるよう、地域内の他の育苗施設の所在地や供給量等を事前に確認する。

また、地域の育苗施設のみでは苗の確保に支障を来すことが予想される場合には、近隣の共同育苗施設等からの供給を求めることができるように、あらかじめ地域間での苗の融通について協力体制づくりを進める。

さらに、融雪が遅れると見込まれる地域においては、融雪促進剤を活用するなど、気象動向に即した適期移植が図られるよう準備を進め、必要に応じて移植時期を調整する。その際、移植日や苗の老化、安全成熟晩限期（平均気温が12℃未満となり登熟停止すると仮定される時期）に留意する。

(6) 渇水対策

農業用水の供給に影響が生じる可能性がある場合には、あらかじめ利水調整に関して地域内の話し合いを進め、不足が見込まれる場合には番水や用排水の反復利用等を行い、農業用水の有効活用に努める。

<関連情報>

農林水産省 HP「渇水時の対応」

https://www.maff.go.jp/j/nousin/mizu/kurasi_agwater/k_kassui/

農林水産省 HP「水源情報」

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/mizu/suigen/>

2 麦類

(1) 災害等に備えるための保険加入

麦類は、収穫期の降雨により、穂発芽や赤かびの発生による収量減や品質低下が発生しやすい作物である。

災害等対策の基本として、自然災害などのリスクに対しては、収入保険又は麦共済への加入により、農業者自らが備えることが重要である。麦共済は、ほ場での自然災害による収量減少を補償する。収入保険は、ほ場での自然災害による収量減少に加え収穫後の事故や価格低下など農業者の経営努力では避けられない様々な要因による収入減少を補償する。このため、青色申告者には収入保険、白色申告者には麦共済への加入を勧める。

(2) 長雨・湿害対策

湿害による収量・品質の低下を回避するため、水田等のほ場の状況に応じ、簡易暗きよの施工、ほ場内及びほ場周辺の排水溝の設置により排水対策に努める。また、収穫時期の湿害を回避するため、大型コンバインや共同乾燥調製施設の利用体制を整備し、気象予報等に留意した計画的かつ効率的な作業に努めるとともに、早生品種や穂発芽耐性品種の導入を進める。穂発芽が予想される場合は、早期収穫を実施した上で、早急に共同乾燥調製施設において一定水準まで半乾燥（子実水分17%程度以下）を行う。特に我が国は、生育後期に降雨が多く、赤かび病の病原菌がつくるデオキシニバレノール、ニバレノール汚染が起こる可能性があり、外観上、健全な穀粒であってもデオキシニバレノール、ニバレノールが蓄積する場合がある。このため、「麦類のデオキシニバレノール、ニバレノールの汚染の予防及び低減のための指針」に従い、抵抗性品種の選択、防除適期を逃さないための生育状況や発生予察情報等の把握、麦種に応じた適期防除及び適切な農薬の選択を実施する。また、栽培管理・乾燥調製等の工程における取組として、前作の作物残さ等の処理、収穫及び乾燥調製を適期・適切に実施する。このほか、縞萎縮病への対策として、抵抗性品種への作付転換や異なる麦種によるローテーションを実施する。

<関連情報>

農林水産省 HP「麦類のかび毒汚染予防・低減指針」

(麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針)
(指針活用のための技術情報)

https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/mugi_kabi_sisin.html

農研機構 HP「麦類のかび毒汚染低減のための生産工程管理マニュアル改訂版」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/077227.html

農研機構 HP「営農排水改良ラインナップ技術 新世代機「カットシリーズ」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/132584.html

北海道病害虫防除所 HP「コムギなまぐさ黒穂病 Q&A 完結版」

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/indexnew.html>

(3) 低温・雪害対策

麦類を単収向上等の観点から早播きする場合、暖冬年には、春先の茎立ちが早まり幼穂が凍霜害を起こしやすいので、生育の状況に応じて踏圧を実施し、節間伸長を抑制する。また、積雪地帯では、適期播種による越冬前の生育確保、根雪前の薬剤散布による雪腐病防除、春先の融雪促進剤の使用による雪腐病の抑制・軽減、融雪後の追肥による生育促進等の対策を実施する。

3 豆類

(1) 災害等に備えるための保険加入

豆類は、出芽期から生育期にかけての降雨により、発芽不良や生育不良などによる収量減や品質低下が発生しやすい作物である。

災害等対策の基本として、自然災害などのリスクに対しては、収入保険又は畑作物共済（大豆、小豆、いんげん）への加入により、農業者自らが備えることが重要である。畑作物共済は、ほ場での自然災害による収量減少を補償。収入保険は、ほ場での自然災害による収量減少に加え収穫後の事故や価格低下など農業者の経営努力では避けられない様々な要因による収入減少を補償する。このため、青色申告者には収入保険、白色申告者には畑作物共済への加入を勧める。また、畑作物共済に加入する場合は、収穫後に自宅倉庫等で保管中の事故に備えて、農業共済組合の保管中農産物補償共済や民間保険会社の事業者向けの火災保険などに併せて加入するよう勧める。

(2) 低温対策

① 凍霜害対策

播種後、晩霜による凍霜害を受けるおそれがある地域では、遅播きが有効であるほか、収穫期が遅れないよう早生品種を活用する。また、収穫期に早霜により凍霜害が予想されるときは、刈り遅れないよう可能な限り早刈りに努める。

② 冷害対策

冷害を受けやすい地域では、耐冷性品種を選定するとともに、輪作、有機物の施用、合理的な施肥等による土づくりを通じて地力を維持・増進させる。また、低温年には、日照不足や多雨による過湿等も伴うことから、地温の上昇や土壌の通気性を確保するため、中耕・培土を多めに実施する。

(3) 干害・高温対策

干ばつが生じやすい地域では、土壌の保水性を改善するため、深耕、堆肥の施用等の適正な栽培管理に努める。特に、開花期以降に干ばつが生じた場合は、落花・落莢が多くなり着莢率が低下するほか、不稔莢の増加、着粒重の減少等を招くため、状況に応じた適切なかん水を行う。また、高温年は、害虫の発生により落花・落莢、莢への食害が著しくなり、青立ちや腐敗粒の発生が多くなるため、適切な害虫防除を実施する。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業新技術 2008」(湿害や干ばつを防止する新地下水制御システム)

https://www.affrc.maff.go.jp/docs/new_technology.htm

農研機構 HP「ダイズへの適期灌水を実現するための『灌水支援システム』Web システム 開発者向け標準作業手順書」

<https://sop.naro.go.jp/document/detail/80>

(4) 湿害・台風対策

ほ場の滞水や土壌水分の過多は、根の呼吸を阻害(酸素不足)し、出芽期においては出芽不良のみならず、その後の生育や収量の低下を招き、生育期においては生育遅延や根腐れを引き起こすとともに、日照不足と相まって作物体を軟弱化させ、病害虫に対する抵抗性を弱める。このため、降雨時に速やかな排水が可能となるよう、ほ場の状況に応じ、簡易暗きよの施工、ほ場内及びほ場周辺の排水溝の設置等の営農排水対策をあらかじめ実施する。特に、排水不良田では、湿害を回避するため、営農排水対策を徹底する。

また、「大豆 300A 技術」等の耕起・播種技術等の湿害軽減技術を導入するとともに、地下水位制御システムについて、本暗きよ施工時又は更新時を捉えて普及させ、

土壌と栽培条件に応じた湿害の軽減に努める。生育初期に湿害を受けた場合は、湿害の程度に応じて再播種を行い、被害の軽減に努める。なお、晩播は生育量が低下するので、播種量を増やすなどの対策により、生育量の確保に努める。

大豆を連作しているほ場では、排水対策を行っていても収量が低下することがある。このようなほ場では、土壌中の可給態窒素の減少や土壌のち密化による透水性の悪化が生じている可能性が高いことから、有機物の施用等により土壌の物理的、化学的性質の改善を図る。生育量が急増する開花期以降に台風等により莢が損傷した場合は、傷口から病原菌が侵入し、カビ粒や腐敗粒になりやすいため、天候の状況を注視し、必要に応じ速やかに防除を行うとともに、早期の収穫に努める。さらに、耐倒伏性の高い品種の選定や培土等により風害を軽減するとともに、必要に応じ熟期の異なる品種の導入による危険分散に努める。

<関連情報>

農研機構 HP「営農排水改良ラインナップ技術 新世代機「カットシリーズ」」
https://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/132584.html

農研機構 HP「「カットシリーズ」を用いた営農排水施工技術標準作業手順書」
<https://sop.naro.go.jp/document/detail/13>

農研機構 HP「診断に基づく大豆栽培改善技術導入支援ツール標準作業手順書」
<https://sop.naro.go.jp/document/detail/17>

農研機構 HP「大豆用高速畝立て播種機を活用した大豆栽培体系標準作業手順書」
<https://sop.naro.go.jp/document/detail/116>

農研機構 HP「ディスク式高速一工程播種法を活用したダイズの栽培体系」
<https://sop.naro.go.jp/document/detail/177>

4 てん菜

(1) 災害等に備えるための保険加入

てん菜は、湿害による収量減が発生しやすい作物である。また、夏季以降の高温により糖度低下発生のおそれがある。

災害等対策の基本として、自然災害などのリスクに対しては、収入保険又はてん菜共済への加入により、農業者自らが備えることが重要である。てん菜共済は、ほ場での自然災害による収量減少を補償する。収入保険は、ほ場での自然災害による収量減少に加え収穫後の事故や価格低下など農業者の経営努力では避けられない様々な要因による収入減少を補償する。このため、青色申告者には収入保険、白色申告者にはてん菜共済への加入を勧める。

(2) 災害等対策

湿性火山灰土壌、重粘土壌等、過湿、滞水等の被害を生じやすい排水不良ほ場では、暗きよ排水、明きよ排水等を整備するとともに、心土破碎等の土層改良に努める。また、生育初期に畦間にサブソイラを通し、透水性の改善に努める。

ほ場が冠水した場合は、表面滞水を排出するための小排水路をほ場内に設け、褐班病や根腐病に対する適切な防除に努める。また、収穫期に冠水した場合には、早期の収穫に努める。

軽しょう火山灰土壌地帯では、播種後又は定植後に、強風によって土粒子の飛散による被害が懸念されるので、被覆植物の播種や畝間への盛土施工等の風害軽減対策の実施に努める。

育苗施設については、積雪や強風による被害を回避するため、補強や降雪後の加温や除雪に努める。

5 ばれいしょ

(1) 災害等に備えるための保険加入

ばれいしょは、湿害や干ばつによる収量減等が発生しやすい作物である。また、冷涼な気候に適した作物であるため、高温の影響により減収となるおそれがある。

災害等対策の基本として、自然災害などのリスクに対しては、収入保険又はばれいしょ共済への加入により、農業者自らが備えることが重要である。ばれいしょ共済は、ほ場での自然災害による収量減少を補償する。収入保険は、ほ場での自然災害による収量減少に加え収穫後の事故や価格低下など農業者の経営努力では避けられない様々な要因による収入減少を補償する。このため、青色申告者には収入保険、白色申告者にはばれいしょ共済への加入を勧める。また、ばれいしょ共済に加入する場合は、収穫後に自宅倉庫等で保管中の事故に備えて、農業共済組合の保管中農産物補償共済や民間保険会社の事業者向けの火災保険などに併せて加入するよう勧める。

(2) 災害等対策

萌芽当初に霜害の発生が予想される場合は、軽く培土を行う。霜害が発生した場合は、窒素質肥料の追肥等により草勢の回復に努める。

秋作では、植付け時に干ばつとなることが多いため、土壌水分を保持するとともに、高温時の植付けを避け、状況に応じて撒水する。一方、ほ場が滞水した場合には、塊茎腐敗を起こしやすいので、排水溝の設置等による排水に努める。また、低温多雨条件下では疫病がまん延しやすいため、適期防除に努める。

高温年は、塊茎の急激な肥大に伴う中心空洞の発生や軟腐病等の発生が多くなる。このため、浴光育芽や適正施肥等を励行するとともに、病害虫の適期防除を実施する。

<関連情報>

農林水産省 HP「ばれいしょの基本的な栽培技術」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/gijutsuhasshin/techinfo/bareisyo.html>

6 さとうきび

(1) 災害等に備えるための保険加入

さとうきびは、干ばつや台風による収量減や糖度低下が発生しやすい作物である。今後、台風の大型化により、被害が大きくなるおそれがある。

災害等対策の基本として、自然災害などのリスクに対しては、収入保険又はさとうきび共済への加入により、農業者自らが備えることが重要である。さとうきび共済は、ほ場での自然災害による収量減少を補償する。収入保険は、ほ場での自然災害による収量減少に加え収穫後の事故や価格低下など農業者の経営努力では避けられない様々な要因による収入減少を補償する。このため、青色申告者には収入保険、白色申告者にはさとうきび共済への加入を勧める。

(2) 災害等対策

下層にさんご礁石灰岩がある地域は、特に干ばつ被害を受けやすいので、点滴かんがい等の節水型のかん水設備を導入して土壌の保水力の向上に努める。さらに、適期の高培土により根系の発達を促すとともに、倒伏や折損しにくい品種への転換に努める。

一方、泥灰岩土壌などにおいては、ほ場の滞水が収量及び品質に大きく影響するので、排水溝を設置して速やかに排水する。

強風による倒伏・折損及び塩害による被害を最小限に止めるため、培土を徹底するとともに、倒伏や折損しにくい品種への転換や防風防潮林を整備する。さらに、台風の通過後は散水を行い、早急に葉面の除塩に努める。

7 かんしょ

(1) 災害等に備えるための保険加入

近年、平成 30 (2018) 年 7 月の西日本の豪雨や令和元 (2019) 年の東日本の台風など過去に例のない災害が多発している。

自然災害などのリスクに対しては、農業者自らが備えることが重要であるため、青色申告者には収入保険への加入を勧める。

(2) 災害等対策

優良苗の確保や活着の促進に努め、挿苗期に干害が発生しやすい土壌条件（砂土や砂壤土）の地域では、直立植え等を取り入れ、耕起の深さや碎土等に留意し、状況によって撒水する。

長雨・台風等でほ場が滞水した場合には、塊茎腐敗を起こしやすいので、排水溝の設置等によって速やかに排水する。

8 茶

(1) 災害等に備えるための保険加入

茶は凍霜害による被害を受けやすい作物である。

災害等対策の基本として、自然災害などのリスクに対しては、収入保険又は茶共済への加入により、農業者自らが備えることが重要である。茶共済は、一番茶のみを対象とし、園地での自然災害による収量減少を補償する。収入保険は、一番茶だけでなく二番茶以降の茶も対象とし、園地での自然災害による収量減少に加え収穫後の事故や価格低下など農業者の経営努力では避けられない様々な要因による収入減少を補償する。また、収入保険は、加入者自らが生産・加工して販売する荒茶、仕上げ茶等は、その販売金額ベースで補償する。このため、青色申告者には収入保険、白色申告者には茶共済への加入を勧める。また、茶共済に加入する場合は、収穫後に自宅倉庫等で保管中の事故に備えて、農業共済組合の保管中農産物補償共済や民間保険会社の事業者向けの火災保険などに併せて加入するよう勧める。

(2) 凍霜害対策

① 予防対策

凍霜害が発生しやすい地域では、事前に霜害警報連絡体制を確認するとともに、防霜ファンや散水用スプリンクラー等の稼働点検を行う。さらに、園地の気象及び立地条件、さらには経済性を考慮しながら、被覆法、送風法、散水法等の凍霜害防止対策を実施する。

<関連情報>

農研機構 HP「茶における防霜ファンの気温差制御技術について」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/vt_bousoufan_manual_20140214.pdf

② 事後対策

2葉期未満の場合、被害後は放任して再成長を待ち、摘採時における被害芽の混入に十分注意する。被害発生時に2葉以上の開葉があり、摘採時に被害葉が混入する可能性が高い場合には、被害直後に浅く整枝して被害部分を除去する。また、生育が遅れて病害虫の発生が多くなった場合、適期防除に努める。

(3) 干ばつ対策

干害に関しては、敷草を行い土壤水分の蒸発を防ぐとともに、用水が得られれば適切なかん水に努める。また、被覆棚が整備された茶園では、被覆して日射を防ぎ水分蒸散を抑える。

(4) 雪害対策

樹冠面の雪は無理な除雪や水による融雪などは行わず、自然融雪を待ち、折損した枝条は切除する。

9 蚕糸

(1) 災害等に備えるための保険加入

災害等対策の基本として、桑葉の凍霜害、蚕児の病害などのリスクに対しては、収入保険又は蚕繭共済への加入により、農業者自らが備えることが重要である。蚕繭共済は、自然災害による収量減少を補償する。収入保険は、自然災害による収量減少に加え収繭後の事故や価格低下など農業者の経営努力では避けられない様々な要因による収入減少を補償する。このため、青色申告者には収入保険、白色申告者には蚕繭共済への加入を勧める。また、蚕繭共済に加入する場合は、収繭後に自宅倉庫等で保管中の事故に備えて、農業共済組合の保管中農産物補償共済や民間保険会社の事業者向けの火災保険などに併せて加入するよう勧める。

(2) 雪害対策

稚蚕飼育施設（特にパイプハウス）の破損や倒壊を防ぐため、以下の点に留意する。

①積雪前に施設のパイプを撤去する（アーチパイプのみの解体・撤去でも被害の軽減が期待できる）。

②パイプの撤去が不可能な場合は、積雪深がパイプハウスの肩部を超えないよう、除雪等を適宜実施する。

③短期間の大雪による被害が見込まれる場合には、積雪前に施設の被覆を撤去する。

10 野菜

(1) 災害等に備えるための保険加入

野菜は、近年、地震や台風、豪雪など過去に例のない災害により、ほ場等への土砂の流入、冠水などの被害が多発している。また、野菜価格安定制度の価格差補給金は自然災害等で出荷できない場合は対象外となる。

災害等対策の基本として、自然災害などのリスクに対しては、農業者自らが備えることが重要であるため、青色申告者には収入保険への加入を勧める。また、ハウス栽培の場合は、ハウスの損害に備えて、園芸施設共済等に併せて加入するよう勧める。

(2) 低温対策

① 寒害対策

発芽又は定植後の幼苗期は、被覆資材の利用等により地温の上昇に努める。また、生育初期の窒素質肥料の多施用を避け、適切な生育管理に努める。育苗に当たっては、低温障害を受けないよう留意しながら、十分な換気を行う。また、病害が発生した場合には、速やかに防除を実施する。

② 雪害対策

育苗床の設置に当たっては、日照、風向等を十分に考慮するとともに、除雪や融雪促進剤の散布を行い、適期育苗に努める。また、作付予定地等において平年よりも融雪が相当に遅延する場合には、融雪促進剤の散布等と排水を促進することにより、地温の上昇及び湿害の防止に努める。

③ 凍霜害対策

冷気の滞留場所、風向等を考慮し、凍霜害を回避できる適地を選定する。また、早期の播種・定植を極力避け、健苗の育成に努めるとともに、定植後は、フィルム被覆やべたがけ資材の利用等により被害の回避に努める。被害が発生した場合には、欠株の補植、速効性肥料の施用等により草勢の回復を図るとともに、病害虫を適切に防除する。

④ 低温・長雨・寡照対策

夏秋期における異常な低温・長雨・寡照の条件下では、生育・着果不良等となりやすく、また、病害虫が多発しやすいので、排水対策や病害虫防除対策を徹底する。ま

た、長雨・多雨時に備え、事前に排水路網の点検整備等を行うとともに、品目によっては雨よけ施設等を設置する。

(3) 高温対策

① 全般

かん水は、早朝・夕方に実施する。施設内でのかん水は、通風するなどして湿度を下げて行う。地温上昇の抑制や土壌水分の保持を図るために、地温抑制マルチや敷わら等を活用する。高温耐性品種を選定する。園芸用施設においては、妻面・側面を解放するとともに遮光資材等を使用し、施設内の温度上昇を抑制する。循環扇を使用することで、局所的な高温空気の滞留を防ぎ、室内温度の均一化が図られるとともに作業快適性が向上する。また、風通しを良くするために、こまめな除草を行うとともに、側枝、弱小枝及び下葉を除去するよう努める。育苗箱は、コンテナやブロックでかさ上げし、風通しを良くするよう努める。なお、単一の技術のみでは、その効果が不十分であることから、複数の技術を組み合わせることが重要となる。

<関連情報>

農研機構 HP「高温期ホウレンソウの品質向上マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/warc_manual_quality_improvement_of_high-temperature_phase_spinach.pdf

農研機構 HP「高温期の花成誘導に貢献するイチゴ高設栽培の気化潜熱利用培地冷却技術」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/warc_manual_medium_cooling_technology_201303.pdf

② 葉茎菜類に関する留意事項

乾燥によるチップバーンを防止するため、薬剤防除時にカルシウム剤を混用する。ねぎでは、軟腐病が発生するおそれがあることから、畝間かん水を控える。

③ 果菜類に関する留意事項

不良果の摘果、若どりを行い、着果負荷を軽減するとともに、適切な施肥を行うことにより樹勢維持に努める。また、老化葉、黄色葉を中心に摘葉を実施し、水分の蒸発抑制に努める。カルシウム欠乏、鉄欠乏、ホウ素欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行う。

(4) 干ばつ対策

土壌の保水力を高め、根を深く張らせるために、深耕、有機物の投入等に努めるとともに、畑地かんがい施設の整備及び用水の確保に努める。さらに、マルチ等に

より土壌面からの蒸発防止に努める。また、ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等干ばつ時に発生が多くなる病害虫の適期防除に努める。

(5) 大雨・台風対策

① 予防対策

防風垣、防風網の整備等により風害・潮害対策に努めるとともに、ほ場内からの早期排水のため、あらかじめ溝切り、畦立て等を実施する。また、べたがけ資材の利用等により風害回避に努める。傾斜地畑においては、排水路の設置等により畑地崩壊及び土壌侵食を防止する。

② 事後対策

冠水・浸水時には速やかな排水に努める。また、土寄せ、追肥、液肥の葉面散布等を行い生育の回復に努めるとともに、折損した茎葉の除去や適切な薬剤散布で病害の発生を防止する。生育初期に被害を受けた場合は、予備苗による植替え等を行う。植替え等により生育が遅れる場合は、フィルム被覆等により生育の促進に努める。潮風害を受けた場合には、散水による除塩作業を実施する。施設栽培においては、台風通過後の強い日射によって高温障害が生じやすいので、フィルムの巻上げ等の換気操作を行う。防除用設備（配管、水槽、スプリンクラー、防除機材等）が破損するなど、既存の管理・防除手段が使えなくなった場合には、他の管理・防除設備等の手配など、代替手段の確保に努め、適期防除を徹底する。

(6) ひょう害対策

被害発生時には、欠株の補植、追肥等を的確に行い、生育の回復に努める。また、折損した茎葉の除去と適切な薬剤散布を行い、病害の発生を防止する。

1.1 果樹

(1) 災害等に備えるための保険加入

① 収入保険等

果樹は、暖冬に伴う生育の前進による新芽や花の凍霜害、夏季の高温・多日照による日焼け果や、果実肥大期の短時間大雨による裂果、降雪による樹体損傷に伴う減収などの被害が発生している。災害等対策の基本として、自然災害などのリスクに対しては、収入保険又は果樹共済への加入により、農業者自らが備えることが重要である。果樹共済の収穫共済は、樹園地での自然災害による収量減少を補償する。収入保険は、樹園地での自然災害による収量減少に加え収穫後の事故や価格低下な

ど農業者の経営努力では避けられない様々な要因による収入減少を補償する。このため、青色申告者には収入保険、白色申告者には果樹共済の収穫共済への加入を勧める。また、ハウス栽培や雨除けハウスなどを設置している場合は、ハウスの損害に備えて、園芸施設共済等への加入を勧める。

果樹共済の収穫共済に加入する場合は、収穫後に自宅倉庫等で保管中の事故に備えて、農業共済組合の保管中農産物補償共済や民間保険会社の事業者向けの火災保険などに併せて加入するよう勧める。

② 樹体共済

果樹の樹体は、短期時間大雨による樹体の流失被害、強風や降雪による樹体損傷などの被害が発生している。災害等対策の基本として、自然災害による樹体の損害に備えて、果樹共済の樹体共済に加入するよう勧める。

(2) 低温対策

① 寒害対策

低温に弱いかんきつ類等の常緑果樹は、寒冷紗や不織布等で被覆し、樹体の凍結を防ぐ。特に苗木・幼木や若木は寒さに弱いため、コモや不織布等で樹体を保護する等の防寒対策に努める。土壌の過乾燥を防止するために、かん水が可能な場合は、かん水を行う。防風垣又は防風網を設けている場合は、裾の部分の巻上げ等を行い、冷気の停滞を防止する。敷わら栽培では、地表面からの熱移動が妨げられるので、敷わらの全面被覆を避ける。また、異常低温が予想される前に収穫適期の果実を収穫し、凍害等の発生の懸念がある場合は果皮・果肉障害の発生の可能性があることを前提に、寒害等によりヤケ、苦味、す上がり等の果皮・果肉障害が発生した場合には、出荷時にこれらの果実の混入防止に細心の注意を払う。また、冬期に開花から結実を迎えるびわは、通常の袋掛けの上にアルミ蒸着袋を重ね掛けするなど、幼果の保温対策に努める。一方、落葉果樹では、主幹部への白塗剤の塗布、わら巻き等の防寒対策を行うとともに、樹勢の弱体化により凍害発生が助長される場合があることを踏まえ、湿害対策の励行、過度な着果負担の軽減等に努める。

<関連情報>

農研機構 HP「クリ凍害の危険度判定指標と対策技術マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/054889.html

② 雪害対策

降雪前の準備・点検として、緊急時に即時対応できるよう、除雪機の点検整備を行い、必要に応じ園地へのアクセスを確保（道幅のガイド設置、道普請等）しておく。また、早期の摘果・せん定（凍害が懸念される場合は粗剪定）を実施する。特に苗木・幼木や改植後間もない若木については、結束して樹冠を縮める、支柱により接木部を補強する等の対応を講じる。積雪時の野そ被害を低減するため、樹幹へのプロテクター等の巻きつけ、忌避剤の塗布や散布、殺そ剤の散布に努める。

積雪時の被害拡大防止のための対策は、安全が確保できる範囲で、樹園地を見回り、枝等の雪おとしを行う。雪に埋まった枝は沈下しないうちに可能な限り掘り起こし、困難な場合は、スコップで雪に切れ目を入れるか、樹冠下の雪踏みを行う。落下した果実は、農薬散布から収穫までの経過日数に留意し、必要に応じて低温保管、選別の徹底、早期出荷等に努める。資材による雪面の黒化による融雪を行う場合は、施用する資材に含まれる肥料成分含量に留意し、春肥の調整を行う。

③ 凍霜害対策

晩冬から春先が高温傾向で推移した場合や発芽・萌芽が平年と比較して早期に観測された場合等、凍霜害の発生が懸念されることから、気象予報機関の発表する低温に係る予報や営農指導機関の指導に沿って、防霜ファンの稼働、燃焼資材の活用等により凍霜害の発生防止に努める。

なお、以下のような気象条件においては、凍霜害発生リスクが高まるので留意する。

- ・夜間を通じて上空に雲が無く、風が弱い場合（放射冷却が予想される状況）
- ・夕方の湿度が比較的低い場合

燃焼資材を活用して空気を循環することで凍霜害を防ぐ場合は、火災防止等の観点から周辺環境に十分配慮し、固形燃料や灯油、軽油等ばい煙の発生が少ない燃料を使用する。凍霜害の発生が懸念される場合や、品種間の開花時期の不揃い、訪花昆虫の活動低下に伴う受粉の不良等による結実不良が懸念される場合は摘蕾・摘花を控えめに行う。特に凍霜害に弱い樹種・品種の摘蕾・摘花作業は作業適期の範囲でできるだけ遅らせる。確実な結果のため、人工授粉等を含め基本的技術を励行することとした上で、蕾や開花の時期に凍霜害の発生が懸念される場合は、残存花への人工授粉を行い、結実の確保に努める。

幼果が凍霜害を受けた場合は、果実の状態を十分観察した上で摘果を実施する。病害虫の早期発生が懸念されるため、果樹園での発生状況や病害虫発生予察情報等に留意し、適時適切な防除に努める。また、罹病部位の除去等ほ場の衛生管理に努める。

草生栽培において下草が伸びた状態や、敷きワラ等のマルチ栽培は、日中の地温の上昇や夜間の土壌からの放熱を妨げ、園内の冷却を助長することから、下草は常に低く刈り込むとともにマルチは凍霜害の危険期を過ぎてから行う。

<関連情報>

農林水産省 HP「果樹における凍霜害防止策の徹底について（農産局果樹・茶グループ長通知）」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/attach/pdf/gijyutu_sido-189.pdf

農研機構 HP「果樹凍害の発生要因と対策技術マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/168743.html

農研機構 HP「クワ凍害の危険度判定指標と対策技術マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/054889.html

福島県総合農業センター果樹研究所「落葉果樹の晩霜害対策マニュアル」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/kihon_sisin/attach/pdf/sisin3-3-11-2.pdf

④ 冷害等対策

日照不足、低温、過湿等に対しては、人工受粉の励行等による結実の確保、排水対策、窒素質肥料の低減等による肥培管理の適正化に努める。

(3) 高温対策

高温障害に対しては、栽培管理における基本技術を徹底した上で、症状に応じた技術的対策を講じる。具体的には、成熟期が高温で推移した場合に見られる果実の着色不良に対して、みかんではマルチ栽培等による光環境や水分制御、りんごでは樹冠内光環境の改善や反射シートの活用及び優良着色系統の利用、ぶどうでは環状剥皮等によって着色を促す。その際、着色を待つ間に果実が過熟とならないよう注意する。強い日射、高温、少雨等によって果実の日焼けが発生しやすい条件の出現が想定される際は、日陰に果実を成らせる栽培管理、適切なかん水や各種資材による遮光等の対策に努める。かんきつ類の浮皮は高温によって助長されるおそれがあるので、各種植物生育調節剤の活用や貯蔵時の温度等の適正管理を励行する。秋から初冬にかけての高温では耐凍性獲得の遅れに伴い、早期の気温低下による凍害の発生が懸念されるため、日頃から土壌改良等を実施し樹体の耐凍性向上を図る。早春の高温により発芽・開花が前進する場合、晩霜害の発生が懸念されるため、必要に応じて防寒対策に努める。冬季の高温による日本なしの発芽不良対策としては、発芽促進剤の利用、施肥の改善等によりその防止に努める。また、施設栽培においては、低温要求量を十分満たせるよう加温開始時期を調節するとともに、発芽促進剤のある品目については、その適期使用に努める。

<関連情報>

農林水産省 HP「果樹農業の振興を図るための基本方針（果樹農業振興基本方針）」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/fruits/attach/pdf/index-198.pdf>

農林水産省 HP「果樹における高温に伴う農作物等の被害防止に向けた技術指導の徹底について（農産局果樹・茶グループ長通知）」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/attach/pdf/gijyutu_sido-196.pdf

農研機構 HP「浮皮軽減のための技術情報(2014.12改訂版)」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/030159.html

農研機構 HP「施肥時期の変更を中心としたニホンナシ発芽不良対策マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/077258.html

農研機構 HP「被覆資材によるリンゴ日焼け軽減マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/080314.html

(4) 干ばつ対策

干ばつ常襲地域等では、果樹の休眠期に深耕を行い、有機物等を投入するとともに、適宜浅い中耕を実施する。干ばつ期においては、用水の確保に努め、敷わら、敷草等により、土壤水分の蒸発を極力抑制しつつ、適宜かんがいを実施する。草生園においては、干ばつ期の草刈りを実施し、防水透湿性シートによるマルチ栽培を行っている園地においては、かん水チューブによるドリップかんがい等により、地表面への直接かん水に努める。干ばつ時に発生し易いハダニ類については、発生動向に十分注意し、適期防除を実施する。

<関連情報>

農研機構 HP「新・果樹のハダニ防除マニュアル ―<w天>防除体系―」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/130513.html

(5) 台風対策

① 予防対策

事前に防災網や果樹棚、マルチ資材の点検・補修を行うほか、倒伏しやすい樹体は支柱により補強する。また、農薬使用基準（散布から収穫までの経過日数）に留意しつつ、事前に収穫可能な果実をできる限り収穫する。強い雨風が予想される地域では、かんきつかいよう病やモモせん孔細菌病等の発生・感染拡大が懸念されるた

め、防除基準に基づき薬剤散布を行うとともに、既に罹病葉等がある場合には園外へ処分する。

② 事後対策

落下した果実については、農薬の使用状況を確認した上で、傷の程度等によって選別し、必要に応じて冷蔵庫等で貯蔵する。また、りんごについては、果汁のパツリン汚染を防止するため、土壌に触れた果実は原則果汁原料用には利用しない。やむを得ず利用する場合には、低温保管、早期利用、腐敗果の選別等を徹底する。潮風害を受けた場合は、直ちに水をかけ除塩作業を行い、除塩できずに落葉、落果等の被害を受けた場合には、白塗剤の塗布、液肥の散布、摘果等を実施し、秋枝の処置に留意した上で、冬季の寒害対策として、寒冷紗や不織布等により防寒に努める。

<関連情報>

農研機構 HP「果樹の災害対策集」

<https://www.naro.go.jp/laboratory/nifts/kajyusaigai/>

(6) 大雨対策

① 予防対策

傾斜地の園地においては、排水路の設置、草生、敷わら又は敷草により園地の崩壊、土壌の流亡等を防止する。また、長雨時の病害の発生に十分注意し、防除を徹底する。マルチ栽培は、降雨遮断により雨水の園外排水量が増加し、土砂崩れや石垣の崩壊等につながる可能性があるため、排水路、排水溝を整備・清掃する。

② 事後対策

浸水や冠水等を受けた園地においては、速やかな排水を行うとともに、枝、葉及び果実に付着した泥の洗浄に努める。流入・堆積した土砂は可能な限り早急に除去する。園地全体の土砂を取り除くことが出来なければ、樹冠下部だけでも取り除くようにする。防除用設備（配管、水槽、スプリンクラー、防除機材等）が破損するなど、既存の管理・防除手段が使えなくなった場合には、他の管理・防除設備等の手配など、代替手段の確保に努め、適期防除を徹底する。

(7) ひょう害対策

ひょう害の発生しやすい地域においては、多目的防災網を設置するなど、恒常的な対策を講じ、被害の発生を未然に防止する。摘果前に被害を受けた場合には、枝葉の損傷程度に応じてできる限り優良果を残す。また、摘果後に被害を受けた場合には、一週間程度は樹相を観察した後、枝葉の損傷程度に応じて摘果する。

<関連情報>

農研機構 HP「果樹の災害対策集」

<https://www.naro.go.jp/laboratory/nifts/kajyusaigai/>

(8) 被害を受けた樹体の回復対策

被害程度に応じて、せん定及び摘果を実施し、生育の回復に努めるとともに、病虫害の防除を適切に実施する。落葉した場合は、被害時期や被害程度に応じて日焼けや樹脂病等の防止のため白塗剤を塗布する。倒伏した場合は、健全な根を切らないようにできる限り早く引き起こし、支柱を添えて固定する。枝裂けした場合は、針金、ボルト等で結合し、傷口に塗布剤を塗る。

12 花き

(1) 災害等に備えるための保険加入

花きは、夏季の高温による開花期の前進・遅延、秀品率の低下などの被害が発生している。

災害等対策の基本として、自然災害などのリスクに対しては、農業者自らが備えることが重要であるため、青色申告者には収入保険への加入を勧める。また、ハウス栽培の場合は、ハウスの損害に備えて、園芸施設共済等に併せて加入するよう勧める。

(2) 低温対策

① 寒害対策

露地栽培等における発芽期、定植後の幼苗期、多年草の越冬期には、不織布などの被覆資材のべたがけやマルチング等により地温を上昇させる。育苗に当たっては、外気温が低い時期には施設内が多湿となり、病害発生に好適な環境となり得るため、低温障害を受けないよう留意しながら、十分な換気を行う。また、病害が発生した場合には、速やかに防除を実施する。

② 雪害対策

育苗床の設置に当たっては、日照、風向等の環境条件を十分に考慮するとともに、除雪や融雪促進剤の散布を行い、適期育苗に努める。また、作付予定地等において平年よりも融雪が相当に遅延すると見込まれる場合には、除雪、融雪促進剤の散布等による融雪とほ場内からの排水を促進することにより、地温の上昇及び湿害の防止に努める。

③ 凍霜害対策

日照、風向等を考慮して凍霜害を回避できる適地をあらかじめ選定する。また、早蒔き、早植えを極力避け、健苗の育成に努める。定植後は、必要に応じ、フィルム被覆等により被害を回避するとともに、被害が発生した場合には、欠株の補植、被害の状況に応じた速効性肥料の施用等適切な肥培管理により被害の軽減に努め、さらに適切な病害虫防除を実施する。

④ 低温・長雨・寡照対策

気象の推移に十分留意し、排水路の整備等による排水対策のほか、必要に応じて葉面散布等による追肥を行う等、適正な栽培管理に努め、草勢の回復を促進する。低温・多湿により、病害の発生が助長されるので、発生状況に応じて薬剤散布を実施するとともに、感染源となる病葉及び病株を早期に処分する。また、施設栽培では、多湿にならないよう、施設内の空気循環や換気を行うとともに、日照不足による軟弱徒長を防ぐため、温度や養水分等を適切に管理し、曇雨天が続いた後の強光による葉焼けを防止するため、光量に応じてきめ細かく遮光資材を開閉する。

(3) 高温対策

近年の夏季の高温状況を踏まえ、高温による開花遅れや生育障害、病害被害を軽減するため、必要に応じて高温耐性品種を選定する。

かん水は、立地条件や品目、生育状態等を十分考慮し、早朝・夕方に実施する。施設内でのかん水は、湿度が高くなりやすくなることから、夜間や曇雨天の日中には、通風するなどして湿度を下げる。

切り花については、朝・夕の気温の低い時間に採花し、常温で長時間放置しない。また、エチレンによる劣化を防ぐため前処理剤を使用し、品質の維持に努める。

施設栽培では、施設内の温度上昇を抑制するため、妻面・側面を開放するとともに、作物の光要求性に応じて、遮光資材等を使用する。細霧冷房装置、換気装置等を設置している施設では、当該装置を有効に利用して適切な温度及び湿度の管理に努める。

<関連情報>

農林水産省 HP 「花きにおける高温対策」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kaki/flower/f_kouon.html

(4) 干ばつ対策

かんがい施設の整備等による用水の確保に努めるほか、露地栽培では、土壌の保水力を高め、根を深く張らせるために、深耕、有機物の投入等に努める。ハダニ類、

アブラムシ類等、干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫については、その発生動向に十分注意し、適期防除に努める。

(5) 大雨・台風対策

① 予防対策

園芸用施設については、防風対策として、防風網の設置、施設周辺の清掃等を行うほか、フィルムの取付金具の点検や抑えひもの固定等を行う。露地栽培の草丈の低い花きについては、寒冷紗等で被覆し、草丈が高く支柱を立てている花きについては、支柱の点検・補強を行うとともに、ほ場の周囲に防風網を設置し風害に備える。

<関連情報>

農研機構 HP「キク等の台風等停電時対策マニュアル」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/074235.html

② 事後対策

冠水又は浸水したほ場については、排水ポンプによるくみ上げ等により速やかな排水に努める。また、倒伏した株は早急に立て起こし、茎や花穂の曲がりを防止するとともに、折れた茎葉は除去し、適切な薬剤散布等により、病害の発生防止に努める。被覆資材、支柱、防虫ネット等の資材や栽培施設についてはできる限り早期に点検・修復を行い、特にキク等の栽培に係る電照・補光関連設備（電球、タイマー等）については、速やかに作動状況の点検を行う。潮風害を受けた場合には、できる限り速やかに散水による除塩作業を実施するとともに、肥料が流亡した場合は、土壌分析を実施し、適正量の肥料を施用する。また、施設栽培においては、台風通過後、強い日射により園芸用施設内温度が急上昇し、高温障害を生じやすいので、フィルム巻上げ等の換気操作を行う。

(6) ひょう害対策

被害発生時には、欠株の移植、追肥等を的確に行い生育の回復に努める。また、折損した茎葉の除去と薬剤散布を的確に行い、病害の発生を防止する。

1.3 園芸用施設の風害・雪害対策

(1) 災害等に備えるための保険加入

園芸用施設は、近年、地震や台風、豪雪などの災害により、倒壊などの被害が多発している。

災害等対策の基本として、自然災害などのリスクに対しては、園芸施設共済等への加入により、農業者自らが備えることが重要である。ハウス本体は園芸施設共済等への加入を勧めるとともに、青色申告者にはハウス内の農作物の損害に備えて収入保険に併せて加入するよう勧める。

なお、園芸施設共済は、新築時の資産価値（被覆材を除く。）まで補償する特約や1万円を超える損害から補償する特約が設けられるなど補償が充実している。

(2) 共通

育苗施設、栽培施設及び集出荷施設等の施設点検に努め、必要に応じて補強・破損箇所の補修等を行う。停電が発生した場合に備え、天窓・側窓・カーテンの手動開閉について操作器具や足場の準備、必要なかん水量の貯水、非常用電源が確保できる場合には事前に動作確認を行う。

<関連情報>

農林水産省 HP「施設園芸の台風、大雪等被害防止と早期復旧対策」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/saigaitaisaku.html>

(3) 風害対策

① 予防対策

ハウス内部に補強材を設置することにより側面、妻面、屋根面等を補強し、構造強化を行う。また、基礎部や谷樋等の腐食、サビ、ブレースや筋かいの留め金具の緩みや被覆材等も点検し、必要な補修等を行う。ハウス周辺は清掃し片付けておき、特にガラス温室の周辺は入念に行う。また、ハウス周辺の地面は、雨水の滞留やハウス内への侵入がないよう整備し、谷樋や排水溝等は常に清掃し、雨水を速やかに排除できるようにしておく。最新の気象情報を常に確認し、台風等襲来前は「農業用ハウスの災害被害の防止に向けた技術指導の徹底について」（農林水産省）のチェックリストを活用して保守管理に努める、倒壊の危険がある強風が予想されるときは、あらかじめ被覆材を除去し、切断除去する場合は、事前に農業共済組合等に連絡する。停電に備え、手動換気やカーテンの手動開閉等の作業内容の手順の確認、かん水用水の貯水、非常用電源が確保できる場合は事前に動作確認をしておく。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業用ハウスの災害被害の防止に向けた技術指導の徹底について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-34.pdf>

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-35.pdf>

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-36.pdf>

② 事後対策

台風通過後は作業者の安全確保を最優先とし、施設の安全が確保された時点でハウス各部、被覆資材、支柱、防虫ネット等の資材を点検し、必要に応じて補修する。環境制御装置や電照・補光関連設備（電球、タイマー等）については、速やかに作業状況の点検を行う。停電が発生した場合は、速やかに手動、また非常用電源の作動による換気や寒冷紗の展張等で高温防止対策を行う。また、作物の萎れが予想される場合、速やかに手動、また非常用電源によるかん水を行う。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業用ハウスの災害被害の防止に向けた技術指導の徹底について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-34.pdf>

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-35.pdf>

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-36.pdf>

(4) 雪害対策

① 予防対策

気象情報を注視し、「平成 26 年 2 月の大雪被害における施設園芸の被害要因と対策指針」（一般社団法人日本施設園芸協会）や降雪が少ない地域（寡雪地域）における雪害対策の手引き「寡雪地域における温室の雪害対策」（農研機構）を参考に、温室の連棟形式や暖房機の有無等を踏まえ、施設の補強や融雪の促進等により作業の安全確保と施設の保守及び施設内作物の保護に万全に期する。直前は、指針のチェックリストを活用して保守管理に努め、倒壊の危険がある降雪が予想されるときは、あらかじめ被覆資材を除去し、切断除去する場合は、事前に農業共済組合等に連絡する。停電に備え停電時の作業内容の手順の確認、かん水用水の貯水、非常用電源が確保できる場合は事前に動作確認をしておく。

<関連情報>

農林水産省 HP「大雪による園芸施設被害の防止に向けた技術指導の徹底について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-29.pdf>

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-30.pdf>

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-31.pdf>

農林水産省 HP「平成 26 年 2 月の大雪被害における施設園芸の被害要因と対策指針」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-12.pdf>

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-8.pdf>

農研機構 HP「寡雪地域における温室の雪害対策 簡易手引き」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/tebiki20160215_1.pdf

② 事後対策

降雪中、降雪後の施設確認・除雪作業については、作業者の安全確保を最優先し、基本的に、降雪が収まり施設の安全が確保された時点で行う。除雪を行う場合は、ヘルメット等をかぶり、滑りにくい履物をはくなどし、複数人で作業を行うなど安全確保に努める。施設の被害が発生したときは、できる限り早期に施設の破損、倒壊状況等の点検を行うとともに、修復が可能な場合には、早急な修復により室温の確保に努め、低温による栽培作物の生育障害・枯死等の被害を防止する。ただし、屋根への雪が確認できる場合は内部への進入は控え、降雪が収まった後、施設倒壊の恐れがなくなったことを確認の上、施設各部の損傷や緩み等総点検する。施設倒壊の恐れがなくなった後、屋根・軒下・ハウス間の積雪は、次回の降雪に備えて直ちに除雪する。降雪前に被覆材を剥いだ場合でも、ハウスの軒高を超える積雪があった場合は、埋没したままにしておく、沈降圧による変形、破損等の原因になるため、パイプ部を早めに掘り出す。

<関連情報>

農林水産省 HP「大雪による園芸施設被害防止に向けた技術指導の徹底について」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-29.pdf>

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-30.pdf>

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-31.pdf>

農林水産省 HP「平成 26 年 2 月の大雪被害における施設園芸の被害要因と対策方針」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-12.pdf>

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/engei/sisetsu/attach/pdf/saigaitaisaku-8.pdf>

農研機構 HP「寡雪地域における温室の雪害対策 簡易手引き」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/tebiki20160215_1.pdf

1 4 畜産

(1) 災害等に備えるための保険加入

牛、馬及び豚の死亡、廃用、ケガ、病気などのリスクに対しては、農業者自らが備えることが重要であるため、家畜共済に加入するよう勧める。また、家畜共済では対象とならない生乳や肉用鶏の販売収入の減少に備え、収入保険に加入するよう勧める。

(2) 家畜

① 暑熱・寒冷・融雪対策

ア 暑熱対策

飼育密度の緩和、換気扇や扇風機による畜体等への送風や散水・散霧を行い、家畜の体感温度の低下に努める。

寒冷紗やよしずによる日除け、屋根裏・壁・床への断熱材の設置、屋根への消石灰の塗布等により、畜舎環境の改善に努める。

良質で消化率の高い飼料の給与、ビタミンやミネラルの追給及び清浄で冷たい水の給与に努める。

観察の頻度を増加させることにより、健康悪化の兆候がないか等、家畜の健康状態をよく把握し、快適性に配慮した飼養管理に努める。

なお、暑熱対策を含むアニマルウェルフェアに配慮した家畜の飼養管理については令和 5（2023）年 7 月に発出した「国際獣疫事務局の陸生動物衛生規約におけるアニマルウェルフェアの国際基準を踏まえた家畜の飼養管理の推進について」及び「畜種ごとの飼養管理等に関する技術的な指針」を参照のこと。

イ 寒冷対策

特に幼畜・幼雛について、消化器病や呼吸器病の予防のため、適切な防風・保温に努めるとともに、適切な換気にも配慮する。また、幼畜等の保温のための機器については、ガスホース、配線及び吊り下げ金具を含め、使用前に清掃や異常の有無を点検する等により、畜舎の火災の発生防止に努める。畜舎内やパドックが凍結した場合は、砂や融雪促進剤等の散布を行い、転倒等の予防に努める。

また、乳用牛及び肉用牛においては、飲水の凍結防止、飲水後の体温低下の抑制及び水槽周りの凍結による転倒防止が重要であり、飲水の加温や飲水器周辺への滑り止めマットの設置等の対策を講ずるよう努める。

ウ 積雪及び融雪対策

積雪による畜舎や家畜の事故防止を図るため、安全には十分に配慮した上で、早めの雪下ろし及び畜舎周辺の除雪に努める。積雪に伴う物流の遅延などに備え、あらかじめ飼料、燃料などについては、家畜を1週間以上飼養するために必要な分量を在庫量として維持するよう、計画的な生産や購入を行い、隔日で集乳されている場合は積雪前に出荷するなど生乳廃棄が生じないように努める。また、各地域において、あらかじめ行政機関や生産者団体等との連携により、あらかじめ停電や断水等の対応について確認し、被災時には自家発電機による搾乳や生乳冷却等について、早急に対応できるよう努める。

特に野生イノシシに豚熱の発生が認められる地域においては、積雪による防護柵の破損や、野生イノシシの柵の乗越えに注意する。

その他、これら対策を講じてもなお、不測の事態等により家畜が大量にへい死した場合に備え、被災後に早期に経営再開が行えるように、へい死した家畜の処理方法については事前に検討を行うこと。

<関連情報>

農林水産省 HP「高温に伴う農作物等の被害防止に向けた技術指導の徹底について」
https://www.maff.go.jp/j/chikusan/kikaku/lin/l_tiku_manage/attach/pdf/index_idouyoutesut-29.pdf

農林水産省 HP「積雪等に伴う農作物等の被害防止に向けた技術指導の徹底について」
https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/attach/pdf/gi_jyutu_sido-193.pdf

農林水産省 HP「アニマルウェルフェアに関する飼養管理指針」
https://www.maff.go.jp/j/chikusan/sinko/animal_welfare.html

② 大雨・台風等災害対策

ア 予防対策

畜産施設については、損傷、倒壊等を避けるため、必要に応じて補修を行う。

大雨による畜産施設への浸水のおそれがある場合は、明きよの施工等により排水に努め、家畜への被害が生じるおそれがある場合は、事前に避難場所を確認し、状況に応じて家畜を避難させる等の適切な処置を行う。家畜の避難に際しては、積込み前後の車両消毒、荷台における体液等の漏出防止措置並びに運搬後の車両及び資材の消毒等の防疫対応を徹底する。なお、避難先から元の農場へ家畜を戻す際は、避難時と同様に消毒等の防疫対応については徹底する。

各地域において、行政機関や生産者団体等との連携により、あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機による搾乳や生乳冷却等について、早急に対応できるよう努める。

飼料・燃料などについては、不測の事態を考慮し、家畜を少なくとも1週間以上飼養するために必要な分量を最低在庫量として維持するよう、計画的な生産や購入に努める。その保管場所については、河川の増水や土砂崩れのリスクも考慮し、分散して保管するなど工夫する。また、飲水についても貯留タンク設置やくみ上げポンプを準備するなどの対応を行うよう努める。

その他、これら対策を講じてもなお、不測の事態等により家畜が大量にへい死した場合に備え、被災後に早期に経営再開が行えるように、へい死した家畜の処理方法については事前に検討を行う。

イ 事後対策

天候が回復した後、直ちに畜産施設内及びその周辺の排水を行うよう努める。また、土砂が流入した場合には、再度の土砂流入等の事故に十分注意しつつ、土砂を除去するよう努める。

畜舎、牧柵、防鳥ネット等の施設に破損、汚染がないか確認し、必要に応じて補修、洗浄、消毒を行うよう努める。飲水に適した水の給与や飼養家畜の健康観察など、家畜伝染病予防法（昭和26年法律第166号）に基づく飼養衛生管理基準に沿った衛生管理を徹底し、家畜の伝染性疾病の発生予防措置を講じるよう努める。

水濡れ、土壌の付着などにより品質が低下した飼料の給与は、家畜への健康被害や畜産物を通じた人の健康への影響の懸念がある場合は中止する。健康への被害や影響が明らかでない場合には、家畜保健衛生所などの指示を仰ぐ。飼料の品質が低下しているもののこれらの影響が想定されない場合で、代替飼料が確保できないなどの理由によりやむを得ず給与する場合には、栄養価、嗜好性等にも配慮し、家畜の生産性が低下することのないよう注意する。

<関連情報>

農林水産省 HP「台風第10号の接近に伴う農作物等の被害防止に向けた技術指導の徹底について」

https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/attach/pdf/gi_jyutu_sido-192.pdf

(3) 飼料作物

天候に応じて迅速に管理・収穫作業等が行えるよう、共同作業の体制・準備を十分整えておくとともに、調製法についても、例えば乾草からサイレージに切り替える等、臨機応変な対応が取れる体制とする。

① 高温・干ばつ対策

草地については、過放牧、過度の刈り及び短い間隔での刈り取りを避け、貯蔵養分の消耗を軽減して草勢の維持に努める。また、夏枯れ等により草勢の低下が見られた場合には、必要に応じて追播や、播種直後の雑草防除等適確な維持管理作業を行う。

土壌条件等により高温の影響が大きく現れる地域では、有機質の投入などによる土壌保水力の改善を行うとともに、耐干性の優れた草種・品種の導入に努める。今後の高温により、急激に生長が進み作業時期が早まる可能性があることから、飼料作物の生育状況を踏まえた適期刈取・収穫作業を行う。

また、北海道でのイネ科牧草の単播においては、春の気温が高く干ばつ傾向にあることから、発芽不良の回避や春雑草との競合の軽減が可能となるとともに、農閑期に余裕を持って播種作業ができる、初冬季播種技術の実践を検討する。

青刈りとうもろこし、ソルガム等については、収穫期が近い場合にはコストに配慮しつつかん水に努め、かん水が困難又は草勢の回復が困難と見込まれる場合は、早期に収穫を行い品質低下の防止に努める。

② 冷害対策

冷害を受けやすい地域においては、草種・品種の組合せ等に留意し、被害を最小限に抑えるような栽培計画を立てる。特に、とうもろこしについては、冷害による被害が大きいため、早生系統の作付けを行い、適期播種に努める。

③ 台風・大雨対策

ア 予防対策

天気予報などにより天候の状況を注視し、飼料作物の管理・収穫作業等の計画を変更するとともに、収量や品質の確保のために、その調製法や時期についても、例えば乾草からサイレージに切り替えるなど臨機応変な対応を行う。特に飼料用とうもろこしについては、台風が接近、通過すると予想される場合、糊熟期以降であれば、収穫適期に達していなくても、被害軽減のために収穫作業を一部前倒して開始

することも検討する。また、降雨による冠水に備え、ほ場に明きよや暗きよを整備するなど、排水対策を講ずる。

収穫時期が集中しないよう、地域の条件に応じて、可能な範囲で早晚性の異なる品種を組み合わせる等、作期の分散化によるリスク分散に努める。裏作が可能な地域において収量の低下が見込まれる場合は、イタリアンライグラス等の早生品種を作付けして早期収穫することにより、越冬用粗飼料を確保する。また、二毛作が困難な地域においては、可能であれば、永年生牧草の三番草を収穫する。

とうもろこし、ソルガム等の作付けに際しては、耐倒伏性に優れる品種を選定するとともに、施肥管理や栽培密度に留意し、倒伏の防止を図る。その際、春先にスラリー散布を行ったほ場では、早期刈り取りを行う場合に飼料中の硝酸態窒素濃度が高くなる傾向にあることから、必要に応じて分析を行い、粗飼料中の硝酸態窒素濃度を確認する。また、台風の常襲地帯では、収穫が台風シーズンに当たらないよう作期の設定を行う。

イ 事後対策

冠水や浸水等の被害を受けたほ場においては、速やかな排水に努める。降雨が続く場合には、機械による収穫が難しくなったり、湿害等により生育不良等を招くおそれがあるため、小排水溝、落水口の設置等による排水の改善に努める。

倒伏した場合は速やかに収穫し、品質の低下を防ぐ。また、倒伏、冠水などにより、飼料作物が被害を受け、減収が懸念される場合などには、次期作を前倒しした作付けや、稲わら等の農産副産物の確保等により、粗飼料の量と質の確保に努める。

適期に収穫できず刈り遅れた飼料作物については、サイレージ調製時に添加剤を使用するなど品質確保に努めるとともに、家畜への給与の際は品質低下に留意し、適切な飼料設計等を行う。

④ 積雪及び融雪対策

融雪が遅く、雪腐病の被害が懸念される場合又は播種作業を早期に開始する場合には、必要に応じて融雪促進剤を散布するとともに、融雪水が停滞しやすいほ場では、適切な排水対策に努める。また、収量確保のため、融雪・排水後に周辺環境への影響にも配慮しつつ、速やかに追肥や追播を行うなど、適切な肥培管理に努める。

<関連情報>

農研機構 HP「気象リスクに対応した安定的な飼料作物生産技術の開発 技術紹介パンフレット」

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/139171.html

(IV) その他（農業技術総合ポータルサイト・農林水産「見える化」シリーズ（まるみえアグリ）サイト）

農業現場における技術的問題の解決に向けた環境整備を図るとともに、農業者や資材販売事業者、農産物流通事業者などの方々が、農業資材の調達先や農産物の出荷先などの情報を容易に入手・選択できるよう以下のサイトを開設した。

1 農業技術総合ポータルサイト

最新の技術や研究成果について農業者が活用しやすい環境を整備するため、農林水産省のホームページ等に分散しているこれらの情報を集約し、1ヶ所で確認・検索できる「農業技術総合ポータルサイト」を平成29（2017）年4月に開設。

2 農林水産「見える化」シリーズ（まるみえアグリ）サイト

農業経営に役立つ「見える化」システム（agreach、アグリサーチャー）のポータルサイトとして、「まるみえアグリ」を開設。

<関連情報>

農林水産省 HP「農業技術総合ポータルサイト」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kihyo03/gityo/gijutsu_portal/top.html

農林水産省 HP「まるみえアグリ（農林水産『見える化』シリーズ）」

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/nougyo_kyousou_ryoku/marumie/index.html

農林水産省 HP「農業資材価格の『見える化』」

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/mieruka/index.html>